ISSN 0912-8182

Vol. 68 通巻781号
昭和62年4月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1987 4

特集●躍動する東海へ



日本建築協会

Day by Day——きっといい明日

大阪ガス

福はうち、プリオール



お風呂、シャワー
サウナに暖冷房
みんなまとめて
暮らし極楽の
暖冷房・給湯システム

❶風呂・シャワー

プリオールの給湯機能は余裕の16号。お湯はりも短かく、シャワーも年間を通して楽しめます。さらに、風呂ヒーターで、追いだきも。

❷浴室換気乾燥機

浴室が洗たく物の乾燥室に早変り。雨の日でも夜でも安心して洗たくできます。

❸温水サウナ

低温の遠赤外線方式。わずかなスペース・維持費で、ホームサウナを実現します。

❹床暖房

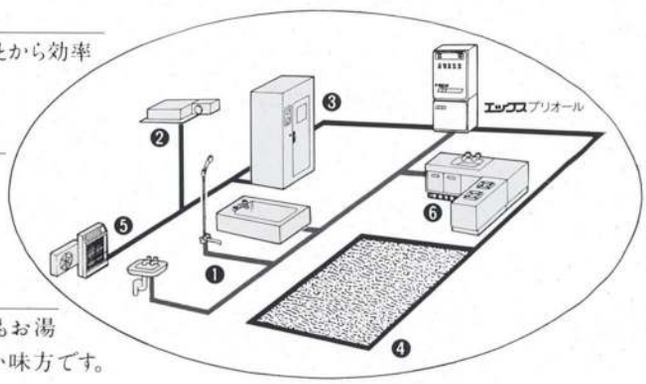
温水を利用したふく射熱で、足もとから効率よく部屋全体をあたためます。

❺冷暖房

空気の汚れない温水暖房ならではのマイルドな温風。もちろん夏は冷房もOK。

❻給湯

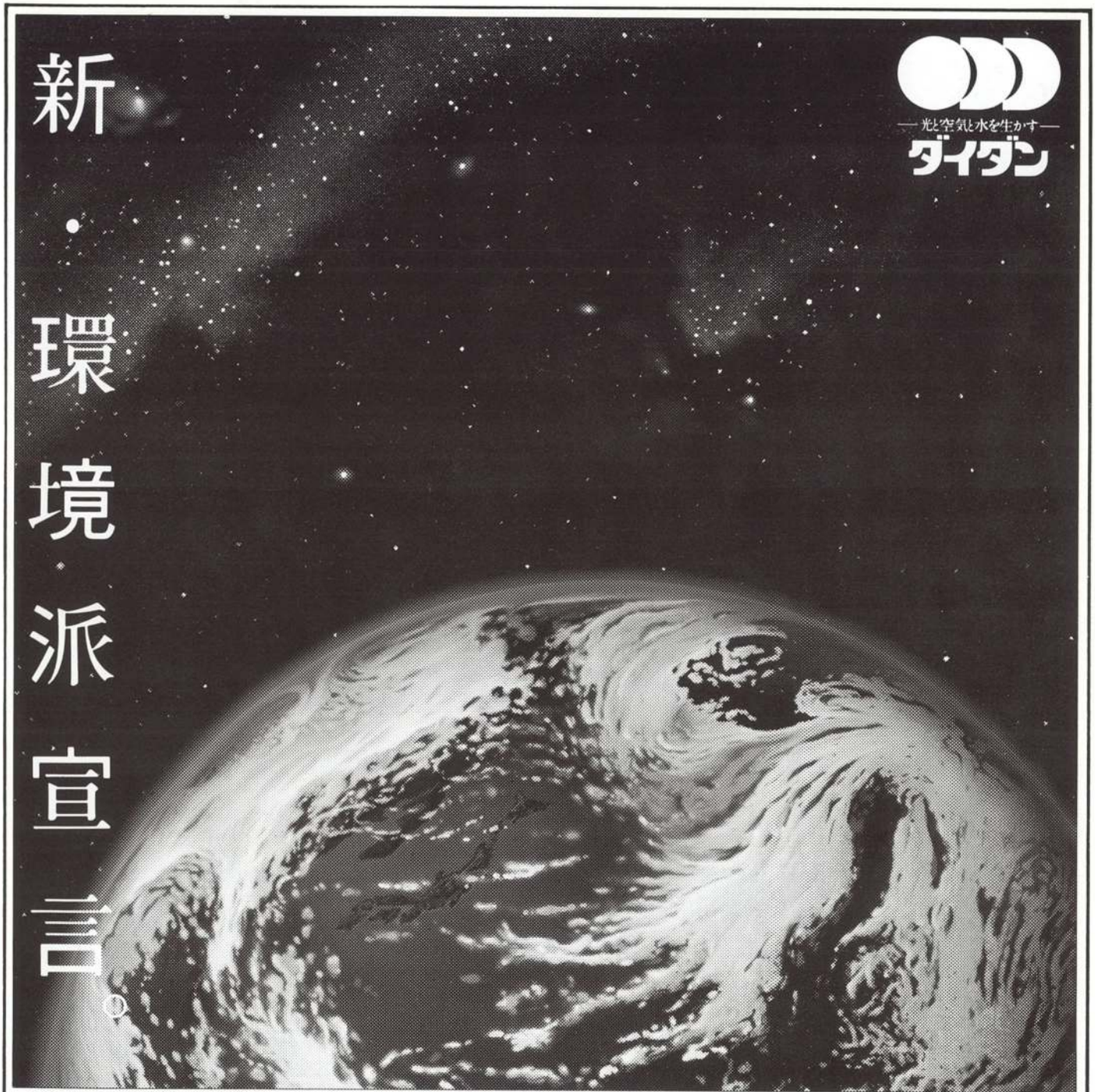
お台所はもちろん、洗面所などにもお湯がたっぷり。特に冬場にはうれしい味方です。



エックスプリオール
PRIOR

資料請求券

資料請求・お問い合わせは…〒541 大阪市東区平野町5-1大阪ガス営業部 エックスプリオール係まで TEL.06-202-2221



光をあらゆる伝達のパワーとして活用し、
空気をミクロの限界まで追い求め、水のクォリティをさらに磨く
総合設備企業ダイダンは21世紀の環境クリエーター。
ヒトに、技術に、より快適な理想の空間をトータルシステムで創造します。

昭和62年4月1日、「大阪電気暖房」から「ダイダン」へ社名変更いたしました。

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号
東京本社　東京都中央区銀座2丁目2番17号

企画：日本建築協会

プロのノウハウ　2色刷

建設税務研究会 著

建設業，土木業，不動産業の貴社にも役立つ税金対策の決定版!!

工務店の税金対策100ポイント

四六・224頁・定価1800円



土地区画のための交換は課税されない

目　次

- 請負工事の収益計上の時期
- 設計，監理料の収益計上の時期
- 延払条件付の請負契約
- 土地の交換分合と道路の付け替え
- 砂利採取地の埋め戻し費用
- 日照権等の補償金の支払い
- 有姿除却
- 展示用住宅の耐用年数
- 土地重課の対象となる仲介報酬
- 相当の地代

●トップレベルの税理士グループが豊富な経験を結集

税金対策は個人，法人ともに企業経営上，避けて通れない問題である．ところが，税法の解釈は難しく，処理上の間違いが生じて更正を受けたり，追徴されたりしているのが現実である．本書では，こうした失敗を繰り返さないために，Q＆A形式による具体例を簡潔に解説し，税法上の解釈を述べ的確なアドバイスを展開．経理処理のポイントを活かし，複雑な申告もこの一冊で全て解決．

プロのノウハウ　好評発売中

TQCから見た建設業　問題解決の決め手
荒木睦彦著 / 四六・192頁・定価1600円

軀体工事監理のチェックポイント100
須賀好富著 / 四六・224頁・定価1800円

パソコン会計術　設計事務所編
西部明郎著 / 四六・224頁・定価1800円

鉄骨工事の現場学
石田満裔著 / 四六・224頁・定価1800円

空調設備のトラブル50　建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著 / 四六・224頁・定価1800円

衛生設備のトラブル50　建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著 / 四六・224頁・定価1800円

〈目録進呈〉

学芸出版社　〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入 TEL 075(343)0811

企画：日本建築協会

プロのノウハウ　2色刷

松村秀一　監修

工業化住宅・考

四六・224頁・定価1800円

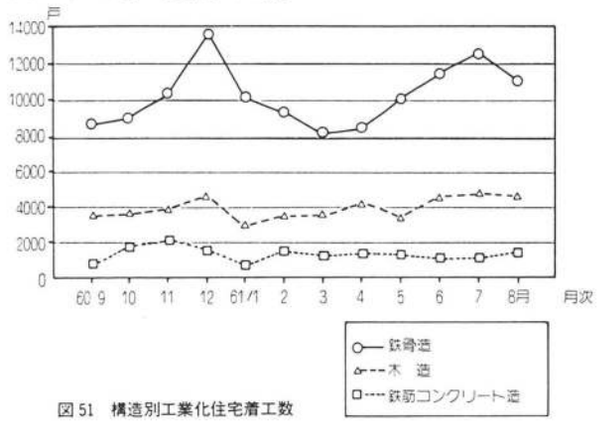


図 51　構造別工業化住宅着工数

これからのプレハブ住宅

工業化住宅とは何か？

●異なるメーカー間の情報交換を経て
今ここにその全貌を!!

今や新設される戸建住宅の約2割を占めている，プレハブ住宅の歴史や住まいづくりの仕組み等について，我々は正確な認識を持っているだろうか？本書では，業界内に閉ざされがちであったプレハブ住宅の問題について考え，情報を提供すると共に，工業化住宅は住宅生産全体の中でどのような位置づけにあり，今後どのような役割を担っていくべきなのかを探る．グローバルな視野に立ち，わが国の将来の住まいづくりの方向を考察し，又そのきっかけを与え再考を促す書である．

プロのノウハウ　好評発売中

TQCから見た建設業　問題解決の決め手
荒木睦彦著 / 四六・192頁・定価1600円

建築基準法の実際　基本問題40講
矢吹茂郎著 / 四六・224頁・定価1800円

建物の値打ちの高め方　ビル・マンションの新しい評価法
小林清周著 / 四六・208頁・定価1700円

衛生設備のトラブル50　建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著 / 四六・224頁・定価1800円

〈目録進呈〉

学芸出版社　〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入 TEL 075(343)0811

◀定時評議員会決議お知らせ

昭和62年３月26日開催の定時評議員会において、下記のとおり役員の改選、昭和62年度事業計画並びに収支予算が決まりましたので、ここに会告いたします。

(1)評議員会正副議長の選任

議長　高橋保夫 氏（錢高組）　**副議長**　多井幸男 氏（多井建築研究所）

1.昭和62年度会長・副会長・理事・監事

（敬称略）

	新(重)任	留任
会長		佐野正一（安井建築設計事務所）
副会長	松村雄二（松村組） 薬袋公明（日建設計）	足立孝（摂南大学） 市川宏（東畑建築事務所）
理事	大岡昇（大林組）	井上滉（高松組）
	片倉健雄（近畿大学）	岡本行善（昭和設計）
	高木登（住宅・都市整備公団）	金井弘次（日本建築総合試験所）
	中島一（愛知工業大学）	金多潔（京都大学）
（技術）	原桂一郎（大阪市都市整備局）	小島雄（鹿島建設）
	松岡照夫（大成建設）	西村良平（阪急電鉄）
	村上秀夫（大阪城ホール）	長谷部朔郎（日建設計）
	八十島健二（竹中工務店）	平田定男（平田建築構造研究所）
	米田元一（大阪府建築部）	松村慶三（浦辺設計）
		三品哲夫（大阪市建築技術協会）
（総合）	大林芳郎（大林組）	淺沼茂夫（淺沼組）
	奥村俊夫（奥村組）	板井亨介（熊谷組）
	錢高善雄（錢高組）	今村祐三郎（大阪建設業協会）
	竹中錬一（竹中工務店）	加藤久郎（戸田建設）
	成瀬宗（清水建設）	鴻池藤一（鴻池組）
	前野慶太郎（あめりか屋）	志賀修一（フジタ工業）
		藤木鐵三（藤木工務店）
（電気）	浅海正雄（浅海電気）	小林四郎（住友電設）
	武田恭一（近畿電気工事）	平尾勝（ダイダン）
（管工）	堀内史郎（第一工業）	織部壌（新菱冷熱）
	両角保（浦安工業）	杉浦敏郎（三機工業）
（建材）	立野一郎（ユニオン）	川岸繁夫（川岸窯業）
	中西孝（マンテン）	渡辺忠（東洋シヤッター）
事務局	松田至弘（専務理事） 吉田悦二（常務理事）	
監事	牧田顕治（新井組）	尾亀清四郎（三晃空調）

2.昭和62年度事業計画

本年度も、**会誌「建築と社会」**の充実をはかることを最重点とするほか、現行事業の活性化と、新規事業の企画に取り組む。

また、本年は日本建築協会の創立70周年に当たるので、別途に記念事業を行うが、一部の事業は一般事業の中でも行うことにしている。

なお、新幹線（大阪～東京）の割引切符の販売、サロンの利用、貸会議室など、会員へのサービス向上、会員相互の交流に役立つ雰囲気づくりに努める。

① **会誌「建築と社会」の発行**（Ａ４判変形・月刊）
② **〈プロのノウハウ〉と選書特装本の企画・発行**
③ **講習会などの実施**
　㋑建築工事実務講習会　㋺研修会
④ **工高生デザインコンクールの実施**
⑤ **工高建築科優秀卒業生への表彰状授与**
⑥ **若い会員の集い**
⑦ **各種見学会**
⑧ **その他**

3.昭和62年度収支予算

収入の部　　単位千円

大科目	中科目	予算額	積算内訳
会費収入		**66,892**	
	個人正会員	30,780	本部・支部会員
	〃	2,040	地方会員
	団体正会員	34,000	会社・団体
	準会員	72	学生
事業収入		**92,500**	
	会誌収入	70,000	普通10回特別2回増刊1回
	契約々款売上収入	2,000	
	会員名簿収入	9,000	隔年発行
	建築技術選書収入	4,000	企画料ほか
	集会収入	1,500	各種見学会ほか
	講演講習会収入	1,000	講習会・研修会
	雑収入	5,000	委託研究ほか
寄付金収入	寄付金収入	**700**	
雑収入	雑収入	**3,000**	預金利息ほか
積立預金取崩収入		**4,500**	借入金返済
創立70周年記念事業資金繰入額		**1,500**	
収入合計		**169,092**	

支出の部

大科目	中科目	予算額	積算内訳
事業費		**88,200**	
	会誌発行費	66,500	印刷費・広告手数料
	契約々款費	1,500	印刷費・委員会費
	会員名簿発行費	6,500	
	建築技術選書諸費	3,000	印税ほか
	集会費	2,000	
	講演講習会費	700	
	教育振興費	1,200	デザインコンクールほか
	助成金支出	1,800	支部費
	雑費	5,000	
管理費		**75,000**	
	給料手当	52,000	本給・賞与・諸手当
	退職金	1,000	
	退職給与引当金繰入額	0	
	福利厚生費	6,000	各種保険料
	会議費	1,800	
	旅費交通費	2,200	
	通信運搬費	1,200	電話料ほか
	集金費	1,600	郵便振替手数料ほか
	消耗品費	300	
	修繕費	100	
	印刷製本費	350	
	光熱水料費	400	電気代
	火災保険料	50	
	租税公課	1,900	固定資産税ほか
	清掃費	200	
	借入金利息	1,000	
	管理費	4,000	第３ビル使用料
	雑費	900	
借入金返済支出	借入金返済支出	**4,500**	
基金操入	基金繰入	**700**	寄付金
減価償却費	減価償却費	**100**	
予備費	予備費	**592**	
支出合計		**169,092**	

◀財団法人陽明文庫「虎山荘」を訪ねる

京都洛北の名刹、御室仁和寺の西方に近衛文麿公の別邸「虎山荘」が静かに建っています。

平安時代より五摂家の第一として、歴代天皇の御宸筆や貴重な古文書類などを伝承保管されている近衛家、同家の陽明文庫と併存して昭和18年に建設、今なお、往時の姿を格調高くとどめています。

今回は、財団法人陽明文庫のご厚意と株式会社藤木工務店のご協力により特別に見学させていただくことになりましたが、当日は、虎山荘の工事を直接担当されました長瀬清純氏をゲストにお迎えし、同所の客間にて、仕事を通じての設計者長谷部先生の素顔や施工当時の苦心談を伺うとともに、数寄屋造りの用材の使い方などのお話も伺う予定です。

会員の皆様のご参加をお待ちいたします。

日　　時　昭和62年5月19日(火)　集合14：00→解散16：30

集合場所　京都・御室仁和寺「山門」前付近・目標会旗

〔参考〕　ＪＲ「京都駅」・阪急「大宮」駅前より市バス「宇多野山越」行㉖番に乗車→「御室仁和寺」下車。（所要30～40分・料金160円）。京都「三条」駅前よりは市バス「宇多野山越」行⑩番と㊾番に乗車→「御室仁和寺」下車（所要約60分・料金160円）

⊙集合所から虎山荘へは徒歩にてまいります。（約10分）

ゲ ス ト　長瀬清純氏（元・藤木工務店、「虎山荘」施工担当主任）

定　　員　30名（会員限定）

参加会費　2,500円

申　　込　本会事業課まで葉書または電話にて、氏名・勤務先名及び所属部課名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号及び催し名称（虎山荘）をご連絡下さい。申込締切日５月12日(火)。定員超過の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りいたします。（日本建築協会事業課：〒530 大阪市北区梅田１丁目１－３－2100　大阪駅前第３ビル・21Ｆ　TEL 06－348－0633）

●虎山荘（旧・近衛文麿別邸）

所在地　京都市右京区宇多野上ノ谷町１－２
管　理　財団法人陽明文庫
設　計　長谷部竹腰建築事務所（担当：長谷部鋭吉他）
施　工　株式会社藤木工務店
　（担当：長瀬清純　大工棟梁：保野忠蔵）
規　模　約100坪（数寄屋建築）
竣　工　昭和18年

「虎山荘」全景



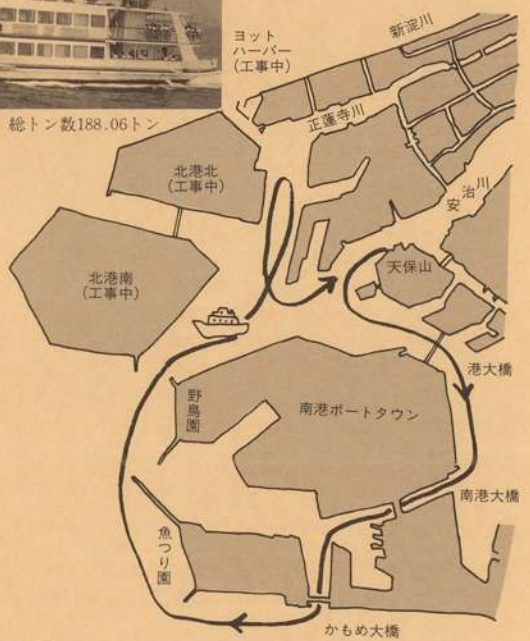
◀21世紀へ向かって発展していく大阪港を見る——大阪市・広報船〝水都〟で海上巡り——

国際都市大阪の海の玄関口として着々と発展していく大阪港。ほぼ完成した大阪南港につづき、現在、北港の土地造成・開発整備が進められておりますが、今回、大阪市港湾局のご協力により、市の広報船〝水都〟に乗船し、港大橋・南港大橋・かもめ大橋などを海から眺めるとともに、南港・北港の新しいまちづくりの現状を見てみたいと思います。水際から見る大阪港、思わぬ発見があるかもしれません。

多数の方のご参加をお待ちいたします。



〝水都〟全長32.10m　総トン数188.06トン
最大速力14ノット



日　　時　5月26日(火)　集合13：30→解散15：00

集合場所　天保山岸壁（大阪市港区海岸通１丁目）・目標会旗
ただし、大阪・地下鉄中央線「大阪港」（終点）下車、北へ向かって徒歩５分

説 明 者　大阪市港湾局ご担当者

定　　員　60名

参加会費　会　員　600円
　会員外　800円　} 当日受付にていただきます。

申　　込　電話または葉書にて受付いたします。参加ご希望の方は住所・氏名・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号及び催し名称（大阪港海上巡り）を本会事業課までご連絡下さい。申込締切日５月18日(月)。定員超過の場合は抽せんにて決定の上参加証をお送りいたします。
（日本建築協会事業課：大阪市北区梅田１－１－３－2100　大阪駅前第３ビル21階　TEL 06－348－0633）

見学と懇親の旅●予告

◀播州・備前路を訪ねて

●詳細は「建築と社会」・５月号に会告いたします。

日　　時　昭和62年6月19日(金)・20日(土)
〈一泊二日〉
（全行路貸切バス利用）

定　　員　40名

参加会費　会　員　10,000円
　会員外　13,000円　}（予定）

主な見学先（予定）
- 兵庫県立歴史博物館
- 関西電力赤穂火力発電所（工事中）
- 特別史跡・閑谷学校
- 鶴林寺
- 浄土寺
- 兵庫県フラワーセンター

展覧会と講演会

◀伝統美とポストモダン―出江寛建築展

主催　社団法人日本建築協会
協賛　新日軽株式会社



――数寄屋とは創造性である。
創造性とは放蕩無頼性のなかにこそ存在する。コンクリート、ペンキ、あるいはアルミ等であっても、数寄屋をつくり出すことは可能であると信じて疑わない。

と語られる出江寛氏は、日本の伝統的な精神性なり美意識を現代の素材と新しいかたちで蘇生させることに価値を見出すという手法で、住宅をはじめ事務所ビル、商業施設、教会など、幅広く創作活動をしておられます。

この展覧会は、出江氏の「無機質（非情）な素材を表現の媒体として情緒あるものをつくりだす」ということをコンセプトとして創作された建築作品を、写真と図面、模型によって紹介するもので、氏の手によるスケッチでは、デザインをいかに考え、創造していくのかという創作過程を見ることができます。

また、展覧会開催期間中の５月27日には展覧会場の隣の文化情報センター（多目的ホール）にて、スライドを交えての講演会も予定しております。奮ってご参加下さい。

■展覧会　「伝統美とポストモダン――出江寛建築展」

開催期間　1987年５月25日(月)→30日(土)
午前10時～午後６時（入場無料）
ただし、最終日（30日）は午後４時まで。

会　場　大阪府立現代美術センター（住友中之島ビル・５階）
（大阪市北区中之島３－２－18　TEL 06－445－6665）
●ただし、地下鉄四ツ橋線「肥後橋駅」下車、４番出口から西へ50m。（朝日新聞社の西隣）
●または、ＪＲ大阪駅、阪急・阪神梅田駅から四ツ橋筋を南へ徒歩約15分。京阪淀屋橋駅からは西へ徒歩10分。

■講演会　「伝統美とポストモダン」――スライド併用――

日　時　1987年５月27日(水) 開場13：30 開会14：00→閉会17：00

会　場　大阪府立文化情報センター・多目的ホール
（住友中之島ビル・５階）

講　師　出江　寛氏（出江寛建築事務所・所長）

定　員　150名

参加会費　会　員　1,000円
会員外　1,200円
当日受付にていただきます。

申　込　電話またはハガキにて受付いたします。

講演会に参加ご希望の方は本会事業課まで氏名・勤務先名（学校名）・連絡電話番号・参加証送付先及び所在地・郵便番号・催し名称をご連絡下さい。申込締切５月21日(木)。定員超過の場合は抽せんにて決定の上参加証をお送りいたします。（日本建築協会事業課：大阪市北区梅田１－１－３－2100　大阪駅前第３ビル・21Ｆ　TEL 06－348－0633）

■出江寛氏ご紹介

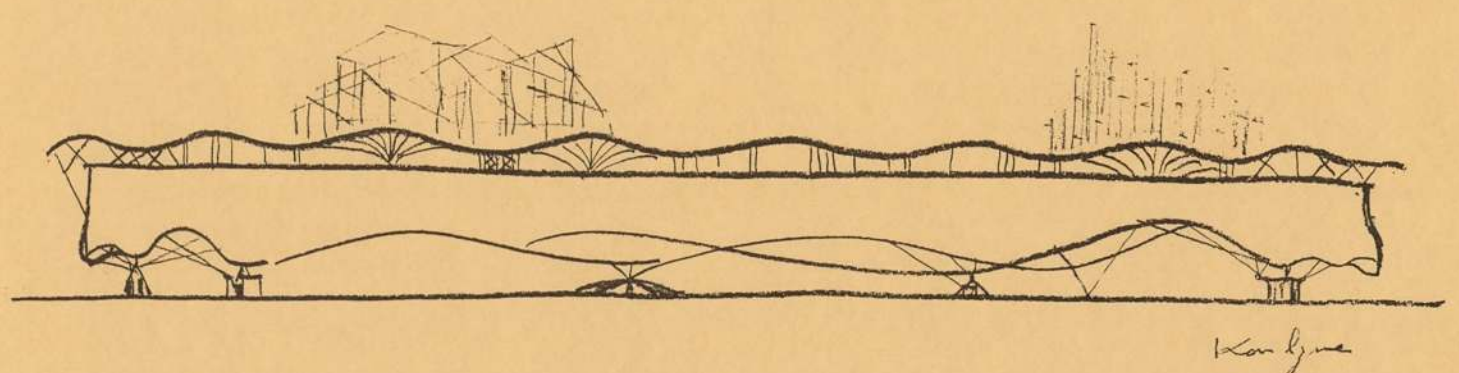
●略歴
1931年　京都市に生まれる
1951年　京都市立伏見高等学校建築科卒業
1957年　立命館大学工学部土木工学科卒業
1959年　竹中工務店大阪本店設計部入社
1976年　出江寛建築事務所設立
1986年　ドイツ講演（アーヘン大学・ダルムシュタット大学・ハノーファー大学・ブラッシュバイク大学・ベルリン工科大学）

●主な設計競技
昭和34年　埼玉県飯能市公会堂（入選）
昭和41年　セントラル硝子（最優秀賞）
昭和42年　万国博本部（入選）
昭和44年　最高裁判所（佳作入賞）
昭和60年　全労済会館（１位入賞）
昭和61年　第二国立劇場（佳作入賞）
昭和62年　愛知県新文化会館（佳作入賞）

●主な受賞作品
昭和53年　山水商事中舌鳥給油所（第24回大阪府知事賞）
昭和55年　谷崎邸ゲストハウス（第26回大阪府知事賞）
昭和56年　心斎橋タワービル（商空間デザイン賞'81優秀賞）
昭和59年　岡慶東京支店（商空間デザイン賞'84優秀賞）
昭和59年　グラビビル（商空間デザイン賞'84佳作賞）
昭和59年　逆瀬台の家（日本のインテリアデザイン賞優秀賞）
昭和60年　レストランサンパーク　サンストリートクラブ（商環境デザイン賞'85佳作賞）
昭和61年　ホテル　リバティ（商環境デザイン賞'86優秀賞）
昭和61年　BOOK　PORT（商環境デザイン賞'86佳作賞）

●主な作品
神戸ポートピア松下館・ソーラーピラミッド
基督兄弟団西宮教会
大阪府立交野自立センター
丸亀の家、北摂の家、嵯峨野の家、坂出の家ほか
広島ＭＩＤビル

●主な著書
「住宅設計の詳細―出江寛作品集」住宅建築別冊
「家々」学芸出版社
「日本の建築家５・出江寛」丸善
その他多数



〈プロのノウハウ〉シリーズ第9弾

◀「工務店の税金対策―100ポイント」（建設税務研究会著）刊行

税法は、法律、政令、省令、告示、通達等の膨大な条文で正確を期した上、例外を認める租税特別措置法も加わり、難解極まりないもののように思えます。

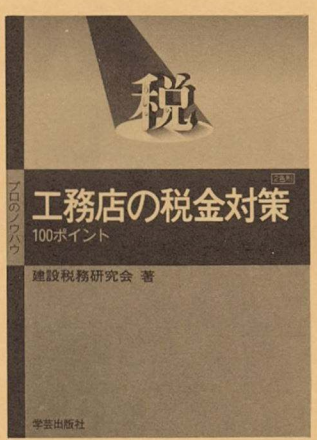
税制を知らないばかりに不利益を蒙ることもあるかもしれません。しばしば処理上の間違いを生じて、税務調査等において更正を受けたりして、思わぬ税金の負担に苦しむことも多いと思います。

本書は、こうしたことを避けるため、税理士として関係企業から質問を受けた身近な事例を中心に各テーマを構成し、わかりやすい解答と税法上の解釈をQ＆Aの形式で述べて処理のポイントを解説しています。

事例の選択は法人組織の工務店を対象にしていますが、一般の企業にも適用できる例も多く含まれています。したがって、建設業、土木業、不動産取引業、あるいは建築主にも、十分参考になる内容となっています。

執筆にあたっては、より多くの知識や経験を結集するため、このテーマにとくに関心をもつ在阪の税理士5人（代表：内藤行雄、石谷隆一、伊勢晋一、田中外喜雄、吉原敏夫）が〈建設税務研究会〉を結成し、毎月の研究会でテーマをしぼり、分担執筆し、推敲を重ねました。

4月10日発行の本書は、定価1800円ですが、本会事務局でお求めの場合は、100円割引で頒布しています。



〈100ポイント抜萃〉
- 法人の設立
- 有限会社から株式会社に組織変更
- 請負工事の収益計上の時期
- 設計、監理料の収益計上の時期
- 長期工事の収益計上の時期
- 延払条件付の請負契約
- 日照権等の補償金の支払い
- 広告宣伝用資産等の受贈益
- 用途変更のための改装費用
- 有姿除却
- 埋蔵文化財の発掘費用
- ソフトウェアの開発費用
- 役員賞与と使用人兼務役員
- 社葬費用と香典
- 子会社に対する債権放棄
- 不服申立て

〈プロのノウハウ〉シリーズ

◀「工業化住宅・考―これからのプレハブ住宅」（松村秀一監修）刊行

日本ほど大量に戸建ての工業化住宅が生産供給され、社会に定着している国を、他に見出すことはできません。しかしながら、プレハブ住宅の生産供給の仕組みについて、その概要すら正確に把握している人は少ない状況です。

これは、スタイルやプラン、価格といった「商品」としてのプレハブ住宅の特性を伝えるユーザー向け情報誌はそこそこに散見されるのに、プレハブ住宅の歴史や住まいづくりの仕組みについて正確な情報を伝える媒体が欠如していることにも起因するでしょう。

この欠如している媒体を補い、今後の住まいづくりの方向、プレハブ住宅の担うべき役割についてじっくり考えていただくきっかけづくりをすることが、本書刊行の大きな目的です。

プレハブ住宅関係者のみならず、住まいづくりに携わる人々に、広く読んでいただきたい図書です。4月20日発行の本書は、定価は1800円ですが、本会事務局では100円引きで頒布します。

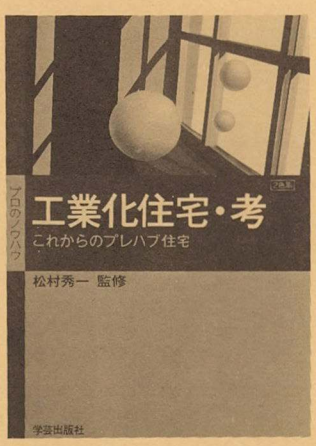
本書は松村秀一氏（東京大学建築学科講師）を監修役に、ハウジング・システム研究会のメンバー（安達栄一・積水化学工業／石本徳三郎・積水ハウス／大室裕・大成建設／加藤善也・ミサワホーム／北谷仁・積水ハウス／小林昭夫・ナショナル住宅産業／白木哲次・大和ハウス工業／滝沢清治・大和ハウス工業／津村港作・ナショナル住宅産業／中村孝・ミサワホーム／西和彦・大成建設／橋本隆・積水化学工業）でまとめられたものです。

〈目次〉
1．工業化住宅とは何か
2．住まいづくりと工業化住宅
- 工業化住宅としての職人型住宅
- 近代の工業化住宅、その起源
- 現代の工業化住宅、その変遷

3．工業化住宅を支える組織
- 組織としての工業化住宅
- 業務プロセスと支援ツール

4．工業化住宅を支える構法
- 工業化住宅の部品分割
- 商品展開と部品群構成

5．これからの工業化住宅
- 設計の商品化の時代
- 工業化住宅と地域対応
- 道具・メディアとしての工業化住宅
- 日本の住まいづくりと工業化住宅



第7回京大建築同人展－5月に－

京都大学工学部建築学科の卒業生による洋画の同人展は、今年は下記の通り出品者26名で、約80点の作品を展示します。

*

会　期　昭和62年 **5** 月 **14** 日(木)～ **5** 月 **19** 日(火)　午前11時～午後6時
（日曜も開催、最終日は午後5時まで）

会　場　大阪市北区梅田1丁目　大阪駅前第2ビル2階
アートプラザ（会場直通 06－344－6097）　－入場無料－

出品者

三宅　利雄（昭6卒）
西山　卯三（昭8卒 京都大学名誉教授）
二宮　太平（昭9卒）
福留　　繁（昭10卒）
真壁　　博（昭11卒 金沢工業大学名誉教授）
山根正次郎（昭11卒 福井工業大学講師）
白石　博三（昭12卒 京都工芸繊維大学名誉教授）ほか19名

記念イベントと「ル・コルビュジェ100歳」

■展示会（フランス大使館文化部提供）－入場無料－

と　き　1987年 **5** 月 **15** 日～ **6** 月 **10** 日　AM.10:00～PM.20:30
（土曜日 AM.10:00～17:30 日曜日休館）

ところ　日仏ギャラリー（関西日仏学館内）
京都市左京区吉田泉殿町8　電話 075－761－2105

■講演会－入場無料－

● **5月18日(月)** PM18:00　稲畑ホール（関西日仏学館内）
「建築家あるいはデミウルゴス――ル・コルビュジェを巡って」（日本語）／**加藤邦男**（京都大学助教授）

● **5月25日(月)** PM18:00　稲畑ホール（同上）
「ル・コルビュジェと日本近代建築」（日本語）／**槇文彦**（東京大学教授）

● **6月1日(月)** PM18:00　稲畑ホール（同上）
「ル・コルビュジェ、呪詛と聖化の間で」（通訳つき）／**アンリ・レイモン**（パリ第10大学社会学教授）

優美さを現代に生かす



製品特性

●石膏製品

石膏とガラス繊維との複合材料で、それぞれの特性を生かした、よりすぐれた石膏製品です。主に屋内での不燃材料を用いる部分の天井や壁面に使用します。不燃材である石膏と、伸び縮みのないガラス繊維で成型され、石膏の質感をそのままに従来の石膏製品にくらべ、より強く、より軽くなりました。

●ＦＲＰ及び各種樹脂材製品

〈軽くて強い〉　大型の造形物は建物にかかる重量だけでも大きな負担となります。また、浴室の装飾物も材質の選定が難しいものです。ＦＲＰの比重は、鉄の1/5、しかも耐熱、耐候、耐水、耐食性に優れています。弊社のキングポール、パラペットボーダー、社寺彫刻および、オーダーメイドによる大型の造形物は、それらの場所に適した装飾材です。

美術彫刻・FRP成型
ボーマン美術装飾株式会社

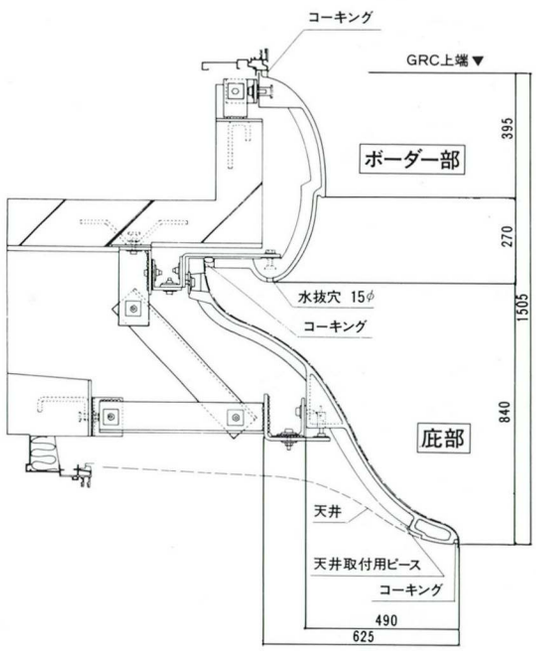
本　　社　〒570 大阪府守口市桃町45番地　電話(06)991-2451㈹
東京営業所　〒151 東京都渋谷区代々木3-24-3(第1梅村ビル301)　電話(03)320-1381㈹

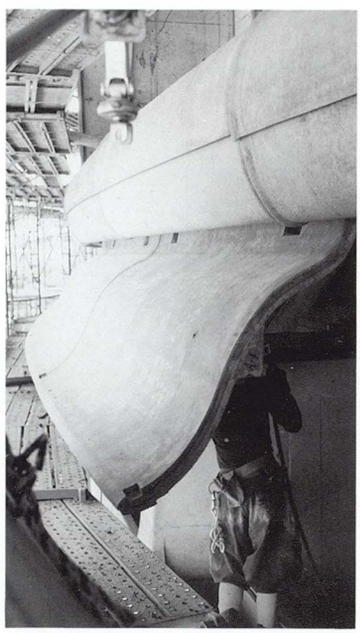
日本を代表する数々の名建築を残した故村野藤吾氏の基本設計によるこのホテルは、氏の最晩年の叙情をも表現したとさえ言える仕上りを見せています。銅を主としたテクスチャーの多様性、背後の陵線になじむかの如くうねる一本一本の曲線、特に蓮華の花びらを思わせる屋根、軟らかいふくらみの外壁、この氏の描くスケッチを忠実に再現したのがGRCパネルです。

耐アルカリ性ガラス繊維強化セメント・GRCは、自由なデザインを可能にする優れた成型性、肉薄設計による軽量化、しかも強度的にも十分な性能を有する建築資材として、既にビル建築の外壁や内装をはじめ音楽ホールの天井、交通機関の施設など多くの実績を誇っています。

この建築においても銅屋根を支える庇パネル、バルコニーのボーダー部、桂、プランターなどに1218枚ものGRCパネルが活躍しています。

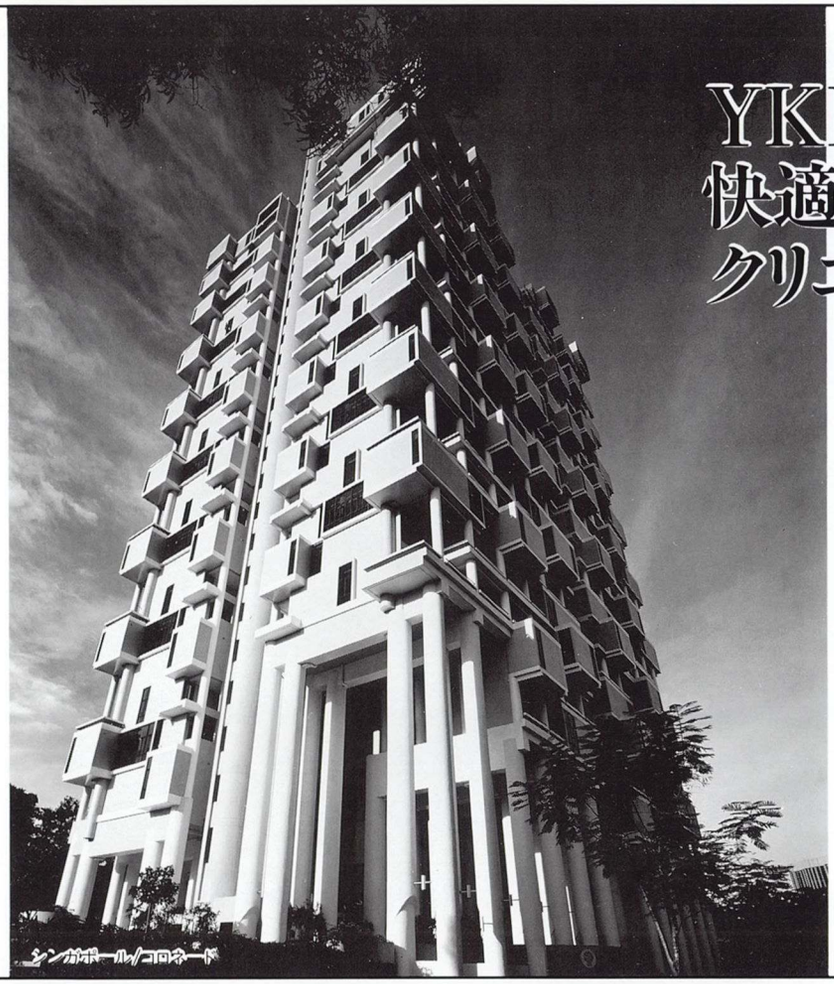
■京都宝ヶ池プリンスホテル〈GRCパネル〉取付図





◉日本板硝子株式会社 GRC部

東京　〒105 東京都港区新橋1丁目8番3号 TEL.(03)574-6786 FAX.(03)574-8520
大阪　〒541 大阪市東区道修町4丁目8番地 TEL.(06)222-7522 FAX.(06)231-9684



YKKは世界の快適な都市空間をクリエイトしています。

現代の都市空間に美しく映えるサッシ。YKKでは機能美を極めた各種高性能サッシから断熱サッシ、防音サッシなどの特殊サッシまで、現代建築の多様なニーズに応えています。その高品質は国内はもとより海外まで、多くの施工実績で証明されています。

YKK

吉田工業株式会社

本社：〒101 東京都千代田区神田和泉町1 ☎03-864-2190
支店：〒540 大阪市東区谷町4-25-1 ☎06-945-0568



超高層技術がつくったサッシの傘

風雨をシャットアウトする「等気圧理論」

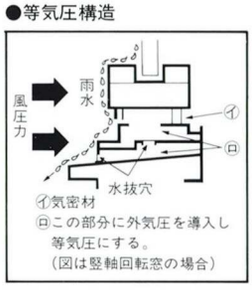
超高層ビルでは、雨は上から降るとは限りません。ビル風という独特な風にあおられるなどして、横からも、時には下からも激しく降ります。それらをシャットアウトするのが、サッシという傘なのです。

厳しい条件下のビルではたいへん高い水密性能が要求されます。不二サッシは、その高い水密性能を得るため、カーテンウォールやサッシに「等気圧理論」を応用しています。

雨と風とが同時に作用すると、室内と室外では圧力差が生じます。その時、すき間の一方の側に水があると、たとえ小さなすき間であっても、水は圧力の高い方から低い方、つまり室外から室内に侵入してしまうのです。これを最も効果的に解決するには、すきまの両側の気圧差がなくなるような構造にすればいいわけです。これが「等気圧理論」です。

「等気圧理論」の応用など、超高層ビルでつちかった不二サッシの技術は、マンション用サッシをはじめ住宅用のサッシにも確実にフィードバックされています。超高層ビルと同じサッシの傘が様々な建物を風雨から守っているのです。

●等気圧構造



サッシの歴史は不二サッシの歴史

不二サッシ

不二サッシ株式会社大阪支店
〒541 大阪府大阪市東区本町4-4-1
（本町野村ビル）
TEL (06)262-2541

1917創刊
1987
第68集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

表紙デザイン●吉田隆一
（東畑建築事務所）

丹波篠山の妻入り商家群　地図を拡げると盆地の中ほどに、正方形に近い明快な城郭があり、それを取り巻く町並みが人目をひく。
城の西側の武家屋敷群。北から東にかけての町家群の、京都に近い京口まで、ほど良く折れ曲がる道に沿った河原町には、江戸の名残をとどめた白壁に桟瓦ぶき妻入り屋根の商家群が、町の近代化の波を免れて今も数多く残っている。

4 通巻781

会告

■特集予告
5月号／保管・貯蔵施設
6月号／室内の仕上床
7月号／駅
8月号／官公庁営繕と行政建築家

作品作風

Gallery
新刊書評
作品作風探訪
大先輩に聞く
東海ルネンス
東海の建築マップ
書評

私が読んだ本
新建材紹介コーナー
GBRCニュース
建築の眼

特集
東海の建築作品

スケッチブック
座談会

東海の建築地場産業

構造の頁146
設備の頁149
施工材料の頁148
若い会員の集いレポート
月報
Informafion

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
　　松村雄二・桑袋公明
編集委員会（昭和62年度）
編集理事会
　更ヱ　實男
　水口　譲
　山下　仁志
　山田　敏捷
　横井　征夫
　■法令分科会
　（未）
（未）　中島富三郎
　松田　洋三
　南出　和延
（作品作風小委員会）
　荒川　栄美
編集委員　遠藤　公介
　長谷部朝郎　加藤　力
　上田　信也　北澤　修一
編集委員　小林　正純
（特集小委員会）　高瀬　由康
■計画分科会　塘　伸夫
　川前　勉　中山　隆
　河端　秀直　林　浩二
　小浦　久子　水川　尚彦
　佐野　潤一　宮崎ひろ志
　清水　肇　（投稿欄小委員会）
　芝吹　千昭　浅野　貴志
　鈴木　克彦　伊藤　郁郎
　田附　尚　北村　恭一
　田中　直人　柴田　厚
　高田　佳子　高田　光雄
　平岡　博　塚口　明洋
　北條　誠　西村弥音子
　吉村　英祐　堀畑　裕一
■構造分科会　増渕　昌利
　和泉　一義　吉本　安邦
　高垣　利夫　（未）
　谷　明勲　（広告企画小委員会）
　出口　節夫　池淵　俊男
　外園　隆　篤　秀明
　向井　久夫　北村　潤
　安田　光世　鳴田　聖二
■設備分科会　下村　甫
　安倍　浩一　中井　進
　石河　信治　中川源治朗
　石野　幸義　原田　常介
　遠藤　進　広田　和正
　梶井　宏修　藤田　孝吉
　河津　隆之　山下　修司
　田中　脩　渡辺　亮
　別所　清
■施工材料分科会
　大木　利文

編集人　松井昭光
印刷　昭和62年4月20日
発行　昭和62年4月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　電　06—348—0635
　振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
　電　06—606—1111㈹
　大信印刷株式会社
　電　06—451—7631
　青葉印刷株式会社
　電　06—351—5428㈹
定価　950円（送料共）

特集●躍動する東海へ

SPECIAL FEATURES ON DEVELOPPING TOKAI AREA

定時評議員会決議お知らせ—昭和62年度会長・副会長・理事・監事、昭和62年度事業計画、昭和62年度収支予算．財団法人陽明文庫「虎山荘」を訪ねる．21世紀へ向かって発展していく大阪港を見る—大阪市・広報船“水都”で海上巡り—．伝統美とポストモダン—出江寛建築展．〈プロのノウハウシリーズ〉「工務店の税金対策100ポイント」と「工業化住宅・考—これからのプレハブ住宅」刊行．第7回京大建築同人展．建築イベントとル・コルビュジェ100歳——3
京都宝ヶ池プリンスホテル——設計：村野，森建築事務所　施工：竹中工務店——10
阪神電鉄PTCセンター——設計：阪神電鉄工務部建築課・大建設計——14
監理：阪神電鉄工務部建築課　施工：阪神土木工業
大和證券大阪支店ビル——設計：三菱地所　施工：鹿島建設——16
明石愛老園養護老人ホーム——設計監理：光安建築設計事務所　施工：入勢建設工業——18
ライフ・イン京都（設計：若林広幸建築研究所）——20
「りんごのうた」（小川正著）／太田隆信——22
品のある色調と連続感—京都宝ヶ池プリンスホテル／松村孝治——23
小川正（元・竹中工務店）／北村恭一——24
（休載）
（休載）
状況中心社会の物質的空間と社会空間とのアナロジー論（オギュスタン・ベルク著「空間の日本文化」）／伊従勉——26
“話の特集”が離せないのは／石東直子——27
亀裂自閉性樹脂防水材「パラテックス」／小西努——28
新規購入機器紹介—デジタルプログラム発信器——29
需要論と必要論／巽和夫．時代の流れ／古林敏郎——30
改造工事／谷淳之介．パーソナルサービス／美濃吉昭

躍動する東海へ

ポートハウス——設計：名古屋港管理組合・東畑建築事務所　監理：名古屋港管理組合営繕事務所　施工：矢作建設工業——32
庄内緑地グリーンプラザ——設計：名古屋市営繕課・安井建築設計事務所　監理：名古屋市営繕課　施工：戸田・大飼建設特別共同企業体——34
愛知県赤十字血液センター——設計指導：名古屋大学工学部柳澤研究室　設計監理：伊藤建築設計事務所　設計協力：建築計画連合　施工：鴻池組・信和建設建設共同企業体——36
第二電電名古屋ネットワークセンター——設計：日本総合建築事務所　施工：大林組名古屋支店ほか——38
KARIMOKU SHOWROOM——設計：浦野設計　施工：清水建設——40
富士カントリー可児クラブ美濃コースクラブハウス——設計：岡設計名古屋支店　施工：東海興業——42
椙山女学園大学星が丘キャンパス——設計施工：清水建設名古屋支店——44
最近竣工した東海地方の作品18点（No.2008～2025）——46
東海のイベント—生田敦生／石原武／篠田恭彦／本一雄／藤原康司／由井求／中島一——48
支部の活性化を求めて——一圓俊郎／中島一／長谷部利夫／桝林宏二／松本壮一郎／林金之——57
織物——一宮—／滝一廣——61
合板—名古屋—／吉村幸司——62

X線による非破壊検査の原理と画像処理の実際（その2）／長谷川敦史——67
病院内の通信設備—病棟のコミュニケーションシステム／牧野稔——68
遠心スラブ工法／添野建一・丸岡義臣——69
日本の森林を学ぶ—紅葉黄葉の私市植物園にて—／福廣勝介・浜恵介——70
日本建築協会月間の動き（昭和62年2月分）——71
ヒカソ・ミロ・ダリそしてガウディーカタルニア賛歌—芸術の都バルセロナ展．「21世紀の大阪都市像」懸賞論文の入賞決まる．第10回東京国際グッドリビングショー「かしこい住まい新時代」．“FORBIDDEN” IN THE CITY—禁じられた領域—展．第3回BL国際デザインコンペティション—『ドア』を課題に．安藤忠雄建築展—安藤忠雄・建築の現在—．“TAKENAKA BOOKS” 第3弾『近代建築設備の系譜』刊行．投稿・中之島公会堂の修理・再生を！／明治建築研究会．——72

京都宝ヶ池プリンスホテル

設計　村野.森建築事務所
施工　竹中工務店



全景

基本設計　村野藤吾
所 在 地　京都市左京区宝ヶ池
敷地面積　29,238.84㎡
建築面積　7,045.26㎡
延床面積　37,113.86㎡
構造規模　SRC、B1、8F、P2
工　　期　昭和59年８月～昭和61年10月
低 層 部　インド砂岩塗込
高 層 部　庇　GRCの上緑青色銅板竪はぜ葺
　　庇裏　強化フレキシブルボード貼の上
　　吹付タイル
　　腰部　GRCエポキシ樹脂系吹付タイル



撮影　高瀬良夫、納崎雄二

このホテルは京都サミットを予想して建てられ、何かの理由でサミットは東京に移り、いろいろな制約だけを背負って生まれる不遇な経過を辿った。けれども我々はその恵まれない経過を克服する努力を惜しみなく注いできた。それはサミット用であるがために、７ヶ国の人々のために１階ずつ割りふられた階数と、1階当たり46室、計322室の客室と、そこで行われる祝宴等のための宴会場と食事用施設とそしてロビーとを持つ。

二つの小山に挟まれた土地になじむが如く長い延長を持つ平面は、柔らかい山容とひびき合うが如く楕円形の客室棟が考えられた。横線を強調するためにディテールはやや複雑な陰影を持ち、その色彩は繊細で温雅な調子を表現する事が大事な目的の一つであった。内部デザインの総てに亘ってそれは主調である。二つの宴会場の内、一つは舞踏会という西欧の香りを漂わせる。そのプレステーヂを高め、人はそこに入ればおのずからのムードを感じる。そんな空間を志向した。中庭の下にある大宴会場は、その大きいボリュームを地上に表すことを避けた環境への順応の表現であり、そのために面積の割に高さは充分でなかった。強い色彩と暗鬱なモノトーン調子は我々の好むところではない。我々は静かでやさしさがディテールにまでしみ込むような調子を指向する。

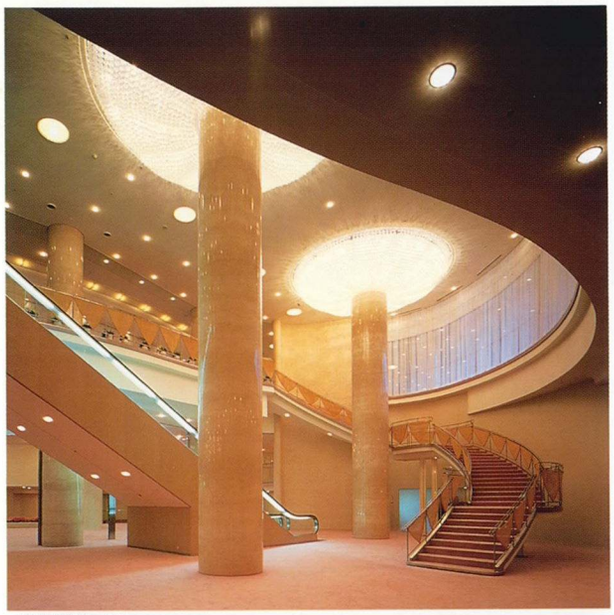
小山の間に水調節用の池があるが、それに常時水をたたえ、和風茶寮がそれにそって建っている。そこからはホテル本館が見られる、と同じように本館からは茶寮を望む。それは大きい本館に対してささやかなプレデルラである。この建物は、亡き村野先生によってプランと外観の大要は生まれていた。スタディはその内外の何れにも度重なって行われた。それが我々の師への追憶のためのものでもあり、我々の仕事の良かれ悪しかれ努力したこと自体が一つの鎮魂歌であると私は思っている。その評価の如何は問わず、なしおおせたことに意味を持つと、小さい自負を我々は持っている。

（近藤正志／村野.森建築事務所）

右下は茶寮







地下２階ロビー

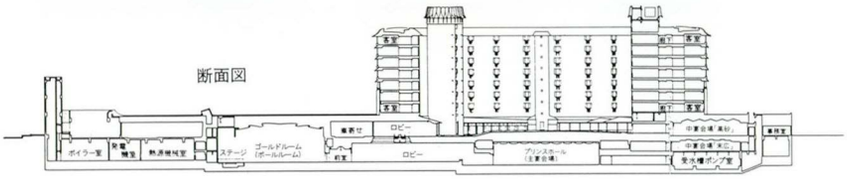


中庭

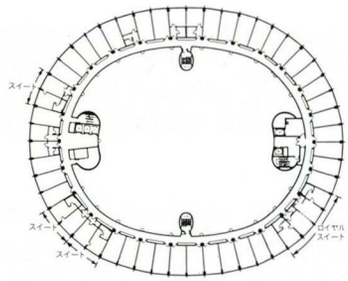


プリンスホール（主宴会場）

断面図



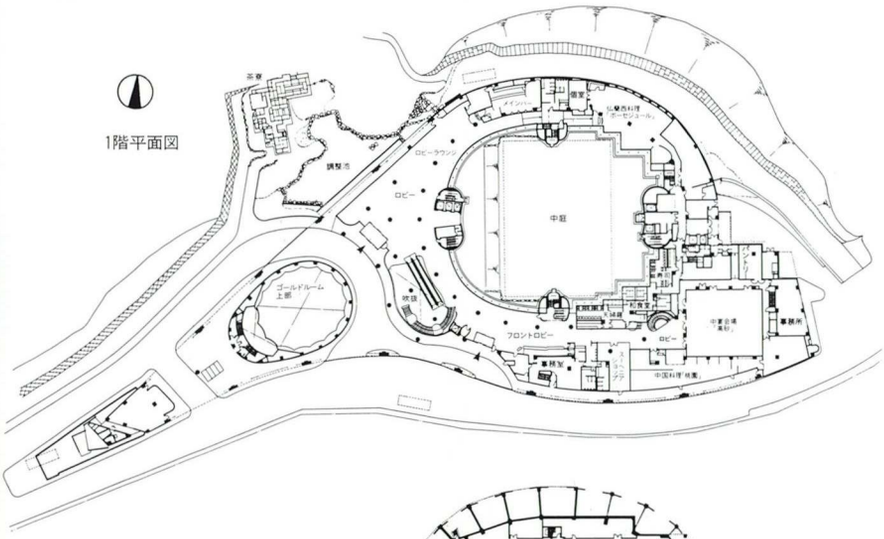
基準階平面図





和食堂（個室）

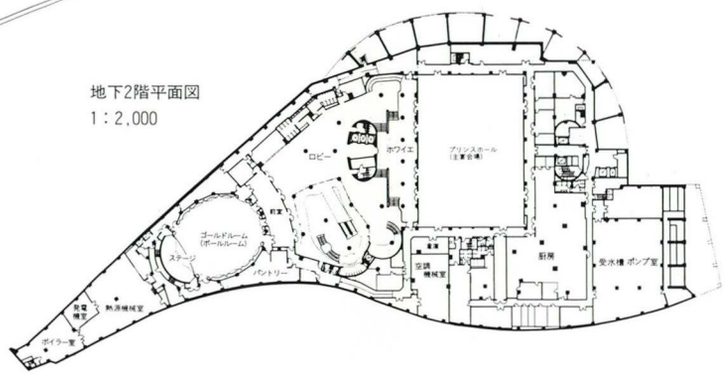
1階平面図





ロイヤルスイートルーム寝室

地下2階平面図
1：2,000



右はゴールドルーム（ボールルーム）

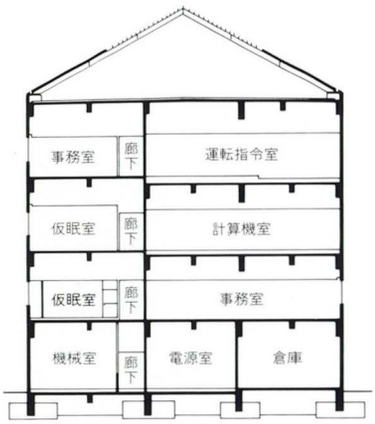


阪神電鉄PTCセンター

設　計　阪神電鉄工務部建築課・大建設計
監　理　阪神電鉄工務部建築課
施　工　阪神土木工業(建築)・中央電気工業(設備)



PTCセンター全景　左側に明治38年竣工の煉瓦造倉庫が並んでいる



断　面　図



4階平面図 1:500

阪神本線大物～尼崎間の浜側に当社の尼崎車両基地がある。その西端に近いところに阪神電車全線の列車運行管理[*1]を行う「PTCセンター」があり、隣には煉瓦造倉庫[*2]が静かに並んでいる。

最初に、煉瓦造倉庫をすべてとりこわし、その跡地に「PTCセンター」を建設する計画であった。これに対して、80年を越える「時」に耐えてきたこの建物を惜しむ声が数多く寄せられた。長年の間に人々の生活の風景＝街並みの中にとけこんでいたからである。そこで我々は諸条件を一つひとつチェックし、可能性を探る作業を行った。その結果、新しい建物にイメージを継承させた上、煉瓦造倉庫の一部を残すという計画に変更したのである。

「イメージの継承」というコンセプトによって、切妻・勾配屋根の姿、テクスチャー、窓のリズムなどを「PTCセンター」に反映させた。今、一部を残した煉瓦造倉庫と、まるで祖父と孫のように並んでいる。もし煉瓦造倉庫がその役目を終えることになったとしても、「PTCセンター」が血筋正しくイメージを受け継いで街の中に生きづいていくことになるだろう。

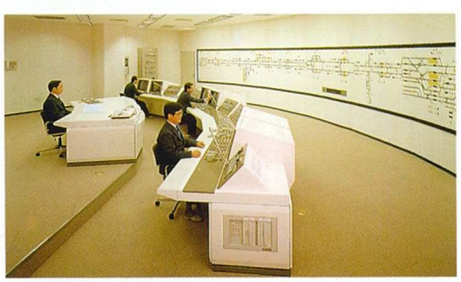
「PTCセンター」に対し、昭和61年10月尼崎市長より「第１回まちかどチャーミング賞」をいただいた。関係者の努力が実り、「街」にとって大切なものが生まれたことを改めて実感した。

今後、この建物が阪神電車の安全輸送システムを支え、人々に親しまれてゆくことを願っている。

＊１　PTC：Programed Traffic Control
コンピューターによる全線列車運行管理システム

＊２　阪神電鉄旧尼崎発電所
明治38年竣工、明治40年頃増築。大正８年頃より倉庫として使用されたと考えられる。増築部分を撤去し、PTCセンターを建設した。現在残る建物の規模は、明治38年当時のものである。

（小林幹彦/阪神電鉄工務部建築課）



運転指令室

所 在 地　兵庫県尼崎市北城内116
敷地面積　57,452.76㎡
建築面積　377.42㎡
延床面積　1,509.67㎡
構造規模　RC、4F、P2
工　　期　昭和59年12月～昭和60年９月
最 寄 駅　阪神電鉄本線尼崎駅
外装仕上　屋根：コールテン鋼瓦棒葺、一部ルーバー
　　外壁：炻器質タイル、一部吹付タイル
撮　　影　納崎雄二（一部を除く）





大和證券大阪支店ビル

設計　三菱地所
施工　鹿島建設

所 在 地　大阪市北区曽根崎新地1－13－20
敷地面積　1,203.05㎡
建築面積　1,008.00㎡
延床面積　13,136.00㎡
構造規模　SRC、B3、11F、P1
工　　期　昭和59年７月～昭和61年11月
最 寄 駅　JR大阪駅、地下鉄梅田駅

撮　　影　島　修一、習田四郎



御堂筋(手前)と１・２号線が交わる梅田新道交叉点付近

大和證券大阪支店ビルは、大和證券創立40周年の記念事業の一環として58年の秋に計画をスタートさせた。大阪證券取引所のある北浜の大和證券大阪支店を、本店機構に準じた構成内容でこの梅田へ移転の計画であった。立地としては、大阪駅前再開発地区に隣接し、北側に国道１・２号線の分岐点(梅田新道交叉点)、東側に御堂筋という、大阪枢要の地であり、広く注目を浴びる建物となるものである。

平面計画については、まず不整形な敷地の中でいかに効率の良いプランニングにするかがポイントとなった。

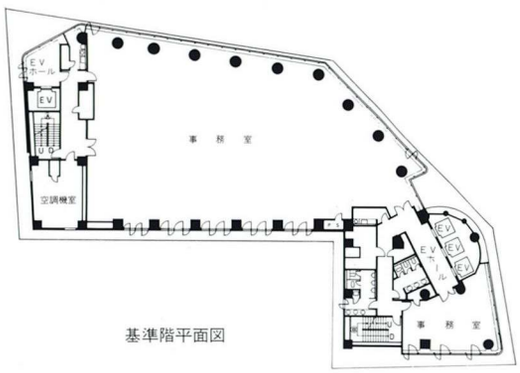
通勤者、来客者の主動線は、大阪駅、梅田駅より地下横断歩道を昇る、さらに南方面は淀屋橋駅から、また御堂筋の横断歩道を渡って東方面からの三本であり、この三動線に最も便利な東側をメインエントランスとし、サイドコアを設け、建物の主縦動線としている。

西側には駐車場の入口、災害時の消火救助活動の要となる非常用エレベーター、防災センター等を設け、建物のサブ動線とした。東西のコアに挟まれた事務室空間は最も防災的に安全な形であり、超大スパンを採用し効率の良い使い易い平面構成となるようにした。

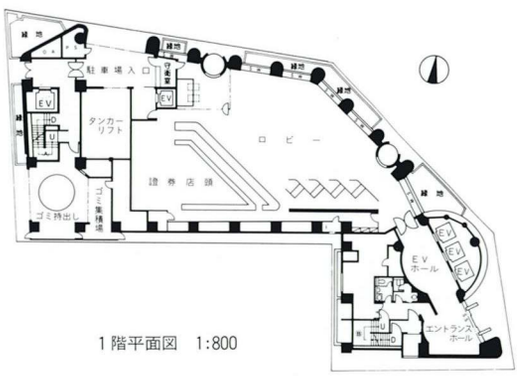
外装デザインとしては、御堂筋側角地東コアを円筒形としシンボリックに扱い、１・２号線と御堂筋の交叉部のランドマークとなることを狙った。

(三菱地所)


１階エレベーターホール



基準階平面図



１階平面図　1:800

電気　住友電設　　内装　大興物産
空調　ダイダン　　カーテンウォール　三協アルミニウム工業
衛生　日比谷総合設備　　硝子　三好ガラス建材


大和證券
東映会館
重慶飯店
大和證券

明石愛老園養護老人ホーム

設計監理　光安建築設計事務所
施　　工　入勢建設工業

設計協力
原田設備設計事務所
大富設備設計事務所



正面外観



談話ホールより居室を望む

主な協力業者

躯　　体　富士建設
電気設備　早水電気工業
空調設備　圓　奈
鋼製建具　アサダ
硝　　子　サンマル明石支店
金属建材・屋根　斉藤鋼材
内　　装　インテリヤ宮田
木　　工　滝野木材産業
塗　　装　山本塗装
木製建具・家具　長山木工場
エレベーター　日立エレベーターサービス関西支社

所 在 地　兵庫県明石市魚住町錦ヶ丘2−6−8
敷地面積　4,725.52㎡
建築面積　2,024.99㎡
延床面積　3,174.3㎡
構造規模　RC、2FL、PH1FL、B1FL
工　　期　昭和60年7月～昭和62年2月
最 寄 駅　JR山陽線魚住駅

撮　　影　島　修一



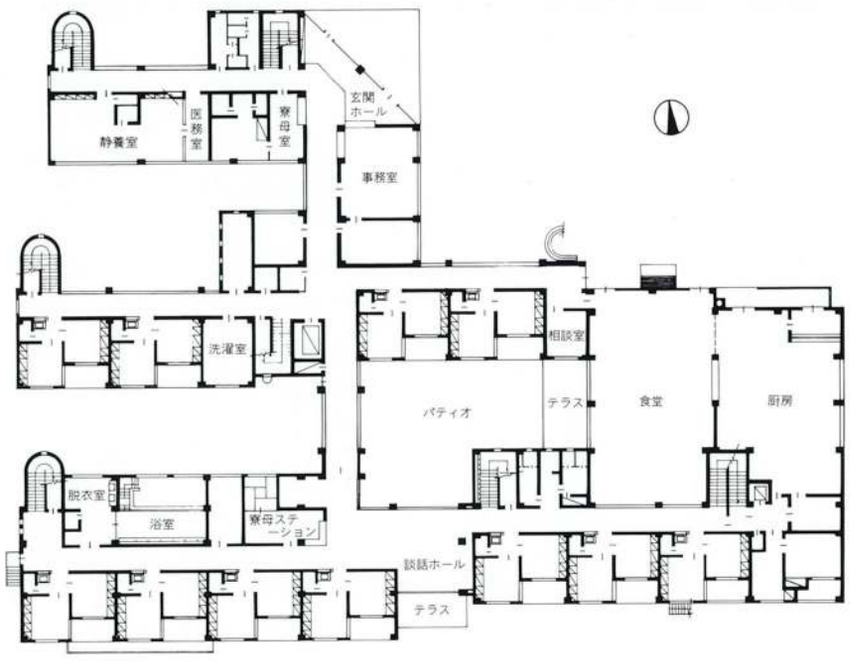
玄関ホール



居室棟外観

住居専用地域に改築されたこの老人ホームには、100人の老人方が20年以上住み親しんでいる。私共は地域にとけこむような造型、色彩、外観を考え、正面には前庭の緑を反映するミラーガラスで拡がりを求めた。各居室には2人制で門灯を構え玄関らしさを与えて日常性を感覚するようにした。
二室でベランダを共有し隣人意識を高め洋室、和室の二形式としている。長い直線廊下は疲労感を覚えるので屈折させ、日溜りコーナーや憩いの場を設け、集団的連帯感をもつように配慮をしている。ナースコールは要所々々にとりつけ寮母室に直結させ、寮母との交流は大きなガラス越しに何時でも手を差し伸ばせるようにしている。食堂は広々として、ステージを設けているので毎月の各種催しを行い、屋上は人工芝とし陽光のそゝぐコミュニケーションの場となっている。構内には、地域の人々との集いの広場や、老人の散策歩道を舗設している。園長以下の熱意に支えられ、施工者の誠意で完工した事を深謝する。

（光安義光/光安建築設計事務所）



1階平面図　1：600

Gallery

まち・建築・ひと













“ライフ・イン 京都”は京都市の西部、桂に建つ有料老人ホームである。

高齢化社会が深刻な社会問題となりつつある中にあって、この施設は従来の有料老人ホームに対する疑問と反省を投げ掛けている。

既存の有料老人ホームの多くは、国の福祉政策として開発された老人ホームの延長線上で考えられ、その多くは全ての人々に批判されない施設づくりを目指すあまり、実は中途半端で、真に前向きに生きようとする生活者にとって味気無い退屈な施設を呈示する結果となってきた。

この施設は老いて尚、自発性や積極性を失わず、実社会との交流を強く望む生活者の為の場を提供する。言い替えれば医療施設とサービス施設とが組み込まれている以外は現実社会と少しも変わらない施設である。

施設に於ける特別扱いや過保護による実社会とのギャップが、やがて老人を内に閉じ込めてしまい、呆けを誘発しかねないと考えるからである。

真に快適な生活とは何を意味するのか。老いて尚現実社会との交流や刺激をうけ、呆ける事なく余生を活動しつづける事では無いだろうか。

（若林広幸）

もしもメガ・プロダクト・デザインというデザイン分野があるとするならば、この作品はそうしたフィールドに近いのかもしれない。メガ・プロダクトとは、例えば『宇宙戦艦ヤマト』や『スペース・コロニー』という類いのものである。

壁・床・天井・柱・開口部・バルコニーなどの空間構成要素は、一旦部品のレベルにまで解体され、グラフィカルかつフォルマティブな処理を施された上で再編成されている。しかし細心の注意を払って大胆に彩色された中庭に降り立つと、その極めて人工的な造形にもかかわらず、包み込まれるような空間全体の印象は、ある種の不思議に懐しい雰囲気を漂わせているような気がする。老人ホーム、つまり絶えず生と死を認識する人々の集住体を、メガ・プロダクトとしてデザインした結果、この母胎回帰幻想とでも呼び得るようなイメージが生まれたのかもしれない。

ふと、松本零士原作のアニメーション『銀河鉄道999』を思い浮かべた。千年生きられる機械のからだを求めて果てなき旅をする主人公の星野鉄郎に、摩耗した身体部品（精神も肉体も含めて）を抱えた老人達が重なった。とすれば、鉄郎を助けつつ共に旅する美女メーテルは若林氏なのかもしれないと思った。

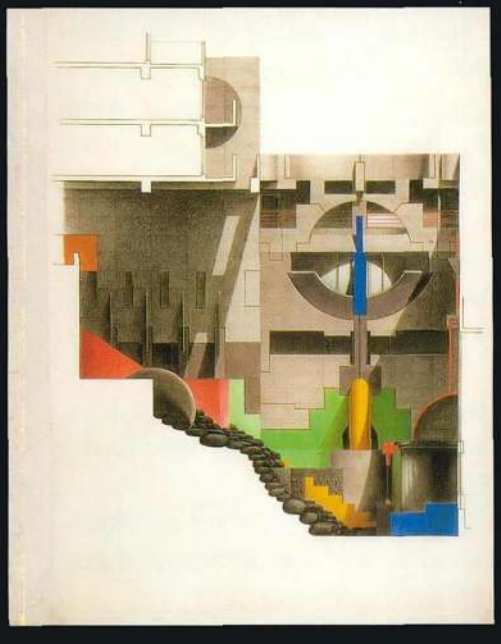
（荒川朱美）

ライフ・イン 京都

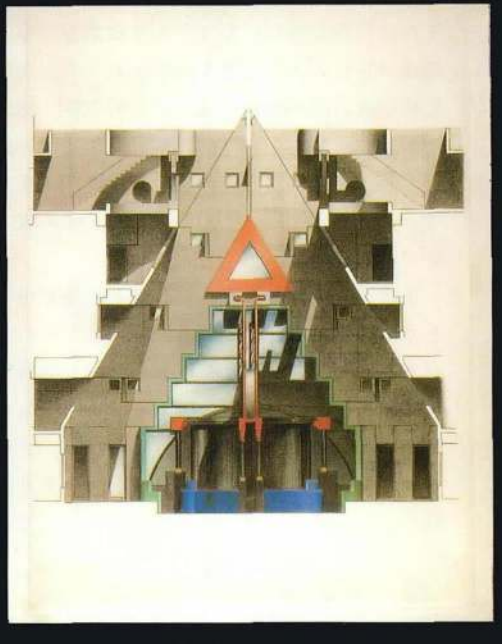
主要用途	有料老人ホーム
所在地	京都市西京区山田平尾町17　46
設計	若林広幸建築研究所
	（協力）角野建築研究所
施工	熊谷組・大林組・青木建設JV
敷地面積	12,446.54㎡
建築面積	3,678.61㎡
延床面積	16,122.52㎡
構造規模	SRC、B1、11F、P1
外壁仕上	コンクリート化粧打放し下地マルチタイルシルバー吹付け、セラキャスト吹付け、45㎜角ラスターモザイクタイル
工期	1984年９月～1986年10月

企画編集　作品作風小委員会　荒川朱美
撮影　納崎雄二

若林広幸
1949年　京都市生まれ
1967年　たち吉入社、アダム＆イブの企画創立に参画、プロダクトデザイナーとして活動
1972年　独立（インテリア、建築）
1982年　若林広幸建築研究所設立、現在に至る







りんごのうた　小川 正著



太田　隆信

昨冬、「りんごのうた」を送っていただいた。楽しく一気に完読。そして一読者として、少しでも多くの人々にこの本を読んでほしいなと思った。自費出版故、この本の存在を知っていただくために、書評欄で取り上げてほしいと「建築と社会」編集部にアピールしているうちに、新建築社から出版されることになり、今回の書評となった。224㎜×223㎜の変形版。中央の小ぶりなリンゴの木のパターンがしゃれている。

スケッチ・写真・対談・随筆と、バラエティーに富んだ内容。しかもそれぞれの幅が広く面白い。例えば「ブラジルを行く」と題された'73年の文章と写真、最後に"Caminito"の一項を入れ、Caminitoの記念碑の写真と共に、あえてこの曲のこと、タンゴにまつわる短文を書いておられる。タンゴブーム直前のこの一項は、いかにもロマンチスト小川さんらしい、面目躍如たるものがある。単に先見の明があるというのではない。この一文を通して、ブラジル紀行が南アメリカ全域をにらんでいる。面白く楽しい本ではあるが、このあたり、さりげなさの中に小川さんの50年のキャリアが十分に発揮されていて、読者としては、油断も隙もない。そこが又、面白さにつながるのだが……。

小川さんに初めてお目にかかったのは'60年冬。恩師武先生が長崎の仕事の帰路、ひょっこりと大阪へ来られた。市内の新しい建築を案内して、夕刻、夜汽車へ乗られる迄の短時間、グランドホテルのパインで、小川・武両先輩のお話をうかがうチャンスがあった。小川さんは、大組織での設計はこれからいかにあるべきか、竹中設計部はいかにあるべきかを、熱心に若々しく論じられた。その後の竹中設計部の仕事と、小川さんの発言を重ね合わせて、ずっとウォッチング。小川さんの発言が一つひとつ具現化されてゆく状況を、すごいなっと思いつつ、いつの間にか小川さんのファンになってしまった。関西の建築を云々するにはこの人から目を離せないと感じた。小川さんの魅力のひとつに、明るく、朗らかなことがある。ややもすれば根暗な感じになりがちな建築家の中で、これは異色のこと。戦後一貫して大阪の街とのかかわりのなかで大きな仕事を続けてきた竹中設計部の原動力は、この明るさ、朗らかさにあったのではないか……。「りんごのうた」が登場するゆえんもそこにあるのではないか……。歌のことはのちほど、もう一度ふれさせていただくとして、その間のこと、「そのあしあと」「その人と作品」を懐かしく読ませていただいた。

小川さんの仕事、竹中設計部の仕事の中で、一番好きな作品のひとつに「新阪急ビル」がある。どこがいいのですかと聞かれるたびに、よくここを通るんだけどもいつも気持ちのいい雰囲気で、建築と都市とのかかわり方は骨太くかくありたい……、と応えているのだけど、今ひとつうまく言い表せない。クライアントである阪急電鉄の森下前専務(現在能勢電鉄会長)がそこのところをたくみに「日経アーキテクチュア」('76・4・5号)誌上でコメントしておられた。よきクライアントのもとで、よき建築が生まれる。うらやましく感じると同時に、施主をしてかく言わしめた小川さんの力量、そして情熱を、すばらしいと思った。

建築のことに力が入りすぎてしまった。この本を語るにはこの途をあゆみはじめてちょうど50年、小川さんの中学時代からの、いや、お父様の思い出に始まる自伝としての楽しさを見落としてはならない。「随想」中の各文は、いずれも逸品である。いずれか一文を選んで寸評をと思ったが、とても選び出せるものではない。とにかくゆっくりと味わってほしい。

「この国のあゆみについて」は、私もやはり、陳腐な表現ではあるが、襟を正して読ませていただいた。この世代の方々の、この時代の体験についての発言は、貴重なものとしか表現できないが、語り継がれてゆくべきもの、忘れてしまってはいけないと思う。

「りんごのうた」には、私にも'46年春、台湾から引き揚げてきた国民学校6年生のときの思い出がある。子供達が集団で、何かに憑かれたように大声で歌うこの歌には、台湾でいわば忘れ去られたような、のんびりとした戦中を過ごしてきた私には理解できぬ、強烈な生きる喜びの響きがあった。最初このタイトルを見たとき、小川さんだからこそ「りんごのうた」かなと思いつつ、何故「りんごのうた」なのだろうか、あるいは……、という何か心ひかれるものがあった。

繰り返しになるが、楽しく、ロマンあふれる一冊である。ぜひとも手にとって見ていただきたい本である。

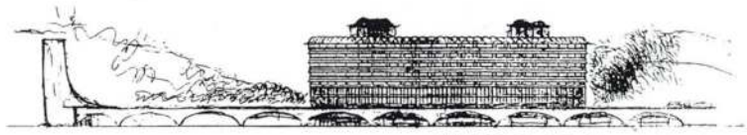
小川さん、いつまでもお元気で、ひょこっと若い世代の会合にも顔を出していただいて、小川さんならではの御意見、御批評をお聞かせください。お待ちしております。

(おおた　たかのぶ/坂倉建築研究所)

「りんごのうた」小川　正著　新建築社発行　3,800円

品のある色調と連続感

松村　孝治



村野藤吾氏によるイメージスケッチ

宝ヶ池隧道を過ぎて右折すると、青銅の曲線を積み重ねた建物が視界に入ってきた。道路の右方には、大谷幸夫氏による国立京都国際会館。この会館の直線的な構成とは対称的に、ホテルのアプローチは、滑らかに砂岩張りの曲線である。玄関は、一見、新高輪プリンスホテルのそれを想起させるプランニング。車を降りてロビーにはいると、ここは、〝はんなり〟という京ことばが相応しい風情。大きなガラスのむこうは、中庭の芝生が心地よいウェーブを描いている。故村野藤吾氏の基本設計を受けて、この宝ヶ池プリンスホテルをまとめきった近藤正志氏とはどんな人かと、緊張とミーハー的期待で胸をときめかせていると、ホテル販売促進課長尾智氏と共に、初老の小柄な人が現れた。晩年の村野さんの雰囲気である。早速、御二人に案内を願って、地下２階にあるボールルーム（ゴールドルーム）へ。村野漾氏によれば、〝村野藤吾はこのホテルのボールルームに特別の強い関心を抱いていた〟（建築家の一断章――京都宝ヶ池プリンスホテルの村野藤吾）という。〝京都国際会館で国際的な会議が開かれた折など、夜は内外の要人達が美しく着飾った夫人を伴ってこのボールルームに現れ、華やかにダンスに打ち興ずる姿を夢みていた〟（前出）そうである。近藤氏には、〝ラベンナの寺と、ストックホルム市庁舎のゴールデンホールを参考にしなさい〟と言い遺している。楕円型のプランをもつこのホールの壁面は、緑のグラデーションに金を鏤めたガラスモザイク。宇宙を想像させる天井は、黄緑とピンクの大担な色使い。シャガールの絵の色彩を参考にしたという。何度も何度も自分への問いかけを繰り返したことであろう。〝カラースキームは全て私が行った。だから良いも悪いも全て私の責任です。〟と近藤氏は、私達がホテルを辞するまでの間に、何度もつぶやいた。坂倉準三氏が死去した時、西沢文隆氏が、品川パシフィックホテルで、坂倉が死んで坂倉事務所もこれまでかと言われてなるものかと、髪ふりみだして頑張ったという話を、何かの本で読んだことがあるが、真にその心境であったろう。このゴールドルームで、村野藤吾氏が夢見た舞踏会が行われる様を想い描くと、心が踊る。音と光の演出には、壁・天井の凹凸のディテールに心を砕いている。ゴールドルームと向かい合う大宴会場（プリンスホール）をはじめとして、他に５つの宴会場があるが、いずれも天井の構成がすばらしい。鞍馬という中宴会場は、大胆な障子のデザイン。天井は、水衣という名のクロスを天井一面に張り、市松状に光を仕込んだ意匠。昨今、照明器具そのものに凝る宴会場が多い中で、さすがに村野．森建築事務所の伝統ここに有りと思わせる。

＊　　＊　　＊

客室を構成する楕円状の高層棟は、各階毎に、ロイヤルスイート１室、スイートルーム３室、スタンダードルーム42室を擁し、各国代表団の使用を想定して設計されている。エレベーターを降りて客室にむかう途中、窓から見る楕円状の中庭のスケールは秀逸である。スタンダードな客室は、40～43㎡とゆったりした広さ。淡い色調のインテリアに心なごむ。部屋の窓は、腰をぐんと低くして大きくみせ、部屋全体に広がる開放感がすばらしい。外壁のメンテ用を兼ねた窓外の手摺は、腰の低さからくる不安感を解消し、外部に陰影をつけ、心憎いディテールである。スタンダードルームは、パウダールームを前室にもつバスルームタイプと、バスルームにビデ便器・シャワールームを併設したタイプの２種類に分かれている。これについては、村野藤吾氏が、生前、狩野忠正氏との対談（HIROBA '85．1）で語っているが、施主の要求を入れながらの苦心の作であることがうかがえる。対談では、村野氏自身、うまくできるかどうかと心配しているが、近藤氏の手によって、気持ちのよい空間に仕上がっている。ロイヤルスイートルームは、国際会議の宿泊施設という性格上、各階毎に、仕上げから家具に到るまで、模様・色調を変え、大変だったそうである。

１階の中庭を巡るように、和食・中華・仏蘭西各料理店とメインバーがある。中でも、和食店とメインバーに見どころがある。和食店は、木柄を極力細く軽くみせ、幕板の抜き模様や壁・家具の配色と相俟って、品のある連続感が軽妙である。古武士然とした村野調から、近藤調への変化のきざしが感じられる。ここから見る中庭の起伏は、地下２階の大宴会場の天井高により盛り上がっていることを全く感じさせず、自然の趣である。メインバーは、高い天井に洋木主体のシンプルなインテリアで、ホテルのバーの典型ここにありという感じ。雰囲気を演出しているカウンターの座りごこちは満点である。

玄関を出て、水量調整池を見ながら、きれいに清められたゆるやかな石段を昇っていくと、茶寮がある。４帖半の茶室と、８帖・16帖の広間からなるこの茶寮は、杉木立と滝の音に包まれて、いかにも落ち着いた雰囲気。内外の賓客を迎えるために、広間は掘ごたつ仕立て。ここでも、天井の構成に目を見張るが、〝和室にはガラス窓は似合わないので〟と、障子１枚で内外を仕切っているのには驚く。

＊　　＊　　＊

昭和59年11月26日、村野藤吾氏が遺したものは、平面図と立面図、それに$\frac{1}{300}$の全体と$\frac{1}{50}$の高層棟矩計模型であったという。遺されたものを尊重することの重み、苦しみは、どんなものであったろうか。〝良く尊重できるかどうか、良く変えられるかどうか、私にその力があるのかどうか、解らない〟と、この仕事を通しての近藤氏の呻吟の言葉である。西よりのアプローチの煙突などを収める塔にしても、この建物のイメージの発端であるだけに、何枚もの平面スケッチから判じて、現在の形に辿りついたという。

村野藤吾氏の遺作として、近藤正志氏はじめそのスタッフが世に問う作品が、京都北山に誕生した。

（まつむら　こうじ／東畑建築事務所）

――作品は巻頭カラー頁に掲載――

小川　正



おがわ　ただし
1912　大阪市生まれ
1937　早稲田大学建築学科卒業
　　竹中工務店入社　設計部勤務
1960　米国ＳＦＴＡ代表取締役
1969　竹中工務店常務取締役
1974　環境開発研究所取締役社長
1976　竹中工務店顧問
　　環境開発研究所顧問
1976　黄綬褒章受章
1987　「りんごのうた」出版

1．子供の頃、そして早稲田進学

小川正は1912年大阪に生まれた。父は住友合資会社工作部の技師で上司には日高胖、長谷部鋭吉、竹腰健造等関西の建築を彩った面々が机を並べていた。当時大阪の建築家達は横のつながりが密で、月に一度の集まりの後、午前３時頃に人力車で帰宅する父の姿を覚えているという。そうした仲間の中には、後年早稲田の大先輩として、小川自身も私淑することになる村野藤吾も含まれていた。建築家を継いで欲しかった父の意向を受けて長男正は早稲田に進むのであるが、官学派の母とは意見が別れた。しかし、佐藤功一、内藤多仲、吉田享二、今和次郎、大沢一郎、今井兼次、佐藤武夫等の充実した早稲田教授陣は父にとっても、子にとっても抗し難い魅力であったに違いない。早稲田時代、小川は勉学とともに、校風に倣って盛んだったクラブ活動にも参加した。75歳を迎える今も老化防止に利用している自動車の運転を始めたのも当時自動車研究会であったが、ハーモニカバンドとブラスバンドでの活動は華やかな想い出として今も息づいている。後年、竹中工務店という大組織の中で統卒力を発揮できたのは、この時代に培った団体活動での経験が物を言ったのかも知れない。前出の教授陣による建築学科の傾向も、自由闊達な学風を具現しており、インターナショナリズム万能の時勢にあって、コルビュジェと共にアアルト、デュドック、エストベリー、シュタイナーといったどちらかといえばおとなしい表現派の影響も青年小川の心に強く刻まれた。卒業論文は後に早大教授となった武基雄と組んで〝船舶居住施設計画論〟なるロマンな風呂敷をひろげた。

2．竹中工務店入社と戦中・戦後

1937年早稲田を卒業すると、これも父の意向をくんで竹中工務店に入社した。小川にとって大阪は故郷であり、人と人のつながりが密な大阪が何としても恋しかった。先輩村野藤吾も「江戸のへどろの中に何があるか」と大阪に居ついていたことも聞いていた。当時の竹中工務店の社長は〝ご主人〟と呼ばれた竹中藤右衛門で大工の棟梁といった風格があった。建設業でも〝組〟というのは嫌だと〝工務店〟を社名にし、自分は社員を 500人迄しか使えないと言って、竹中工務店といっても〝ご主人〟を中心にした大店といった雰囲気であった。

入社翌年の1938年、大陸を指向していた小川は大連市公会堂の設計競技に応募し、選外佳作に選ばれた。恩師である佐藤武夫博士の審査評は小川に自信と未熟さの双方を示唆してくれた。一等当選は前川国男であった。

ますます濃くなる戦時色の中、中国大陸に設計の応援に行っていた北京で1945年春現地召集され、洛陽で敗戦となる。労苦の一年を経て1946年６月帰国。引揚船ＬＳＴの中で非番の船員達が手をとって教えてくれた並木路子の唄う〝りんごの歌〟が、暗い廃墟の中で人人を慰め勇気づけていた頃である。この歌は当時の石川純一郎設計部長により大阪本店設計部の愛唱歌となり、部会も〝りんごの会〟と改名され40年を経た今も和やかに歌い継がれているという。

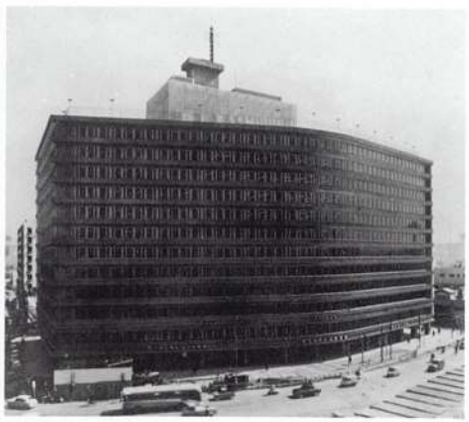
3．作品の系譜とアメリカでの経験

1952年40歳を迎えた小川は一気に、その才能の華を開き始める。高度成長期の日本の建設業設計部の目覚ましい活躍の象徴的存在と呼ばれるに至った片鱗を見せ始めるのである。現在も桜橋西にあるサンケイ会館が手始めであった。サンケイ前田久吉社長の命を受けた小川は同新聞通信員の肩書きを得て渡米し、３ケ月の間新しいアメリカ建築を心の興奮を覚えながら見て回った。特に完成したばかりのＳＯＭ、Ｇ．バンシャフトによるレバー・ブラザース本社は、ニューヨークの重苦しい石造の建築群の中で底抜けに明るいガラスのカーテンウォールの外装と、低層部のピロティを通して連なる太陽と緑と市民の憩うプラザに真の平和を、乾いた小川の心に強く印象づけた。多くの収獲を得て帰国し、サンケイ会館の設計に新たな息吹きを与えた。景気の高揚と共に、仕事量は増大しスタッフも着実に増え続けた。新朝日ビル、関電ビル、コマ劇場、朝日生命ビル、新阪急ビル、東洋工業マツダ大阪ビルと次々に大プロジェクトを設計部長として推進する一方、増え続ける業務を効率良く成就する方法を問われ始めていた。1960年、先見の明があった竹中錬一社長の〝設計業務をより充実させるために、米国における設計の実務を体験せよ〟との指示を受けた小川は、アメリカに設計事務所を開設し（サンフランシスコ竹中アソシエーツ：SFTA）自ら社長に就任した。時に48歳の若さであった。ミノル・ヤマサキと共同してサンフランシスコの日本文化センターを設計したり、アメリカに進出してくる日本企業の建物を設計した実務経験は、分業の重要さと、個人の責任の重要さ、システマチックな仕事のフローを教えてくれた。日本からは、若い人が経験を積むために入れ替わりやって来て、１～２年間アメリカでの実務を学んでいった。1964年アメリカから帰国した小川は開発計画本部を社内に開設し、今日ゼネコンと呼ばれる巨大企業が行っている開発事業の土壌を培った。それは将来に向けての積極的な建築需要の開発であり、常に社内にあって未来派指向の小川に相応しい職務であった。



G.バンシャフト(SOM) レバー・ブラザース本社 1952 (写真：小川正提供)


新朝日ビル 1960


新阪急ビル 1962

4．大阪人に育てられ大阪を造る

――施主は建築家をつくり、建築家は施主のために建築を創る

竹中工務店の工事量の80%近くは特命工事が占める。この数字は、竹中工務店の特質を最も良く表わしているものであり、工匠：竹中工務店と伝統的な施主との信頼関係をよく表わしている。このような環境にあって小川は多くの人々に出会い、教えられたという。小川語録で綴ってみよう。〝東京は組織としてのクライアントが多いが、大阪は組織の頂点に立つ人が直接建物の計画に携わることが多い。アサヒビール社長・関西のホテル王；山本為三郎翁に最初に会ったのは、大阪グランドホテルを新朝日ビルに含める計画の依頼を受けた昭和30年だった。呼ばれて料亭吉兆に行くと、湯上りの山本さんはくつろいだ格好で台所の次の間の長火鉢に向っておられた。まず酒の飲み方から教わった。人間の話から始められたのは山本さんだけだ。後日、グランドホテル支配人になる若山さんと一緒に呼ばれて夕食を御馳走になった。坂倉準三氏原案の札幌のパークホテルが出来たから視て来いということで、その晩の夜行の切符が用意されていた。駅に向う二人に、おかみが揃いのマフラーを渡してくれた。山本さんの配慮だったのだろう。以来ロイヤルホテルの完成までお世話になり、可愛がって載いた。サンケイ新聞の前田久吉さん、朝日新聞の村山長挙さん、小林一三さんにも阪急航空ビル、梅田コマ劇場で特にお世話になった。東洋工業の松田恒次さん、数えあげればきりが無い。これらの方々とご一緒に建築を考え、そして人間的つながりを深めることが出来たのが何より感銘深いことだった。トップとの話合いは、充分な準備は必要であるがその場で判断が載ける。梅田コマ劇場に関して、六甲山に避暑中の小林さんに提案説明をしたら、これは奇想天外だと5分で結論を得ることが出来たこともある。今の様に組織にもまれた担当者の結論からは八方美人の建築しか出てこないのではないか。〟想いを込めた建築について、〝自分の設計した建築が竣工して引渡される時は娘を嫁にやるようなもの。事情があって里親に変り、何十年も入ることすらできなかった建築に久し振りに接して、その充分な管理によって元気な変わりない仕上げと機能を見るとうれしくなって、その夜はつい旨い酒を飲んでしまった。〟慈父の様な眼をして小川は語り継ぐ、〝私自身を育ててくれ、人生を教えてくれたクライアントに耐力のある寿命の長い建物を提供することが私共の勤めです。それがお役に立つ唯一の奉仕かと思います。〟最後に1976年竹中工務店常務取締役退任のあいさつは、小川が建設会社設計部の理想としたところを最も良く語っていると思われるので引用したい。〝建築というものが唯一人の設計者だけで出来るということは毛頭考えられません。建築は命が長くなければならない。そして生き長らえる建築は必ず設計が良くなければならない、正しくなければならない、素材も正しく選ばなければならない。それに、適切な工法とその品質を管理していく責任をとらなければならない。こういうことが、唯一人の建築家で出来るはずはございません。私どもの様なそれぞれの分野に携わられる方々の組織の協力がないと、これは実現しないことだと存じます。こういう考えを持ち続けまして、40年間勤めさせていただいたわけでございます。〟

北村恭一（編集委員・大建設計）記

大阪の将来を人間的に考える

水の都八百八橋ともいわれた大阪は、東西南北に通じた堀割がそれぞれの街区を結び、水運による輸送と商いがそれぞれの街路を補って、市民の情報を保つ手段でもあった。

近代都市化は堀を埋めて下水化し、また高速道路の用地として大きな橋脚を無表情に打込んでしまった。

大川端といわれた堂島、土佐堀川の沿岸は、地盤沈下と水害を恐れた高い護岸を二段につくり、その上に遊歩道、植込、また駐車場などが整備されて来たが、水に親しむ市民の感覚とはほど遠い。その為に数多くの水路に降りる階段と、桟橋によって人々と水との接点を求めたい。中之島を南北に横断する堀割も、その土地の型態によっては、入江を復活して、小型船の溜りや、新しいウォーターフロントを型成して、船上店舗、レストラン、往年の〝かき船〟などの近代化をはかった、市民の憩いの場をこの大川端に提供したいものである。シヤトル、サンフランシスコ、ボストン等と性格の異なる市民の為の集いの場は、新しい自由な型の人間だけの橋梁を架けて、橋上のスペースや下部を自由に開放する手段もいくらでもある筈である。

有名な御堂筋、4kmの東西側にある舗道も両側一車線の要所を取り込んでベンチやテーブルや植込みをしつらえて、各ビルや銀行のシャッターを後退させれば、パリの様に歩行者に対して飲食のサービスも可能である。大阪の人は歩行速度が早過ぎるといわれる。夕景や休日の散歩道として、パレードだけでなく、人間的な新しい接点をつくることも簡単である。

夕方の憩いのない、せかせかした大阪は、数々の宝物が人間的に活かされないまま、不幸な都市になりつつあるのではないだろうか。

（小川正記）

書　評

状況中心社会の物質的空間と社会空間とのアナロジー論

伊従　勉
（いより）

本書『空間の日本文化』の原著は『日本の空間を生きるVivre l'espace au Japon』と題されてフランスの読者を想定して書かれたものである。著者は現東京日仏会館館長のベルク氏で、氏には本書（原著は1982年出版）以前に既に2冊の日本についての論考がある。最近、本書の第II章「空間の技術的組織化」をより詳細に扱った論考『野性と人工－自然を前にした日本人Le Sauvage et l'Artifice-Les japonais devant la nature』(Gallimard, Paris, 1986) をさらに世に問うたばかりでもある。

＊　　＊　　＊

さて、本書のいう空間が、物理的な意味での空間に限定されないことは、日本版の序の冒頭や第Ⅰ章に触れられている。つまり、主体と客体との特定の社会的な関係性を、著者は「空間」と呼んでおり、建築家お馴染みの「空間形式」とは、「《空間》の物質的組織」（本書、p.197）と理解しておかなくてはならない。しかもこの様な広義の空間は、その空間を「生きている」立場（つまり日本人）からは、なかなか対象化しにくく、見えてこない主題である。そこで採られる方法が比較論であり、本書の場合、それが正面には掲げられていないが、西欧の空間概念との比較作業を通して、日本人がなかなかもつことができない外部の目から、一見不可解にみえる日本社会の空間組織の仕組みを整合的に把握しようとする試みなのである。ということは、氏にとっては日本を媒介に自分の文化の空間構造を間接的に理解する方途でもあるらしい。その方法はしかも、生の現象をそのまま料理するのではなく、数多くある日本人による自己省察（所謂日本人論、日本人が自らを一番理解しているとは限らないのだが）を媒介にして、語るべくして語らせているところに、本書の巧妙さがある。

ところで、日本にあっては主体とは、まず超状況的絶対的な主体があって、その後で、社会的な諸関係が生じる（日本と比較する便法として、西欧の主体を氏はそう定義する〔p.24-32〕）のではなく、個人の置かれる状況の数だけ主体の名称があるという（人称代名詞の種類の多さは世界でも右に並ぶものがない）、西欧人からみると何とも不可解なこの局面から、氏は日本空間論をスタートさせる。この様な主体確定の弱い、状況依存的な傾向は、何かと集団を組む傾向と、集団としての性格ははっきりしているものの、内部では個人個人のはっきりしない均質な社会関係と結びつけられる。空間的なことがらでいえば、唯一絶対の視点からの全体的展望を拒むような、場所に拘束された内側の視点から、「それぞれの場所がその文脈のなかで、自らの存在理由となっている〔p.140〕」ような、中心が遍在する非統合的空間の理由ともなるのである。著者はその顕著な例として、日本庭園の造園術をあげる。「ここで重要なのは、概括的展望の回避である。散策者は、不連続に継起する視界に精神を集中し、その各々をそれ自体として観賞せざるを得ない〔p.176〕」。造園ばかりではなくもっと日常的な場面で、こうしたその場その場での全く奔放なる構築の伝統は、今日の日本の一見無秩序な、都市計画家からみれば嘆かわしい景観を形成する遠因となっているばかりか、それがむしろ文化の根本的傾向に由来していること、そのことがこのように示唆された例はあまりなかったといってよいだろう。ともあれ、日本の都市における記念碑的建造物の欠如、そして広場の欠如も、さらには歩道の欠如といった、西欧の都市概念からすれば全くネガティブな日本都



空間の日本文化

オギュスタン・ベルク著
宮原 信訳

筑摩書房刊
2,000円

市の局面が、都市空間を統べている論理としては、上空飛行的観察者（いわゆる都市計画家や建築家、そして為政者）の目ではなく、居住者の目によっていることの例証として、氏によって全く好意的に扱われているのには、都市計画家でなくとも、多少面はゆい思いに駆られるところである。

それでは、そのようにそれぞれに閉じた細胞からなるこの社会が、総体として容易にまとまり、先の世界大戦のような破局へと突走るのは何故であろうか。これこそ技術立国日本の社会構造を解明しようとする西欧人ばかりか、他国の評判を気にする日本人自身にとっても、日本社会の生態に係わる根本問題なのである（第Ⅲ章がその究明に充てられる）。

不確定な主体の生きる状況の一番原初的な形態は、大阪弁でいえば「ウットコ」にあたる、「そと」に対する「うち」、即ち社会的な場所（集団）と物理的な場所の複合した「家」という状況である。日本人のこの「内感覚」こそ、次元を超えて「うち」が社会的に変様する際にも変わることのない基本的雰囲気をなすものである。例えば、企業が働く男たちの「家」となり、社会の公共福祉施設の充実よりも、私企業の厚生施設の充実が時に先んじていることもあるというような社会の跛行的事態も、「家」のメタファーとしての企業の存在によっているのである。そのそれぞれの「うち」と「うち」とを媒介するものはそれでは何かというと、「公」とか「建前」という形式（権威）順応主義がそれである。こうして媒介された細胞群がなす均質な社会においては、全てが、身内か仲間である「うち」側の構成員だけからなる社会（世間）となるのである。換言すれば、この社会は、その構成要素として純然たる「そと」を含みえない、あるいは純然たる他者に対して全くの無関心か差別でしか対応できない「自分自身を解剖する勇気」のない社会になる危険をもっているのである。

この社会空間の内面求心的構造は日本人の自然に対する態度にも指摘される。日本人は自分が加工した景観を自然と同一視し、全くの自然（野性の自然）に対してむしろ無関心であるばかりか、自ら進んで破壊することもあるのはこれによる。これが本稿冒頭に紹介した『野性と人工－自然を前にした日本人』の問題意識の発端となる。

＊　　＊　　＊

最後に、本書の方法論について一言。本書の目的は、序に述べられるように、「日本的空間のアナロジー的な同一性を体系的に捉える」ことである。方法論としてのアリストテレス的なアナロジー論が、分析対象である日本的空間のアナロジー的構造の解釈に反響している。とすれば、アナロジー論を日本的空間の分析に採用することの是非についての理論的検討が問題として残されていることになる。著者は、家の「うち」性の、社会組織上でのより上位の次元へのメタファー（同一性の保持）について注目するのであるが、評者には「うち」の変様における同一性だけではなく、その差異性（変様の度合い）の考察に、特に日本の共同体の近代化の問題を考える糸口があるのではないかと考える。そして著者が広範に参照する日本人の自画像も、自画像自身としては文化の自己省察の自同律的発展形態であるとともに、思想上の批判的観点の生成（文化の自己差異化）に係わるものでもある。とすれば、特に後者について、日本の「うち」側から共同性の様態について批判的に論じた、例えば吉本隆明氏の『共同幻想論』などの観点を含めた上での、著者の日本論の今後の発展を期待したいところである。

――この本は現在、在庫僅少の為、購入しにくくなっていることをお詫びします。

書評委員（敬称略）
伊藤郁郎（日建設計）
伊従　勉（京都大学教養部助教授）
太田隆信（坂倉建築研究所大阪事務所長）
加藤邦男（京都大学建築学科助教授）
橋本敏子（生活環境文化研究所所長）
増渕昌利（神戸市営繕課）
山形政昭（大阪芸術大学建築学科講師）

私が読んだ本

〝話の特集〟が離せないのは

石東直子（都市プランナー）

のっけから本題にそれるが、昨春、２年間の中国滞在から帰国した時感じたのは、私の書斎にはなんとたくさんの本、資料がごちゃごちゃ詰まっているんだろうということ、日本の書店にはどうしてこんなにも多くの本があふれていて、新刊書がよくもまあこんなに次々と出版されるんだろうということだった。（これはなにも本に限らず、私の書斎、本、書店という言葉を私の家、物、街という語に置き換えて、いたる所でカルチャーショックを感じていた。帰国後しばらくは物の洪水に圧倒されて街に出るのがおっくうだった。）

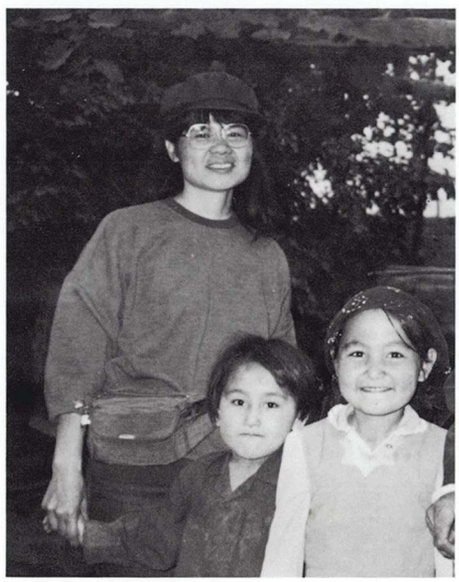
そこで、私はまず書斎にある本や資料類を整理し2/3程に減らした。ついでに、食器や衣服、家具、その他ごちゃごちゃ類も大幅に処分し、かなりすっきりした空間を得た。

それから、私は、いま仕事に必要になった本以外はほとんど本を買わないことにした。それでも定期講読をしている雑誌や会誌などが１ヶ月に10余冊も送られてくるので、月を追うごとに少なくなっていく書棚の空きスペースをいとおしく感じている。

近くの図書館は私の書斎

この頃、毎日新聞が月曜日に二面を割いて組んでいる新刊書紹介、書評、出版情報等のbooks・books欄を見てから、市立千里図書館に予約に行くのが習慣になっている。ほとんどの場合は新刊書の予約だから私が一番めの借り手になるので、ごきげんである。大体２、３冊まとめて予約する。予約してから早くても10日、遅くなれば１ヶ月以上もかかるが、予約した本が入れば電話で連絡してくれる。私は飛んで行って借り、ワクワクして帰る。一回の貸出期間は３週間もあるが、すぐ読んでしまう。読むのは、紀行、ノンフィクション物が多い。この種の本は作者の体験を読み手が疑似体験できるので楽しい。この図書館は駅前のセンター地区にあり、自宅から数分で行けるし、日常の買い物のついでにちょっと寄れるのもいい。貸出専用の小さな図書館なので、私は大体どこにどんな本が並んでいるか知っている。私の書斎をここに移したような気分でいる。各種の新聞や雑誌類も置いてあるので、書店で立ち読みする代わりにゆっくり座って読める。ウィークディの館内は静かなので、仕事の気分転換にちょっと駅前の私の書斎まで行ってみようという気分で出かける。この図書館は私にとっては、書斎の家賃も払わんでええし、書斎の掃除もせんでええし、読みたい本が自分のお金を出さなくても買ってもらえるしということで、この上もなく条件のいい私の書斎を得たという感じである。

本を買わなくなった私が、依然として買いつづけている雑誌が１冊ある。毎月27日の発刊日を待っている。〝話の特集〟である。もうずいぶん昔から愛読している。



中国・ウイグル族の子供たちと

内容は、まさにその雑誌名と同じで、話の特集であり、実に様々である。時評めいたもの、テレビ時評、時の人のインタビュー、芸能情報などもあるが、いろんな分野の人のエッセイやコラム、自伝めいたものもある。もちろん漫画もあるし、イラストの傑作にも時としてお目にかかる。かといって、かるーいタッチの娯楽雑誌ではない。内容のしっかりした、このての雑誌ではユニークな存在である。私はこの雑誌でなければ、という離せない魅力を感じている。

その一つは、日本の機構の中でガラス張りになっていない部分の情報を得ることができる。一般に報道されない部分の情報がわかる。私たちの得る情報は、嘘は報道されていないが、報道されていない部分が多い。たとえば、国会の各委員会の情況や議員さんたちの裏取引の様子など、かつて国会議員であった中山千夏さんが報告していた。また警察の内部体制などもちろん私たちは知る術がない。警察は私たち個人個人についての情報をほんとにきっちり収集して押さえていると知ったら…。またいかにも本当らしく作られて報道されているテレビの番組、それをほんまもんと瞬間的にせよ感ちがいして見ている、私たちの気づかない恐ろしさ、そういう瞬間的な誤解の積み重ねの恐ろしさが分かってくる。テレビの嘘が見えてくる。〝３ＦＥＴ〟の取材のえげつなさ、大衆（？）の覗き本能をくすぐるように取材人がスクープを作り上げていく。そんなんを知るとあほらしいて３ＦＥＴなんか見る気もせえへん。

こんなようなことを、講演会に出かけて行ったり、専門的な単行本や論文を読んだりして知るのはしんどいが、〝話の特集〟を楽しんで読んでいるうちに分かってくる。隠されている事実が分かってくると、自分の判断の材料になる。識別して見たり読んだりするようになる。

岩城宏之さんの〝からこらむ〟が好き

もう一つは、この雑誌に文章を書いている人たちが面白い。少数派である。弱者である（権力の座にいない）。自由が好きな人たちである。マスコミに出ない人たちである。自己のにがい体験からコツコツと反体制の自分の地を作っている人もいる。それから〝遊び〟が好きな人も多い。だから文章が愉快で、味がある。私はとくに岩城宏之さんの〝からこらむ〟が好きである。

いしとう　なおこ
1965年　大阪市立大学住居科卒業
1967年　神戸大学大学院修士課程修了後、都市問題経営研究所、市浦都市開発建築コンサルタンツに勤務
1984～86年　中国天津大学及び華中工学院の大学院で住宅・都市環境整備等を講義
現　在　フリーの都市プランナー、石東・都市環境研究室主宰、技術士、中国天津大学客員講師
２年間の中国滞在記を近く出版予定

新刊寸評

職人共和国だより
伊豆松崎町の冒険

石山修武著

西伊豆の松崎町に同町が生んだ江戸末期の左官職、名人・入江長八の作品を展示した「長八美術館」がある。著者の設計になるこの建物の建設にあたっては、様々な職人の力が結集され駆使されたそうだが、この本には、その建設の過程において、近代建築が駆逐してきたこれら職人の技術・気質を何とか現代に取り戻していこうという、設計者はじめこの仕事に携わる人々の思い入れがつづられている。本の構成はこの美術館の話を中心に著者がこれまで発表してきたものをオムニバス風にまとめたものでやや散漫な感はあるが、力を合わせ目的に向かってものを作りあげていこうとする熱意は伝わってくる。



伊藤郁郎（晶文社刊 1,900円）

亀裂自閉性樹脂防水材

パラテックス

大関化学工業株式会社
本　社　神戸市東灘区本山中町1－11－6　☎078－452－2591
大阪支店　大阪市西区西本町1－10－10　全日空ビル　☎06－538－1841
東京支店　東京都港区虎ノ門5-3-20　仙石山アネックス　☎03－437－9871

はじめに

建築物の防水工法は、アスファルト防水、シート防水、塗膜防水、最近は金属板防水も加わって、四種類に大別されます。今号で紹介する塗膜防水「パラテックス」は、塗膜が柔軟で、下地の亀裂に追随するばかりでなく、亀裂が生じた場合でも自閉作用に依り漏水を防止する特許工法であります。（工法特許　ＪＰ－No.1109187）

パラテックス防水工法の種類と用途

●一般防水工法

Ａ工法　浴室、ベランダ、厨房、トイレ及び役物、補修部等の補強。

Ｂ工法　受水槽、浄水施設、下水処理槽、プール、養魚池、地下構造物内壁及び外壁埋め戻し部。

Ｃ工法　屋上、バルコニー、斜屋根、パラペット等、主として下地変動の起こりやすい露出面。

●特殊工法

Ｑ工法　フリーアクセスベースフロア等、防塵処理を要する箇所。

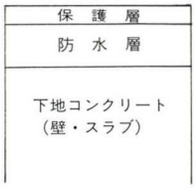
気密工法　穀物・燻蒸貯蔵用サイロ内壁面。

その他、樹脂の特性を利用して防水を兼ねた外壁化粧防水材として、パラテックスカラー、パラテックスカラーリシン、パラオール、パラホーンがある。

パラテックスの特徴

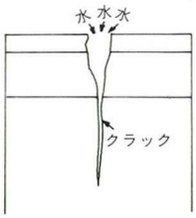
1．下地の亀裂に良く追随する。
2．亀裂部は自閉作用に依り漏水を防止する。
3．接着性が良い。
4．火気に依る爆発や、溶剤に依る中毒などの心配がない。
5．出入隅、立ち上がり、細部の納まりへの施工が容易。
6．塗り継ぎや部分補修が簡単にでき、強度低下がない。
7．耐水、耐アルカリ、耐塩素、耐熱、耐寒、耐オゾン、耐クリープ性に優れている。

パラテックス塗膜防水の自閉システム



標準的な施工状態

用途に適応した工法で防水施工。

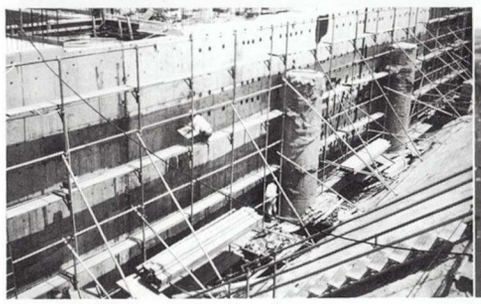


亀裂発生状態

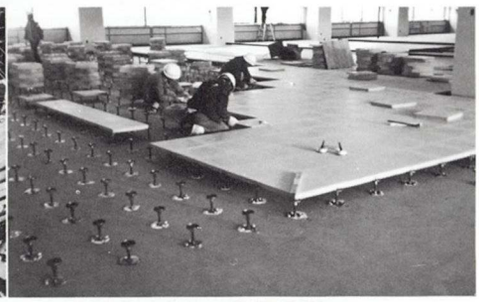
ゼロスパンテンションで防水層が、軀体の亀裂発生に依って共に破断した状態。



水槽ビル（大阪府村野階層浄水場）



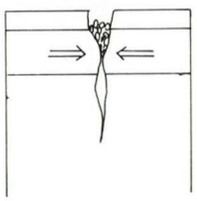
外壁埋戻し部防水工事



フリーアクセスベースフロア防塵防水塗装床

パラテックス防水塗膜の各種試験

引張り強さ　JIS A－6008		28.5　kgf/m²
引裂き強さ　JIS A－6008		19.5　kgf/m²
付着強さ JIS A－6909	標準状態	27.0　kgf/m²
	浸水後	8.8　kgf/m²
透水比　JIS A－1404		0.04
吸水比　JIS A－1404		0.085
透湿度　JIS Z－0208		235g/m²·h℃
引張り伸び率		104%



亀裂部閉鎖状態

防水層は、侵入した水分で吸水膨潤し、時間経過により生成された炭酸カルシウムが塗膜成分中の活性ゲルに依って亀裂部に吸着固化されて自閉し漏水が止まる。

パラテックスの組成

柔軟で耐水性、耐アルカリ性の良いエチレン酢酸ビニル系エマルジョンであるパラテックス原液（主材）と、耐蝕性に優れたアルミナセメント系混和剤の組み合わせから成っている。アルミナセメントは、ポルトランドセメントと異なり、防水機能及び硬化促進、それに供う強度の早期発現に寄与する。

図1．アルミナセメントコンクリートの強度発現性

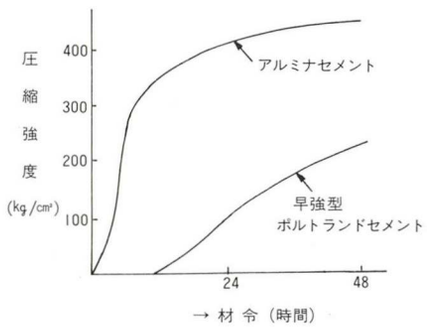


図1は、アルミナセメントと早強型ポルトランドセメントの初期の立ち上がり（強度発現性）の差を示す。

図2．パラテックス塗膜の経日接着強度

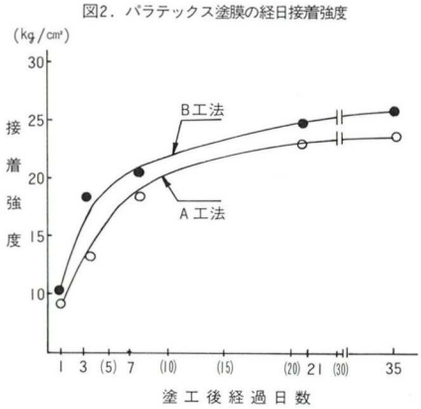


図2は、このアルミナセメントを利用したパラテックス防水材が、ほぼ、1週で最終に近い接着強度に達することが確認された試験結果を示す。

おわりに

塗膜防水でも、独自の特徴をもった製品ですが、用途、目的に合わせた選択が重要です。商品としての実績もあるので、詳細なデータ等については、標記メーカーにお問い合わせ下さい。

建材委員／小西　努（大成建設）

新規購入機器紹介
デジタルプログラム発信器

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
　　土曜：9：00～12：00

昭和61年度施設整備計画の一環として、このほど動風圧試験室にデジタルプログラム発信器（本田工業株式会社製、操作盤の全景を**写真－1**に示す）を導入した。

従来はアナログ型プログラム発信器により、手動で圧力コントロールをおこなってきたが、本器の設置により圧力制御の自動化が図られ、JIS 規格および ISO 規格等の水密試験や耐風圧試験に規定されている圧力載荷速度あるいは圧力保持がより正確になった。以下にその概要を紹介する。

1．概要

本器は動風圧試験装置用指令電圧発生機器で、マイクロコンピュータにより正弦波を基本とする各種波形の指令電圧を発生させ、チャンバー内の圧力を制御するものである。**図－1**に示すように、圧力チャンバーとブロアとの接続ダクトに設けた弁の開閉をプログラム発信器からの指令電圧によりおこない、チャンバーへの送気および排気空気量を制御する。圧力計からの電圧信号（実測圧力）と指令電圧（設定圧力）とを比較してその差を比例積分で補正するフィードバック回路により、チャンバーの圧力が常に設定圧力を保持するようになっている。

2．仕様

本器は、キーボード、ＬＥＤ表示盤および切換スイッチ等で構成されている。以下にその仕様を記す。

(1) マイクロコンピュータ部
　1) CPU　：Z-80CPU（2.4576 MHz 動作）
　2) メモリー：ROM……12KB
　　RAM……12KB

(2) フィードバック制御
　1) 静 特 性：比例積分（PI）動作
　2) 動 特 性：比例積分動作を加え圧力計からのピークを検知し振幅を制御する。
　3) 動作範囲：±10V

(3) 指令電圧
　1) BIAS　：圧力範囲……－100%～＋100%
　2) SWEEP：圧力範囲……－100%～＋100%
　　SWEEP 時間……0.1sec～100sec
　3) 正弦波(脈動)：振幅……0.6%～100%
　　振動周期……1.0sec～100sec

(4) シーケンスプログラム
　1) 記憶容量：100ステップ×３チャンネル

3．圧力載荷例

以下に圧力載荷例を示す。

(1) JIS A 1517（建具の水密性試験方法）に規定される載荷（**図－2**参照）

(2) JIS A 1515（建具の耐風圧性試験方法）に規定される載荷（**図－3**参照）

4．特長

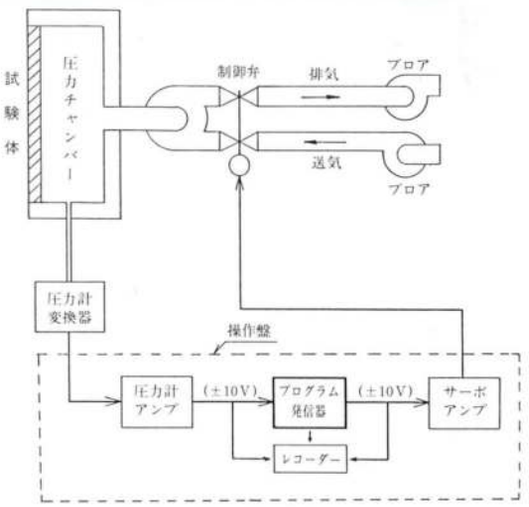
● JIS 等の試験方法に規定された圧力の設定を、全てデジタル量で処理するため、アナログ型発信器の使用時に生じた圧力制御の個人差が解消される。

● 加圧速度、ステップ、加圧時間および脈動周期の設定が、予めプログラムでき、自動運転できる。

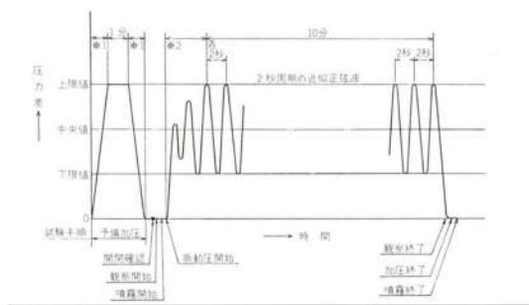
● 突風に相当するような風圧衝撃荷重が載荷できる。



写真－1　動風圧試験装置操作盤

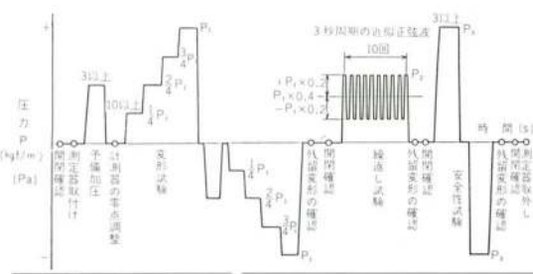


図－1　動風圧試験装置系統図



図－2　JIS A 1517による圧力載荷方法

注）※1：昇降圧速度は1kgf/m²/secを標準とする。
　　※2：近似正弦波設定の過程は、特に規定しない。



図－3　JIS A 1515による圧力載荷方法

注）昇降圧速度：変形試験、繰返し試験－10kgf/m²/secを標準とする。
　　：安全性試験－50kgf/m²/sec以下とする。





巽　和夫
京都大学教授
古林敏郎
広島県土木建築部都市局営繕課長
谷　淳之介
東畑建築事務所設計部長
美濃吉昭
大成建設建築部設計部長
1月号から6月号まで上記の4氏が担当

需要論と必要論

住宅供給に売れ残りが続出したり空家率が高い水準をマークするなどの諸現象から、住宅需要についての充足感が高まり、政策的に進められている公共住宅供給への風当りは、〝民活〟の波にも流されて強まってきている。こうした実情を容認しているからかどうか、このところ、公共住宅主体の意気がさっぱり上がらない。顕在化した需要を住宅事情の指標とみる考え方、つまり素朴な「需要論」の立場に立つ限りでは、公共の役割はもう終っているといえるのかも知れない。

戦後、昭和20年代から40年代にかけての公共住宅供給の主目標は、住宅不足や住宅難の解決であって、大量の需要を背景にしていたとはいえ、明確な「必要論」を押し立てていた。今日の情況はもちろん大きな様変りであるけれども、最低居住水準未満の解消、インナーシティ・ハウジングの整備、木賃・ミニ開発地区の再開発など、〝豊かな日本〟のなかにひとりとり残された住宅問題は山積している。顕在化した需要を相手にするのは民間セクターに委せるとして、複雑な経済・社会のしくみの中に閉込められた劣悪な住宅事情を改善し、潜在する需要を顕在化させる役割は、きちんとした政策的「必要論」によって体系づけられた公共の仕事であろう。　（K・T）

時代の流れ

実社会に出て30年を迎えるが、技術の進歩は隔世の感がある。始めて製図板に向い、新しいT定規、三角定規、三角スケール、計算尺を与えられた時の清心な気分、果して１人前の建築家になれるのか、自分の描いた図面が家になるのか、積算はどうするのか、不安の中での先輩の一言の助言が本当に嬉しかった。ＲＣ造の初期というか、未だ木造の図面が幅をきかせていた30年代の初期で、木材の種類、仕口、屋根の雨仕舞や仕様書等むづかしい用語を覚えなければならないし、現場に行けば大工用語を覚えなければ、監督するのに意志の疎通を欠く。木造の学校建築になると、木材の検収に１本１本柱を転がして、合格材には検印を押す作業に手間どり手や腕が痛くなるほどだった。さきほどの製図道具一式にしても最近ではドラフターひとつですべて用をなし、計算尺やタイガー計算機なるものは、ついぞお目にかかれない。

建築を志すマインドは永遠に変らないにしても、あまりにも今日の技術が専業化また分業化し、その道のオーソリティーばかりの集団で、果してユーザーの求め、期待する建物が出来るのか。確かに専業化する事によってハイレベルの良質な建物が提供されるのは無論であるが、それらの技術がデスクワークに終らず、大地の中で自然的条件を克服し、その土地の風土や、気候に耐えながら立体的に組み合わされてこそ、強固な信頼を得る建物として評価されるものであろう。　（T・K）

改造工事

Renovation（改造）、Refresh（改装）、Renewal（再開発）、Reconstruction（改築）。都市再開発から住宅の改装まで、今や世は改装、改造ブーム。ホテル、病院、文化ホール、銀行、ショッピングセンター、マンションと、止まるところを知らない。戦後の復興期より高度成長期を経た今、あらゆる分野の建物が一通りの建設ラッシュを経験し、中には第二次、第三次のブームを通り越して第四次ブームまでというのもあるが、何れにしても一応のストック作業を終え、衣食足りて礼節を知るという諺にも似て、今僅かながらも量より質に目が移りかけたといえる。曰く、本物の時代、ハイクオリティー、美、感、遊、創。造ったものを根こそぎ壊すのもままならず、さりとて時代遅れのままではそっぽを向かれ役に立たず、一応の経済力を背景にして改装、改築へと到るのであろうか。折角の建物や家具、備品、什器等を、部分的にとはいえ、惜しみながらも結局は捨て去ってしまう風潮は、使い捨て讃美の大型版のようでもあり、決して歓迎すべきものとはいえないが、せめてその代償として、物を見直し、じっくりとその本質を探りあてるためのチャンスとして利用できればとも思うのである。　（J・T）

パーソナルサービス

各国の一流ホテルを予約して泊り、調査をする機会があると思うが、それには関係なく、予定外の行動でパリの宿をさがす。日航パリ支局のカウンターで紹介してくれた駐在員の常宿、凱旋門の近くにあるホテル、アーケリーゼを訪れる。古いタウンハウスを改造した20室程度の規模で、家族がサービスをしてくれる。都市型ペンション？　部屋は狭く、一つしかない窓が小さな中庭に面している。そして、小さなバスルームにもかかわらず、ビデが設けられているのが、いかにもパリらしい。１階には、フロントカウンター、２脚の椅子がある狭いロビーと、６卓のダイニングルームのみである。

清潔なシーツの中で疲れを癒した朝、特大カップのカフェオレとクロワッサンだけの朝食が、やけに旨い。それから、ホテルの玄関前に横付けされるであろう観光バスを待つのである。昨夜は、市内観光を予約するにはと、ツーリスト案内の場所を聞くために、フロントのパリっ子とたどたどしい英語でやりとりをしたが、予約は彼が受けるという。この小さなホテルまでバスが巡回し、迎えにきてくれるという。信じられないまま一夜を明かしたわけである。暫くしてバスが来る。さすが観光のパリ、都市ぐるみのパーソナルサービスを感じる。　（Y・M）

特集　躍動する東海へ

作品作風

- ポートハウス
- 庄内緑地グリーンプラザ
- 愛知県赤十字血液センター
- 第二電電名古屋ネットワークセンター
- KARIMOKU SNOWROOM
- 富士カントリー可児クラブ美濃コースクラブハウス
- 椙山女学園大学星ヶ丘キャンパス

最近竣工した東海地方の作品18点

スケッチブック



座談会

東海のイベント

出席者：生田敦生／石原武／篠田恭彦／本一雄／藤原康司／由井求／中島一

座談会

支部の活性化を求めて

出席者：一圓俊郎／中島一／長谷部利夫／桝林宏二／松本壮一郎／林金之

建築地場産業ルポ

9．織物（一宮）　10．合板（名古屋）

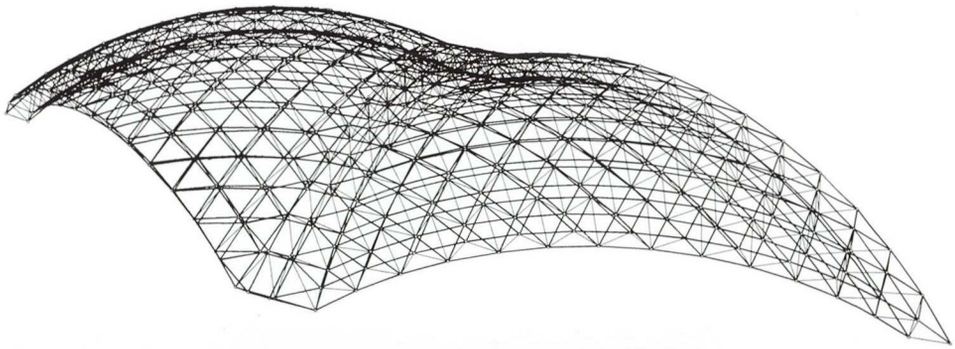
本特集企画　日本建築協会東海支部特別編集委員会　　写真：夕陽に輝くポートハウスの屋根（撮影　納崎雄二）

ポートハウス

設計　名古屋港管理組合・東畑建築事務所
監理　名古屋港管理組合営繕事務所
施工　矢作建設工業
空調　高砂熱学工業

所在地　名古屋市港区港町108　ガーデンふ頭地先
敷地面積　75,229.90㎡
建築面積　1,485.79㎡
延床面積　1,391.44㎡
構造規模　S(立体トラス)、一部RC、2F
工　期　昭和60年8月～昭和61年4月
最寄駅　地下鉄名城線名古屋港駅

撮　影　納崎雄二







ポートハウスは、地下鉄名古屋港駅を降りたすぐ目の前、ガーデンふ頭に建っており、その姿は舞い降りた鳥が翼を休めている様にも見える。
この地域一帯は、親しまれる港まちづくりを目指し、ウォーターフロントの開放と共に背後市街地(築地地区)と一体となったまちづくりが進められている地区である。ここガーデンふ頭においても、ガーデン緑園、ポートビル(海洋博物館)、南極観測船〝ふじ〟の係留、更には水族館の計画等、海の玄関口としての新しい顔づくりが進められている。
ここ築地地区において、我々は昭和55年以来、地区全体のまちづくりに、名古屋市、住宅・都市整備公団、名古屋港管理組合の方々と共に参加し、様々なプロジェクトに関わって来たが、その中で具体的に実現したものの一つがこのポートハウスである。
この建物は、ガーデンふ頭に集まる人々にとってのオアシスとして、一度に400人の食事・休憩が可能な空間を確保するため、最もプリミティブな〝シェルター〟としての機能をその形に求めた。構造的には、港のダイナミックで拡がりのある景観と一体となった空間とするため、立体トラスのパラレル・ボールト構造を採用し、軽やかでフレキシブルな無柱空間を創り出している。屋根材は港の持つハイテックでシャイなイメージを求めて、ステンレス長尺葺(シームレス溶接工法)を採用し、市民に親しまれる海の玄関口にふさわしく、子供達に〝海〟への憧れを抱かせるデザインとした。
今、まさに飛び立たんと光り輝くその翼は、海に思いをはせる子供達の夢を、また港のまちづくりに思いを寄せる人達の夢をも乗せ、力強くはばたいて行く事を願うばかりである。

(佐伯　博/東畑建築事務所)

弋	土木村建設	鋼製建具	フジ建鉄
型枠	海津建設	硝子	サンショー
鉄筋	小林鉄筋工業所	左官	村瀬業務店
TMトラス	太陽工業内	装	愛知木材
屋根・ステンレス	綿半鋼機	塗装	加藤興業
防水	重喜防水工業	衛生設備	理研鋼機名古屋支店
タイル	名古屋建陶社		


NO 8
N021

庄内緑地グリーンプラザ

設計　名古屋市営繕課・安井建築設計事務所
監理　名古屋市営繕課
施工　戸田・犬飼建設特別共同企業体





室内広場棟



温室



配置図　1:1,500

所在地　名古屋市西区山田町大字上小田井字敷地3527
敷地面積　24,700.00㎡
建築面積　3,312.38㎡
延床面積　3,484.39㎡
構造規模　RC、一部S、2F
工　期　昭和59年12月～昭和60年9月
最寄駅　地下鉄鶴舞線庄内緑地公園駅

撮　影　納崎雄二・SS名古屋

庄内緑地は〝水と緑と太陽〟をテーマに、庄内川の遊水池を利用した総合公園として、昭和40年代半ばから整備を進めてきました。この緑地全体の核ともいえる庄内緑地グリーンプラザの完成によって、事業区域の約80%が整備されたことになります。建設省は「第4次都市公園等整備5ヶ年計画」の柱の一つとして、都市公園内での市民の健康づくりに本格的に取り組む方針を打ち出しました。庄内緑地グリーンプラザは全国に先がけ、そのモデルとして事業化されたものです。生活様式の変化、高齢化社会の到来という社会的背景を踏まえ、当施設は市民のだれもが、いつでも気軽に健康運動や緑に親しむ場を提供するという意図のもとにつくられたものです。

施設は大芝生広場をかこんで、温室レストラン棟・室内広場棟・管理棟の3棟によって構成されています。「緑と健康のコミュニティ」の施設テーマを基に、屋外とのふれあいを求めて低層による分散型の配置計画としています。それぞれが緑とかかわりをもたせた開放的な空間構成を心掛けました。

●管理棟……プラザ全体の管理機能と緑化あるいは健康運動等の指導、相談、情報の提供を行っています。入口広場に面する正面は2層吹抜のピロティに大屋根を覆い、夏の日除け、雨やどり、入口広場と連続させて各種の屋外展示会等多目的に利用できるコミュニティの場として考えられています。

●温室・レストラン棟……一般家庭でも栽培ができる熱帯性植物を中心にコンパクトにまとめられています。2階の休憩コーナー、隣接させたレストラン等、色々な角度から観賞できるよう計画されています。

●室内広場棟……名称のごとく単に体育室でなく、三方を庭園に向かって開放のできる透明建具とし、室内においては自然の風の中で運動ができると共に、芝生広場・フィットネス広場との相互利用による屋外空間との一体化を主に考えられました。

（野崎敏夫/安井建築設計事務所）



入口より右に管理棟、正面に温室を見る

愛知県赤十字血液センター

設計指導　名古屋大学工学部柳澤研究室
設計監理　伊藤建築設計事務所
設計協力　建築計画連合
施　　工　鴻池組・信和建設 建設共同企業体



正面全景



上空より

所 在 地　愛知県瀬戸市南山口町
敷地面積　46,199.73㎡
建築面積　3,202.89㎡
延床面積　5,698.80㎡
構造規模　RC、4F、P1
工　　期　昭和60年1月～昭和61年12月
最 寄 駅　地下鉄藤ヶ丘駅
屋　根　アスファルト防水歩行屋根
外　壁　施釉磁器モザイクタイル
建　具　アルミ製電解着色仕上

愛知県赤十字血液センターは、昭和37年に愛知県赤十字血液銀行として設立されて以来県内の血液事業を進めてきた。わが国の輸血用血液のほとんどは、献血によりまかなわれているが、医学の進歩はその需要を急増させる一方、血液製剤も従来の全血製剤から成分製剤へと移りかわってきている。この様な状況にあって、ＧＭＰ基準に適合した施設とし、製剤・検査の処理能力の向上をはかるべく新しいセンターが建設された。

血液センターの業務は、献血者から採血し、その血液を検査し、分離製剤し、医療機関へ供給するものである。また当センターは、この地区の基幹センターであり、管内の他のセンターの職員の研修と、医療機関への技術協力もその業務としている。

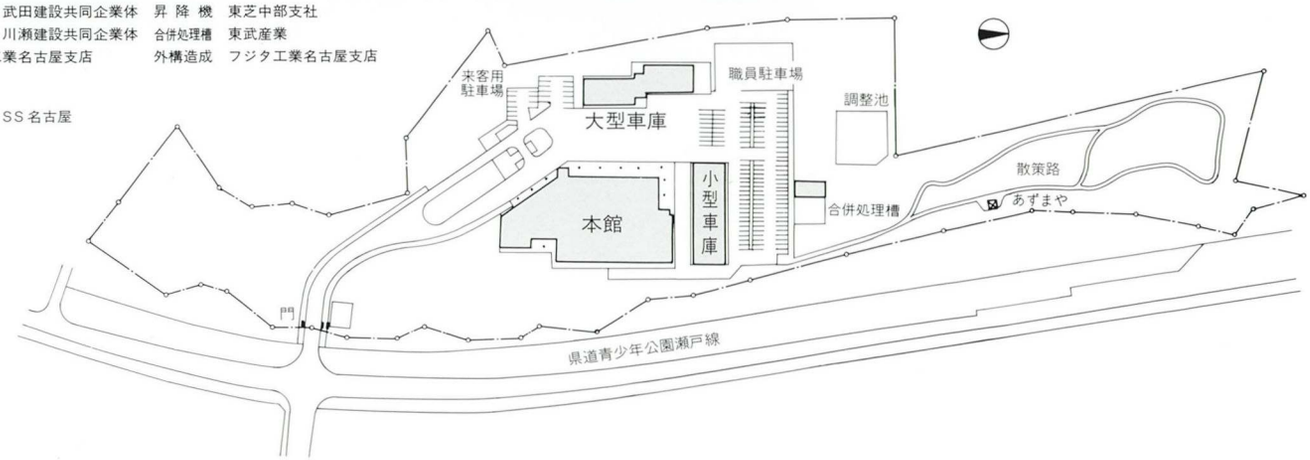
建設地は、名古屋の東部、瀬戸市にあり、豊かな自然が残された地域にある。敷地の広さは約46,000㎡で、その内約40％を建物敷とし、20％を構内道路や調整池にあて、残りの40％は保存緑地として残している。修景緑地を含めれば、敷地の過半を緑地とし、環境の保全に努めている。

多くのセンターが、敷地の制約から中層あるいは高層式であるところを、恵まれた敷地の条件を生かして、低層式とし、採血、製剤、供給の生産ラインを一つの階にまとめることができ、医薬品の製造・品質管理に理想的な設計の施設としている。

（森口雅文／伊藤建築設計事務所）

空　　調　大気・武田建設共同企業体　昇 降 機　東芝中部支社
電　　気　中央・川瀬建設共同企業体　合併処理槽　東武産業
衛　　生　浦安工業名古屋支店　外構造成　フジタ工業名古屋支店

撮影　納崎雄二　SS名古屋



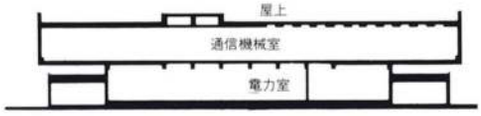


第二電電名古屋ネットワークセンター

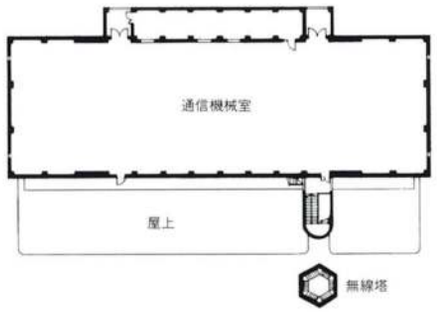
設計　日本総合建築事務所
施工　大林組名古屋支店(他社と共同施工)

当センターは、昭和60年4月1日の電気通信事業法の施行による、電気通信の自由化に伴いスタートした第二電電株式会社の東名阪を結ぶルートの中部地区の拠点である。
ネットワークセンターの機械室は、ボイドスラブの採用により、14.4m×44mの無柱空間とし、通信機械の自由でロスのないレイアウトを可能としている。また、ボイドスラブの中空部分を空調ダクトに利用している。外装について、機械室は打放しリブ付とし、事務棟は鋼板にアルミ溶射仕上げとし、つや消しの単純な壁面を作っている。
外構は芝張りの大きな面の中に、搬入路や駐車スペースを取り込み、やがて繁ってくれるであろう多くの実のなる樹木が小鳥を迎えてくれればと願っている。構内の舗床は味気ないアスファルト舗装を避け、インターロッキングブロックのやわらかい感じとし、この施設が地域になじみ、又、とけこんでくれる事を望んでいる。
六角形の無線塔も60m近い高さをもち、街のランドマークとして親しまれたいものだ。
(新美 清／日本総合建築事務所)

所 在 地　愛知県一宮市住吉2-7-14
敷地面積　5,041.38㎡
建築面積　1,056.82㎡
延床面積　1,740.97㎡
構造規模　RC、一部S、2F
工　　期　昭和60年8月～昭和61年5月
最 寄 駅　JR東海道本線尾張一宮駅、名鉄新一宮駅



断 面 図



2階平面図



1階平面図　1：800


国見リレーステーション

国見リレーステーション

設計施工　大林組名古屋支店

東京～名古屋～大阪間を結ぶリレーステーションは計8ヶ所設けられ、その内、この国見リレーステーションは、伊吹山の北東約5㎞国見岳山頂に建設された。
当地は、岐阜県、滋賀県の県境標高1,115mに位置し、自然環境は極めて厳しい。設計上、風、積雪、凍結等に対する様々な配慮がなされている。
(大林組)

所 在 地　岐阜県揖斐郡春日村字美束大字細野
敷地面積　2,030.00㎡
建築面積　196.14㎡
構造規模　RC、IF、PI
工　　期　昭和60年8月～昭和61年9月



名古屋ネットワークセンター

KARIMOKU SHOWROOM

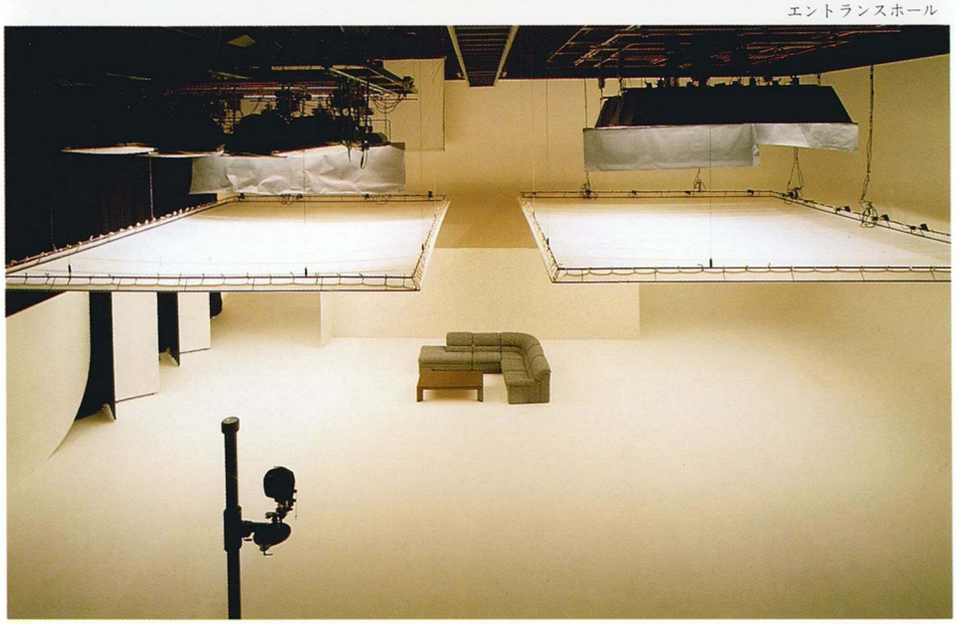
設　計　浦野設計
施　工　清水建設

所 在 地　愛知県知多郡東浦町大字藤江字皆栄町108
敷地面積　7,500.00㎡
建築面積　3,020.59㎡
延床面積　9,998.74㎡
構造規模　RC、5F(一部2F)
工　　期　昭和60年12月～昭和61年８月
最 寄 駅　JR東海武豊線東浦駅

撮　　影　納崎雄二



エントランスホール



写真スタジオ

このショールームは「明日のインテリアビジネスへの新たな第一歩を踏み出す場」として、商品展示や各種ノウハウの提供、研修・人材育成等を中心とした情報拠点の強化・拡充化を目的としている。

敷地は広大なカリモクグループ工場群の中央部に位置し、この周辺スケールに対応したシンプルな形態と、アプローチ道路よりの正面性を強めた形態とした。正面幅43ｍの中央にハーフミラーのカーテンウォールを縦にとり、両側のマッスの間で、青空にクリアーに映えるようにした。玄関廻りは深みをつけ、約10ｍのキャンティ庇を設け、上部のマッスに対応したスケールをもたせた。

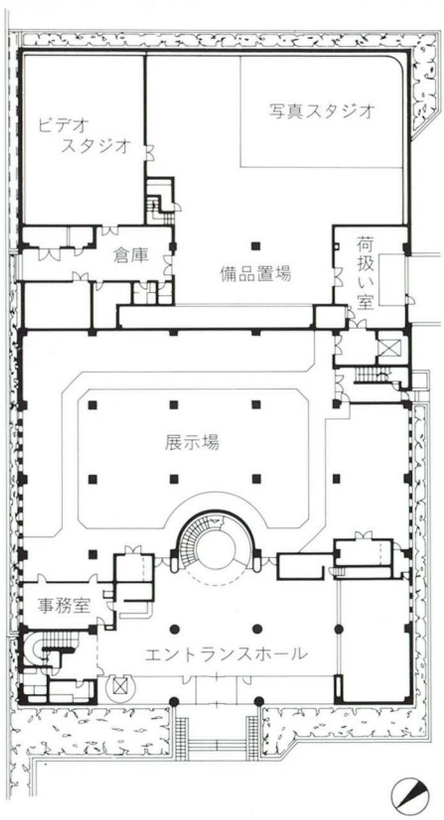
内部は展示スペースと、研修・スタジオ機能とで構成されている。

展示スペースは、“WANTS”の時代に対応した“明日を創る”舞台づくりの場であり、各フロアー毎に約1,500 ㎡の展示面積を確保して多様な展示展開が同時にできるようにし、また変化に対応できるようフレキシブルな空間とした。

スタジオは、ビデオと写真スタジオ(３セット)を設け充実した機能をもたせ、さらに展示スペースから回廊にてスタジオを見学できるようにした。

エントランスの正面には、２層吹き抜けのアルコーブに沿って浮遊するスレンダーな廻り階段を象徴的に設けた。

(野々目　時宗／浦野設計)



１階平面図　1:800


KARIMOKU



富士カントリー可児クラブ
美濃コースクラブハウス

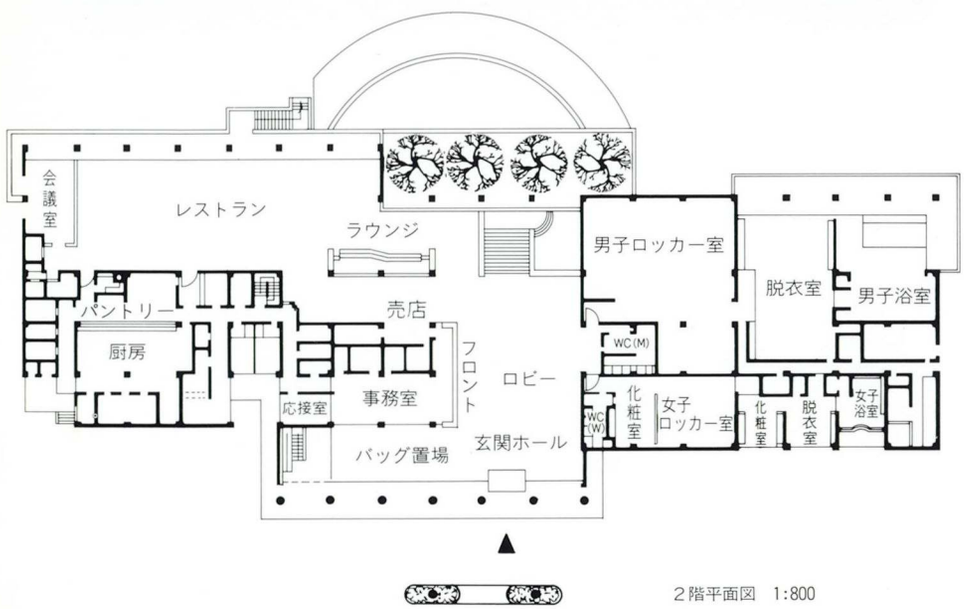
設計　岡設計名古屋支店

施工　建築　東海興業　空調　朋和技研工業
電気　内藤電機　衛生　大同施設工業





上　正面外観　　下　玄関ホール・ロビー



2階平面図　1:800

所 在 地　岐阜県可児市久々利柿木入会地内
敷地面積　429,072.93㎡
建築面積　3,700.377㎡
延床面積　4,248.565㎡
構造規模　RC、一部S、2F
屋　　根　和瓦葺
軒　　天　米栂縁甲板貼ウレタン塗り
外　　壁　合板型枠打放シアクリル系スタッコ仕上
工　　期　昭和59年12月～昭和60年7月
最 寄 駅　JR中央線土岐市駅

撮　　影　田中昌彦

最近、ゴルフの会員権が異状な値上がりをしている。なぜ、このような現象が起こるのか、またいつ迄このような状態が続くのか、よくわからないが、ともかくゴルフ人口が増えつつあることは確かなようである。現在、日本中にゴルフ場の数が1,500ヶ所程あると聞いているが、さらに今後数百ヶ所も増えようとしている。この様な状況から、これからのゴルフ場のあり方が大きく変わるのではないかと思われる。ゴルフは本来、スポーツの分野であると思っていたが、今や娯楽の領域の方が大きくなり、誰もが自由に楽しめる一方、「グリーンの待合」と呼ばれる様な接待ゴルフの分野が大きくクローズアップされて来た。コースも多種多様で、やさしい平坦なコースもあれば、戦略性に富んだものや、著しくアメリカナイズされたコースや、一方ではゴルフの発祥地であるイギリスのコースに回帰的なものまで、まさにゴルフの多極化を迎えている。それほどまでにゴルフは今や、ブームである。

かつては、一部の人達のものであったゴルフが大衆化し、一般化したことは良いことなのだろう。今後はさらに、さまざまなゴルフ場が出来、より個性化の方向に進むことになるのではないかと思われる。

ところでこの富士カントリー美濃ゴルフコースのクラブハウスの特徴は、最近とみに増えつつある女性ゴルファーにとって、男性同様、対等にゴルフライフが楽しめる様に、一段と女性にとって細かく配慮されたクラブハウスで、今迄女性はほんの片隅にもうしわけ程度に設けられていたロッカー室や浴室と違って、女性部分に広い面積が確保されている。広々としたサロン風のロッカー室や、浴室、脱衣室、それに化粧室は、一流美容院並みの設備がほどこされている。一方、玄関ホール、ロビーも広く、全体としてゆったりとした豪華な雰囲気を出す様に心がけた。

（田辺健一、三野 弘／岡設計）





椙山女学園大学星が丘キャンパス

設計施工　清水建設名古屋支店

所 在 地　名古屋市千種区星が丘元町17-3
敷地面積　31,071.00 ㎡
建築面積　3,556.672㎡
延床面積　14,534.788㎡
構造規模　RC、B1、6F、P1
工　　期　昭和58年２月～昭和60年９月
最 寄 駅　地下鉄東山線星ヶ丘駅

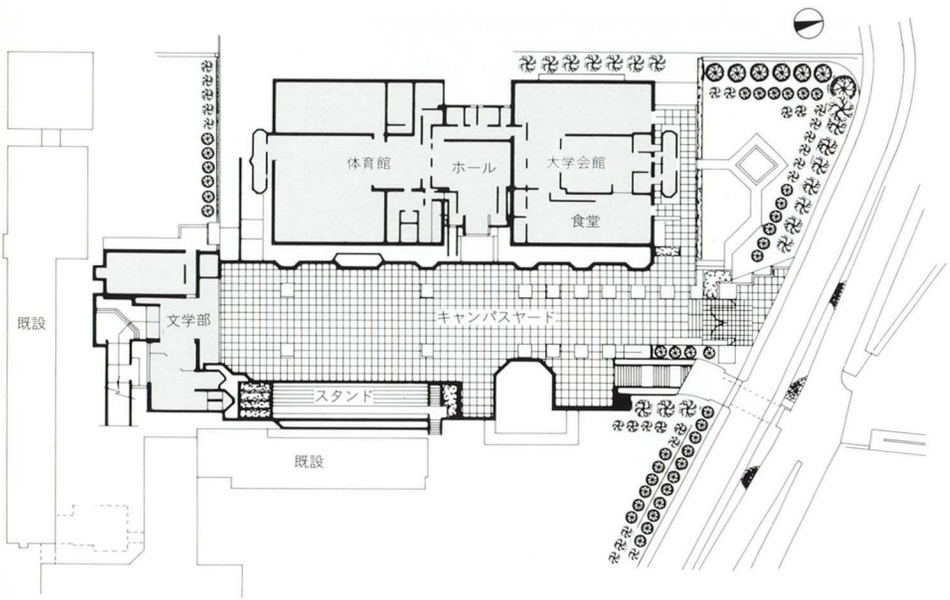
撮　　影　納崎雄二、長田正敏



コアー棟ホール入口より



食堂



配置図　1:1,500

当計画は、学園誕生80周年にあわせ、昭和57年に計画に着手、60年10月完成した。設計上のテーマには、既存校舎群の雰囲気を生かしながら、学問と共に人間形成の場としての〝新しい大学の顔作り〟を掲げ、以下の３項目を重点に取り組んだ。

〈人工地盤によるコミュニティースペースの確保〉

学生達の〝触れ合いの場〟を、土地有効利用と合わせ地下を駐車場とした大規模人工地盤を設けキャンパスヤードとし、施設の中心とした。

〈キャンパスヤードを核とした施設の配置〉

各施設をキャンパスヤードを取り囲む形で配置し、内外空間の連続性を強く意識し、立体的、視覚的にもコミュニケーションが出来るよう計画した。

〈女子大らしい雰囲気づくり〉

コアー棟ホールの日展評議員加藤鈔氏製作による陶壁画をはじめ、正門アーチ等、曲線を多用し、植栽、噴水、純白の外壁等、女子大らしい雰囲気づくりに努めた。

（冨士覇王／清水建設）


福山女学園大学文学部

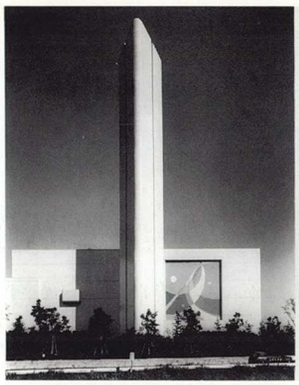


最近竣工した東海地方の作品　18点



2008 名古屋市批把島スポーツセンター

設　計：浦野設計
施　工：竹中工務店・名工建設・村武建築JV
a．名古屋市西区上更通
b．23,541㎡
c．　4,973㎡
d．　9,783㎡
e．SRC、3F
f．昭和60年３月～昭和61年11月
g．名鉄栄生駅



2009 名古屋市山田工場

設　計：浦野設計
施　工：飛島・奥村・錢高JV
a．名古屋市西区新木町
b．17,061㎡
c．　7,052㎡
d．16,783㎡
e．SRC、3F
f．昭和57年10月～昭和60年12日
g．名鉄中小田井駅



2010 新日本法規大阪ビル

設　計：安井建築設計事務所
施　工：竹中工務店
a．大阪市東区内平野町2-6
b．　319.08㎡
c．　279.72㎡
d．2,080.38㎡
e．RC、B1、7F
f．昭和60年９月～昭和61年８月
g．地下鉄谷町線天満橋駅



2011 十六銀行平湯保養所

設　計：日建設計
施　工：大林組・金子工業JV
a．岐阜県吉城郡上宝村大字平湯字赤どぶ
b．3,804㎡
c．　450㎡
d．　713㎡
e．RC、B1、2F
f．昭和61年４月～昭和61年11月
g．JR高山駅



2012 多治見市総合体育館

設　計：安井建築設計事務所
施　工：鴻池・古庄・加藤建設JV
a．多治見市大畑町2-150
b．23,512.76㎡
c．　5,902.62㎡
d．　8,740.32㎡
e．RC、3F
f．昭和59年７月～昭和60年10月
g．JR多治見駅



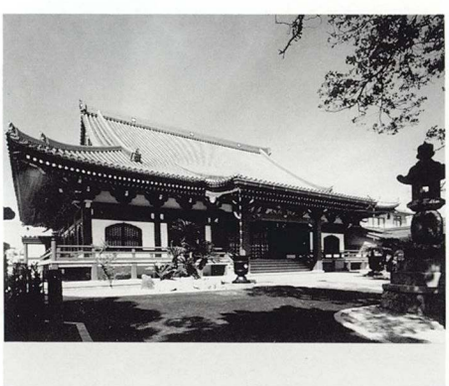
2013 ライオンズマンション八事石坂

設　計：松野八郎綜合建築設計事務所
施　工：大林組
a．名古屋市昭和区広路町石坂28-1
b．2,823.14㎡
c．1,331.88㎡
d．5,842.27㎡
e．RC、B1、7F
f．昭和60年11月～昭和61年11月
g．名古屋市地下鉄鶴舞線八事駅



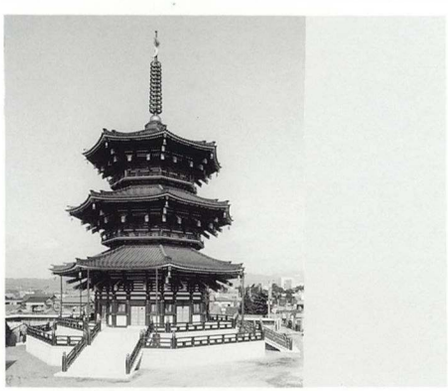
2014 大垣ステーションビル

設　計：日本国有鉄道岐阜工事事務所、安井建築設計事務所
施　工：鉄建建設・岐建木村JV
a．大垣市高島町
b．15,446.90㎡
c．　2,638.34㎡
d．12,832.66㎡
e．RC、6F、P1
f．昭和60年２月～昭和61年３月
g．JR大垣駅



2015 天林寺本堂・庫裡

設　計：林建築設計事務所
施　工：大林組名古屋支店
a．静岡県浜松市下池川町27-1
b．14,943㎡
c．　1,052㎡
d．　1,539㎡
e．本堂　RC、S、B1、1F　庫裡　木造、2F
f．昭和59年10月～昭和61年１月
g．JR東海道本線浜松駅



2016 世界心道教本部祖霊殿

設　計：日新プラン(設計協力　大林組名古屋支店)
施　工：大林組名古屋支店
a．愛知県豊川市諏訪2-101
b．61,753.35㎡
c．　463.50㎡
d．　1,107.06㎡
e．SRC、B2、3F
f．昭和57年５月～昭和61年３月
g．名古屋鉄道豊川線諏訪町駅



2017 ホーユー瀬戸工場

設　計：浦野設計
施　工：石田組
a．瀬戸市山の田町
b．28,583㎡
c．4,729㎡
d．17,847㎡
e．S、6F
f．昭和60年9月～昭和61年3月
g．地下鉄藤ケ丘駅



2018 犬山市文化史料館

設　計：浦野設計
施　工：中村工業・間宮建設JV
a．犬山市犬山北古巻
b．2,411.24㎡
c．768.96㎡
d．941.40㎡
e．RC、2F
f．昭和60年5月～昭和61年3月
g．名鉄犬山駅



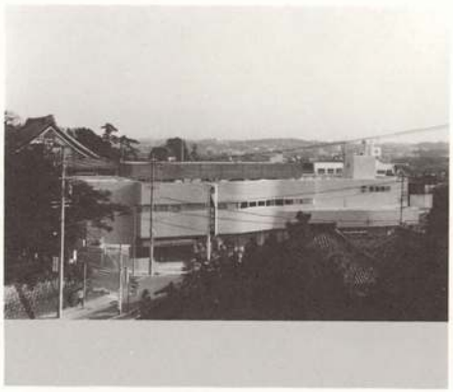
2019 名古屋電元社西春工場本館

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：フジタ工業
a．愛知県西春日井郡西春町
b．4,889㎡
c．387㎡
d．1,076㎡
e．RC、3F
f．昭和61年4月～昭和61年10月
g．名鉄犬山線徳重駅



2020 石川商事ビル

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：清水建設
a．金沢市武蔵町
b．299㎡
c．247㎡
d．1,816㎡
e．SRC、B1、8F、P1
f．昭和60年8月～昭和61年9月
g．JR北陸線金沢駅



2021 東海銀行鳴海支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：竹中工務店・徳倉建設JV
a．名古屋市緑区鳴海町
b．1,421㎡
c．838㎡
d．2,231㎡
e．SRC、B1、2F、P1
f．昭和59年10月～昭和60年10月
g．名鉄名古屋本線鳴海駅



2022 東海銀行稲葉地倉庫第3棟

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：名工建設・矢作建設工業JV
a．名古屋市中村区鴨付町
b．3,024㎡
c．858㎡
d．2,864㎡
e．RC、4F、P1
f．昭和61年2月～昭和61年9月
g．名古屋市営バス12号系統鴨付町



2023 三重銀行橋南支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：浅沼組
a．三重県津市上弁財町
b．411㎡
c．145㎡
d．240㎡
e．RC、2F
f．昭和61年7月～昭和61年11月
g．近鉄名古屋線津駅



2024 北國銀行山中支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：熊谷組・ダイド建設JV
a．石川県江沼郡山中町
b．770㎡
c．372㎡
d．582㎡
e．RC、2F
f．昭和60年5月～昭和60年10月
g．北陸鉄道バス山中温泉



2025 桑名信用金庫蟹江支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：清水建設
a．愛知県海部郡蟹江町
b．637㎡
c．266㎡
d．332㎡
e．S、一部RC、2F
f．昭和61年1月～昭和61年5月
g．近鉄名古屋線蟹江駅

座談会

東海のイベント

出席者
（50音順・敬称略）



生田敦生（キャスティバル犬山'87実行委員会事務局長）



石原　武（葵博岡崎'87事務局長）



篠田恭彦（ぎふ中部未来博覧会協会事務局長）



本　一雄（'87世界古城博覧会協会副会長）



藤原康司（三重県地域振興部観光国際課長）



由井　求（世界デザイン博覧会協会事務局長）



（司会）
中島　一（愛知工業大学教授・日本建築協会東海支部長）

司会　どうも皆さん大変お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。私ども社団法人日本建築協会は、建築にかかわるすべての分野の人達が集まって団体を作っています。この日本建築協会は、毎月「建築と社会」という雑誌を出しており、その4月号に東海特集という企画を計画しております。その企画の一つに、東海地方のビッグイベントの紹介を行うことになりました。

もう間近に開催されるということもありますけれども、今日はそういったものを中心に、どんなことを期待し、何を目的とし、その結果、地域の文化にどう寄与されようとしているのか、具体的なお話を含めてお聞かせいただきたいと思います。

岡崎では、葵博と名付けておられます。徳川家康出生の地であり、それにちなんでと承っております。非常に新しい企画を持っていると承っていますが、その辺のところから、お話を拝聴したいと思います。

葵博岡崎'87

石原　私ども、3月21日からの開催です。岡崎市制70周年記念事業として、何かイベント的なものを行い、それを契機に市民が大きく21世紀に向けて進んでいくものを考えようということになり、お互いの記念になるべきものはないだろうかという、市民各階各層の考えにより行うことになりました。このため、ネーミングも市民に一般公募し、その結果生まれたのが「葵博岡崎'87」です。

とくに今回私どもは、多くの市民参加ということでこの企画を計画しています。

テーマは「いま、未来へ――ふれあい・発見・創造」です。過去の江戸情緒的なものから、そして現在に至り、未来を見つめる形のものに持っていこうというのがねらいです。そのために五万石城下町というエリアがあり、ワールドバザール・ワールドレストランがあります。またテーマ館には、日光東照宮の10分の1のレプリカを展示します。

それとカナダのＩＭＡＸ社が開発した70ミリの巨大映像システムがあります。これで上映する映像ソフトが〝ザ・ドリーム・イズ・アライブ〟と言って、スペースシャトルディスカバリーの3回の飛行の中で撮りました様々の映像を約30分ぐらいで放映します。今回私ども岡崎で特色だと思うのは、一岡崎だけのイベントでなく県下87の市町村に、郷土芸能とか、郷土物産、名産とかを出していただくよう協力をお願いしています。また市民の皆さんには、それぞれのお宅での宝物、あるいは、自分達の歴史の中で記念になるもの、そういうものをお出しいただいて、わが家の記念品展という形のもの、市民バザール的なもの、そうしたものを企画しています。

'87世界古城博

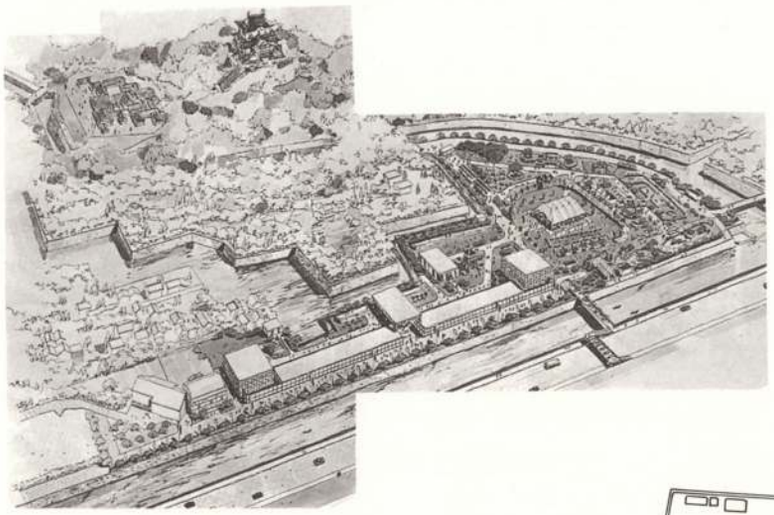
司会　彦根が〝世界古城博〟ですが、ご説明していただきます。

本　私の方も今年の2月11日が市制を施行して50年、築城して380年という節目の年を迎えます。59年から市民の代表で、これを機会に何をやればいいかと協議していただいた結果、博覧会をやることになりました。

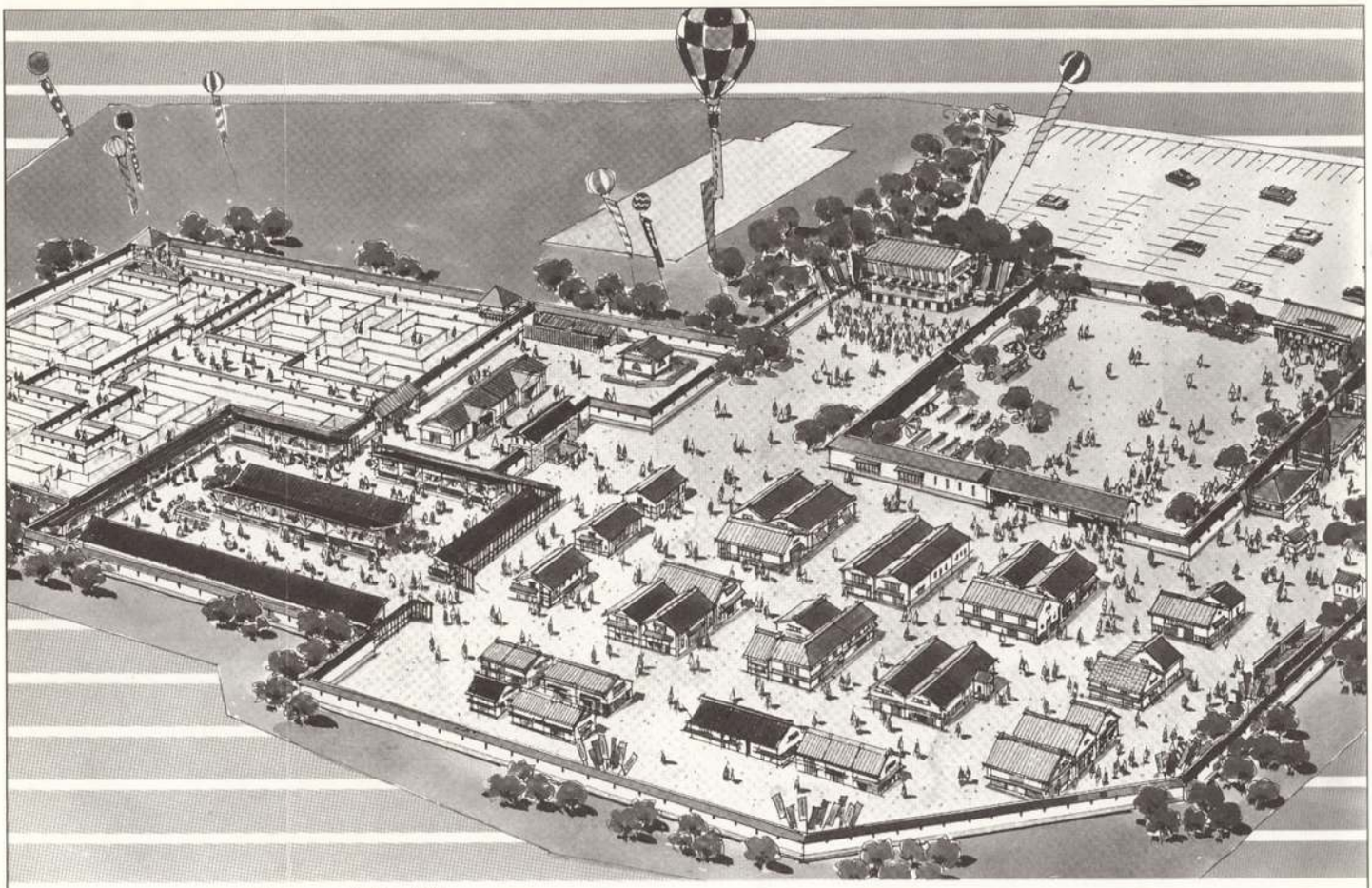
城というのは、そもそもその時代の、都市のシンボルです。それぞれの時代の技術なり、工芸なり、すべての面において開発をされて現在に至っています。これはその当時の人々の生活の中から出てきたいろいろな伝統文化を創り出しているわけです。しかもお城に



葵博―岡崎'87……会場配置図



'87世界古城博……主会場配置図



キャスティバル犬山'87……完成予想図

はロマンがあるということで、自分達の心の拠り所となるような、そういう夢を育んでいくのがいいんじゃないか、ということで「気の共感」という統一テーマを付けていただきました。

かつてお城が持っていた活気、あるいは根気、勇気、覇気、元気、そういったものをこのお城での出会いとふれあいを通してつくりだしていただきたいと考えています。

イメージテーマとしては「時のオルゴール」ということで、日本列島の真ん中における彦根を情報発信の基地にして、お城の時代、地方文化の時代を告げるオルゴールを打ち鳴らしていこうというものです。日本のお城だけでなくて世界の城へのつなぎ、いわゆる古城街道をつくっていこうというねらいをもって計画をしています。

この博覧会の中に、シャトー館という長さが約360 mのパビリオンがあります。この中には世界で、日本で最も優秀なもの、今後21世紀へかけての地方の産業の振興に寄与していく、いわゆるシャトーブランドというか、一流品であって品質の高いものを並べ、それを通じて地元の産業振興につなげていきたい、というようなことで進めているわけです。

テーマ館Aというのは映画館です。世界の城あるいは日本の城を長大な映像を通して皆さんにご覧いただくということです。テーマ館Bが一城一宝展です。これが一つの中心ということでありまして、日本のお城、世界のお城、世界と申しましてもヨーロッパが中心ですが、そこから最も大事なものをお借りしてきて展示をさせていただきます。

それからまたエッシャー展、これはオランダのハーグ市立美術館からよりすぐって120点ほどお借りすることに決定しております。これは東洋では初めての公開です。

あと企業館があります。6社はすでに決定をしております。

イベント関係では、中世のヨーロッパの騎馬隊など、いろいろなものを考えています。岡崎でもおっしゃったように、やはりにぎやかということで、イベント広場で毎日模様替えをしてイベントを打たせていただく、これは郷土のイベント、市内のイベント、その他のプロによるイベント、そういうものも順次決定をいたしております。そのほかに、地元としては〝にぎわいの広場〟ということでいろいろな物をお売りいただく、そういうことも地元の商店街、商工会議所が中心になって進めていただいております。

もう一つは、この市制50周年を記念して彦根城博物館が竣工しました。この博覧会の時期と同時にオープンすることになっています。

キャスティバル犬山'87

司会　生田さんのところは、キャスティバルと言いますが、キャッスルフェスティバルの略称ですね。またお城が続きますが、よろしくお願いします。

生田　今日ご出席の皆様方のイベントと比較しますと、規模も非常に小さく、言うならばおらが村のイベントという感じの小規模なイベントです。それだけに、小規模といったマイナス要因をプラス要因にするような考え方、たとえば、市民の参加というか、市民の手でつくられたものにするなど、市民参加を積極的に呼びかけるといった考えを進めているところです。

そうした基本的な考えに基づいて、昭和61年7月に犬山城築城450年祭の実行委員会が発足しました。

事業の内容は、博覧会を中心に展開していくということで〝キャスティバル犬山'87〟という、キャッスルとフェスティバルの造成語の名前を付けました。

この博覧会の内容は、江戸時代の後期を時代考証した江戸村を作り、そこで物販とか、飲んだり食べたりしていただく、また矢場を設けて遊んでいただくなどを考えています。

また、お城というのは非常に複雑な迷路を作ってきました。現実に犬山市内というのは三差路で突き当たったような道路とか、鋭角に曲がった道路が随所にあります。その再現ということで、1時間ぐらいかかる迷路を作ることも考えています。

期間は今年の7月19日から11月23日の128日間です。ご承知のように犬山と言えばいろいろな観光施設を持っております。博覧会の中にイベントステージを設け、市民が自由に参加できるように開放し、観光施設をはじめ、市民のいろいろなお祭り的なものをこの期間中に取り上げて、文字通り62年1年間は非常におもしろい年にしようじゃないかと考えています。

いずれにしても、このイベントが犬山市にどのような意味を持つのかと考えますと、お城を中心に、犬山市民であることを再認識し、これから先、市が計画する諸行政に積極的に参加する姿勢を生みだしていきたい。と同時に、この築城450年祭が次の500年祭に向かってのスタート地点となるとともに、いろいろな行政を進めるスタートとしたい。こんなねらいがあるわけです。ぜひそうしたものに結びつけるような働きかけをしていく必要があると思っています。

ぎふ中部未来博

司会　岐阜の篠田さん、今までお話がありましたのは、どうもお城というのがネーミングであったわけです。今度は岐阜と言いますと信長の稲葉城が思いだされますが、今回〝未来博〟という名前が付いています。それを含めて概要をお話し願います。

篠田　簡単に経過に触れますと、期待していたオリンピック誘致がソウルに決まってしまい、何か中部の活性化を図るイベントをやらなければならないということで東海フェアという構想が出てきました。これをきっかけにどんどん走りだしまして、現在の岐阜中部未来博覧会の開催となったのです。

〝ぎふ中部未来博覧会〟という長たらしい名前で、岐阜の中部でやる博覧会といった誤解もあったりしますが、中部の未来博覧会を岐阜でやるんだということで、中部の未来博を強調しております。

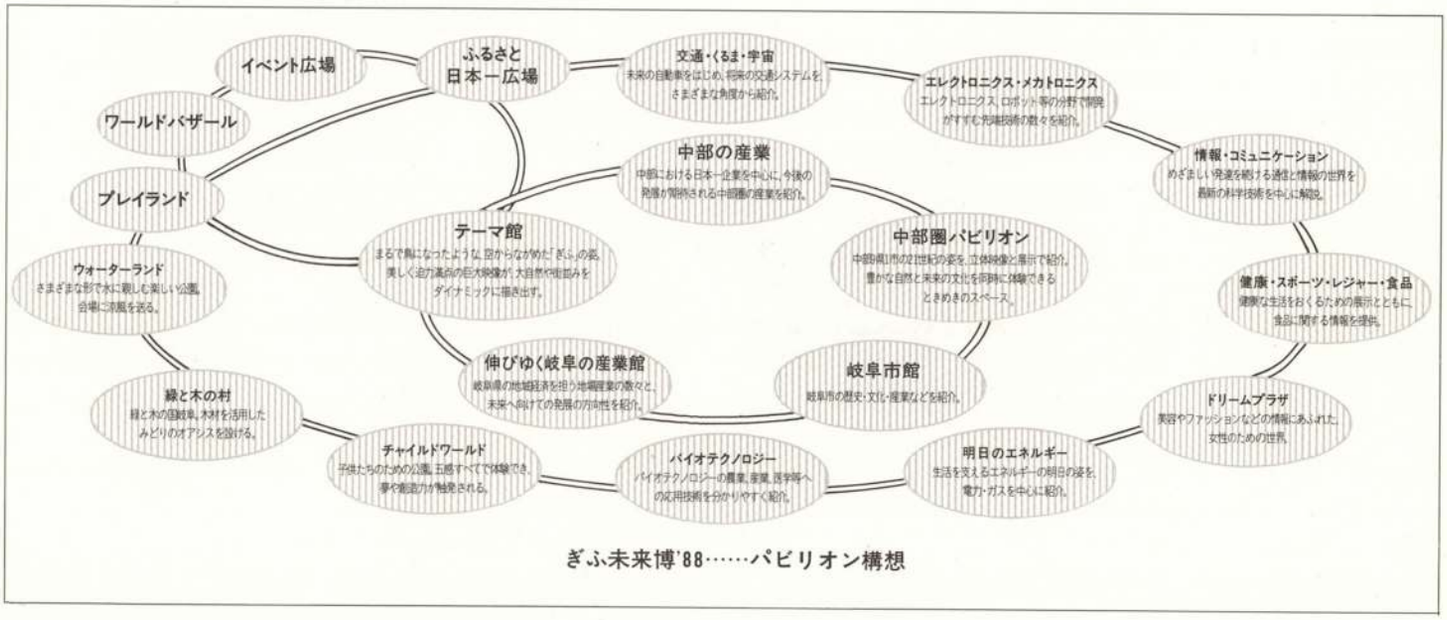
歴史的にも中部地方は三英傑を生んだ地域です。しかも1600年の関ヶ原の合戦以降、日本は国家として統一され、今日の平和日本の礎を築いた地方と言えるでしょう。歴史的に見ても日本の政治、経済における極めて重要な地域でした。また、日本の中心にあり、これからは東西の中間にあって、この中部地方が大きな役割を担わなければならないと考えています。今回の博覧会を中部全域の活性化のバネにしたい。そういう意味の博覧会だと考えています。中部の重要な博覧会を岐阜で開催させていただくという認識で準備しています。

岐阜県においても当然重要なイベントになるわけです。たとえば岐阜のイメージというものも十分でありません。岐阜県のイメージアップにつなげていくと同時に、経済、文化の活性化をはかり、このイベントを契機に、県民の連帯意識を高揚していきたい。県民総参加でこの博覧会を成功させるには、いろいろ工夫が必要ですが、博覧会場のある岐阜市だけでなく、県下全域がパビリオンという考えを持ち、郡上のコーナーがあったり、飛騨のコーナーがあったり、東濃のコーナーがあるというように、それぞれの地域での活性化事業、あるいは郷土芸能等を含めての村おこしを考えています。会場とその他の地域をつなぐ道路の整備改良、あるいはフラワーロードを作るなど沿道修理も考えており、みんなでこの大きな〝みこし〟をかつごうということで展開しております。

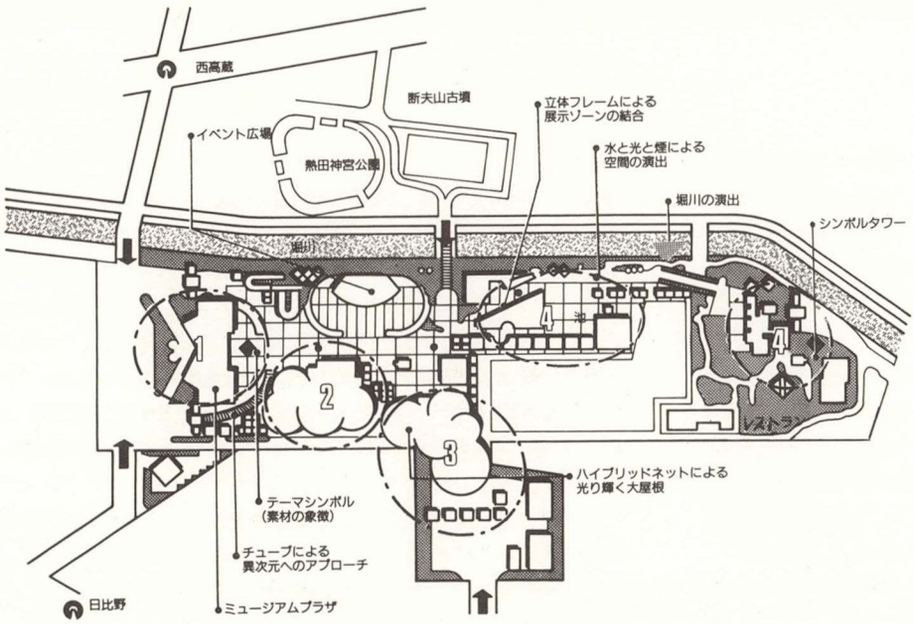
どういう博覧会かということですが、私どものテーマは〝人がいる、人が語る、人がつくる〟といういささか理屈ぽいものです。21世紀に向けて、周囲に対して積極的に交流を図っていく感性豊かな人間を目ざす自然と人、人と人との交流の祭典にしようと考えています。博覧会が理屈っぽくてはいけませんので楽しい博覧会にしようと、たとえば見る、買う、食べるとか言ったはっきりとした行動というか、興味を起こしていただくような演出も十分考えながらやっていこうと考えています。

開催期間は昭和62年7月8日から9月18日までの73日間、岐阜市の長良川沿いの総合グラウンドで行います。

具体的なものとしては、織田信長が開設したと言われる自由広場の「楽市楽座」をワールドバザールとして再現したり、富田勲宇宙サウンドコンサートを金華山と長良川を舞台に繰り広げたりしたいと考えています。また中国から山東竜をお借りすることになりました。シャントンゴサウルスとかいう学名で、世界初公開ということです。高さだけで14m超える大きな化石ですからそのまま置いても仕様がないので、これに演出を加えながらやっていきたいと考えています。

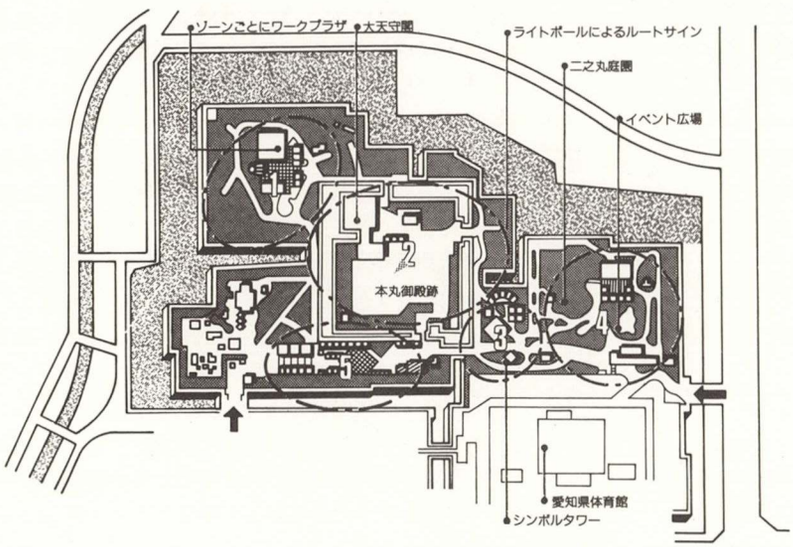


ぎふ未来博'88……パビリオン構想



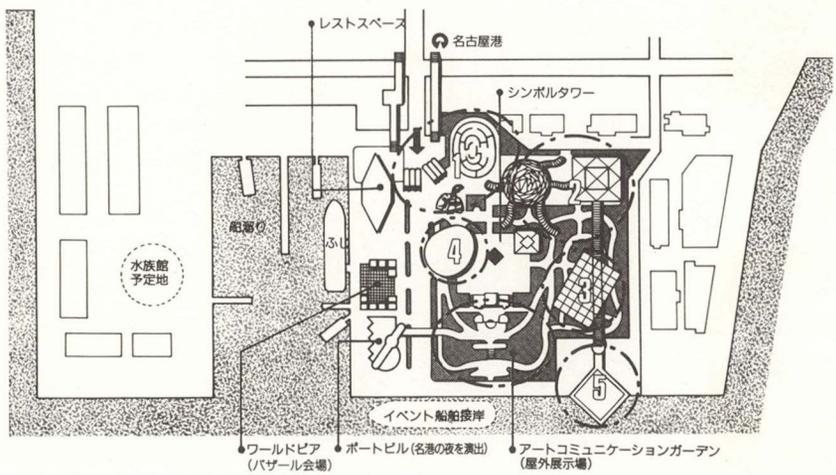
白鳥会場　イメージカラー〔赤〕
創造への挑戦——情熱の赤

1．テーマゾーン
2．ヒューマンデザインゾーン
3．ソーシャルデザインゾーン
4．ライフスタイルデザインゾーン



名古屋城会場　イメージカラー〔緑〕
積み重ねる叡智——深遠の緑

1．地球村(グローバルヴィレッジ)
2．美しさのヴィレッジ
3．伝えのヴィレッジ
4．創造のヴィレッジ
5．遊びのヴィレッジ



名古屋港会場　イメージカラー〔青〕
空と海の彼方へ——広がりの青

1．ワープゲート
2．コズミックラビリンス
3．ハイドロパーク
4．ハイパースペース
5．アクアステージ

世界デザイン博……会場計画

世界デザイン博

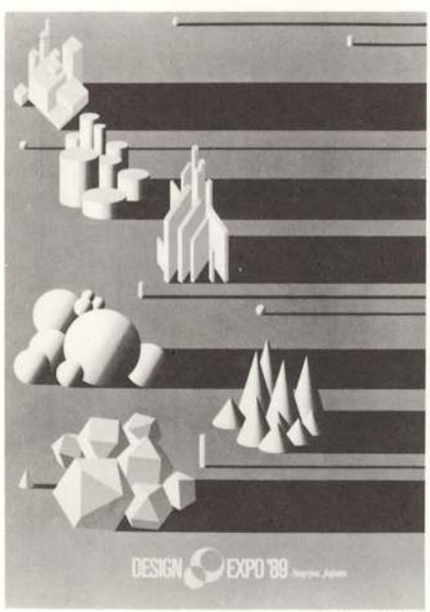
司会　由井局長さん、昨年、アジアデザイン会議が名古屋で開催されました。それを受けてアジア地区のデザインフォーラムが11月25日から28日まであり、関係者はプレデザインイヤーと称していました。1989年に国際デザイン会議が名古屋で開かれるわけです。それとデザイン博との関係も含めてお話を聞かせていただきたいと思います。

由井　名古屋市はちょうど64年が明治22年に市制が施行されて100年目に当たります。従来主だった建築物とかあるいは大きな記念施設みたいなものは大体周年事業で出来ているのが通例です。たとえば名古屋城の再建をやったのが70周年とか。鶴舞公園の公会堂、博物館等、通常なかなか手が回らない大きなプロジェクトは周年事業として取り組まれてきました。100年なら1世紀ということだから、これはとてつもない大きなことをやらなければいけないのじゃないかという話がありました。

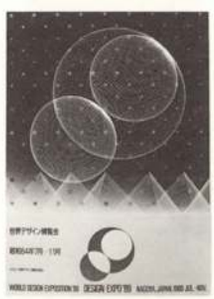
名古屋市の場合、市の中で100周年記念事業として一体どういうものをやっていこうかと、4、5年前からいろいろ議論され、いろいろな施設、たとえば堀川の昭和大改修をやろうとか、もう100年たった時に何か言われるようなこと、そういうスパンで考えたらどうかという話がありました。そういう中でイベントをやろうという話が出て、イベントもいろいろな意見が出たわけです。集約すると一過性であってはいけないという見地から、一つは画期的なものでなければいけない、もう一つは、どれだけ大勢の人が参加できるかということ、さらに一つは普及性というか、長く語り継がれるような内容でなければいけない、というようなことが言われました。

いろいろやっている中で、世界デザイン会議が2年に1度ずつ行われており、これを名古屋へ誘致したらどうかという話が出てきました。

まず、デザイン会議をやろうということで、その検討を進めてきたら、デザイン会議というのは会議と一緒に展示会をやっていることがわかりました。会議をやりながら、そこへ参加した人達が出品したり、企業が出品したりということでいろいろデザインの展示をやるわけです。その展示の大きいものをやろうと考えたところ、いっそのこと博覧会をやったらどうかという話になり、世界デザイン博覧会ということで取り組むことになったのです。デザインというのは間口が広く、グラフィックからアーバンデザインまであり、その会議も一週間ぐらい、その国際会議自体もかなり大変な仕事になります。



制作：亀倉雄策





制作：上　永井一正
　　下　岡本滋夫

世界デザイン博公式ポスター3種類

名称を世界デザイン博覧会、テーマを〝ひと、夢、デザイン〟、会期は7月15日ぐらいから11月26日ぐらいまでと考えております。会場は3地区を考えております。先ほど来お城にちなんだようなお話がありましたが、城というのはその地域の人達になじみが深いということもあり、私どもも名古屋城地区ということで博覧会の会場に考えております。それから白鳥地区と名古屋港地区、これはすべて堀川で結ばれているということでこの会場を選びました。主催は財団法人世界デザイン博覧会協会です。構成団体は、愛知県、名古屋市、商工会議所、中部経済連合会、それに名古屋港管理組合の5団体です。

この基本理念は、白鳥会場、これは熱田神宮の北西で、現在貯木場になったところです。また、ここは100周年記念事業では、メモリアルパークという公園にするところで、公園にする前にここで博覧会をやって、公園をつくることになっています。ここをメイン会場にして、21世紀への遭遇というようなことで未来志向の展示をやりたいと考えています。

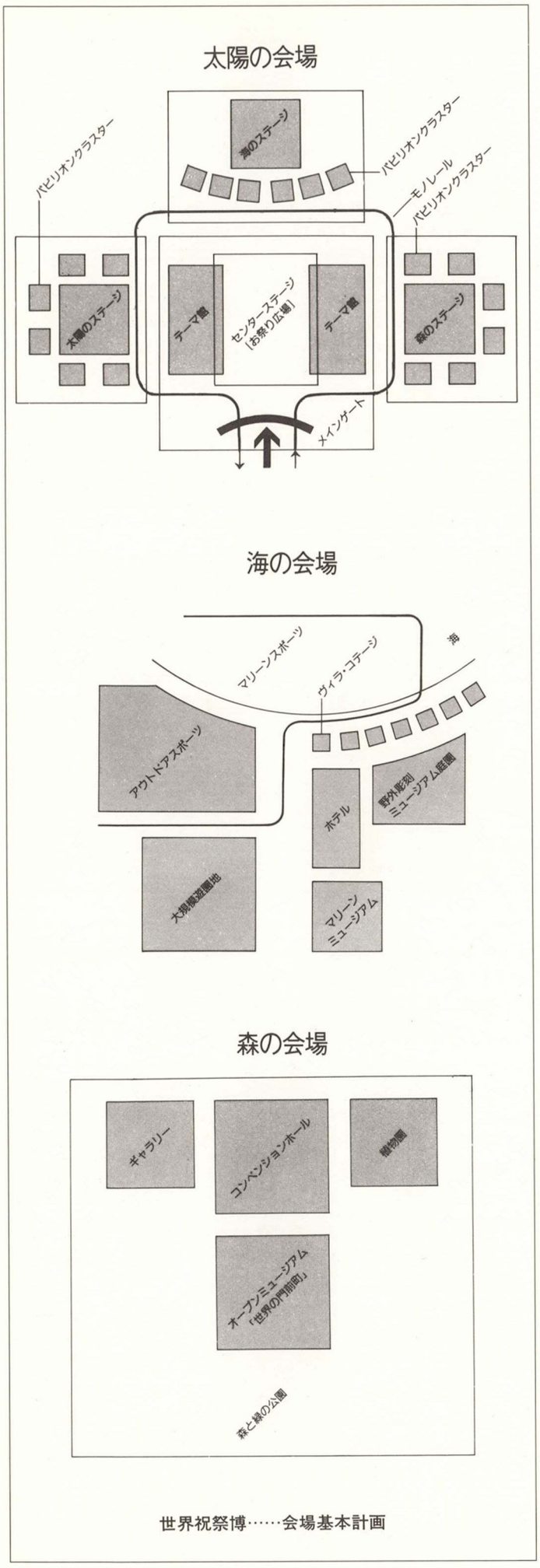
また、名古屋城会場については、歴史からの発見ということで主として歴史的な観点からの現在のデザインの発見みたいなことをやってみたらどうかと考えております。

それから名古屋港会場については、デザインパーク、楽しさに旅立ちというようなことでおもしろいものを今のガーデン埠頭のところでやろうというふうに思っております。いずれにしても博覧会協会というのは5団体の構成で出来ておりまして、名古屋市が呼びかけたのは名古屋市制100周年記念事業ということでしたが、現在はそういうようなところを超えたような形でデザイン会議とデザイン博覧会ということで進んでいます。記念事業としては、実は白鳥会場の中のテーマ館ということで考えております。ミュージアムプラザという5万㎡ぐらいの建物を建て、その建物の中に3,000人ぐらい収容できるスタジオを考えております。そこでデザイン会議が全部やれたらと考えております。これは今年ぐらいから建設が始まる段取りになっています。これをメイン会場のテーマ館として使っていきたいと考えています。

私どもがねらっているのはデザインに関してということで、この博覧会をして一体どういう効果、何が後に残るんだということがかなり論議されています。一つはデザイン振興を通じて、産業とか文化の振興に役立つのではないかと考えております。また、終わった後も、デザイン博物館とか、デザインセンターを作るとかし、せっかくデザイン会議をやり、デザイン博覧会をやるからには、何か後にそういう形のデザインのある部分の情報発信のできる施設を残したいという感じがしています。デザイン団体の方ともお話をさせていただいたが、そういう方も期待を持っております。一過性であってはいけないと感じています。

もう一つは、世界デザイン博覧会ということでイベントをやる実行組織を作っておるわけですが、協議会などや100というのは、この地域のイベントのビューローみたいな位置づけで、たとえば5年ごとぐらい大きなヤマが来て、その間、イベントをいろいろ仕掛けていく、そういう集団、組織を博覧会が終わった後も残していく必要があると思っています。そういうことが後へのつながりにもなるし、今後の産業、文化という広い面から見ると効果があると考えております。

今、事業計画が固まった段階で、具体的な展開はこれからです。



世界祝祭博……会場基本計画

世界祝祭博

司会　最後になりましたが、世界祝祭博、今まではお城が中心でありまして、お城中心だけれどもデザインだというお話が続きましたが、祝祭博について藤原さんから。

藤原　私どもでこのイベントをやろうという話が出たのは、59年の夏ごろからです。

昭和68年は今世紀最後の伊勢神宮のご遷宮という神事があり、またその年にワールドパールフェスティバルという養殖真珠開発100年目を記念した国際的イベントをやったらどうだろうかという話が起こって、観光客の減少が目立つ観光地の振興ということと、さらに三重県は細長い県で、これまで手薄とされている南の方に集中的に投資できる機会が欲しい、観光面と地域の活性化というこれは出だしのときから一つの要素なんです。

いろいろ話をしている中で、ハードというアピールではとてもじゃないが大きなイベントでは成り立たないだろう。今パールはむしろ神戸あたりが中心になっていて、ちょっと弱いんじゃないか。また、筑波博が開催されていたころですが、筑波のパビリオンを主体にした映像中心のイベントは、これから受けないだろう。むしろ8年も先にやるイベントであれば時代も変わるだろうし、思い切ってやり方を変えたイベントをしたらどうか、要するに物中心から人間の心を尊重するようなイベントにしたらどうかという提案が出されました。

世界祝祭博覧会という堅い名前が付いています。これだと響きが硬すぎるので、もう少し砕いておまつりの博覧会という言い方で通称言っております。その中身としては伊勢神宮にちなんだイベントですし、伊勢が日本文化の発祥の地という要素もあるということで、心、文化といったことを改めて問い直すようなイベントにならないかと考えています。

伊勢神宮の広大な森があるとか、熊野灘、伊勢湾に囲まれた土地で海があるとか、もう一つは伊良湖の入口である神島から淡路島にかけて、奈良の飛鳥の方を通っている太陽の道というのが昔からある。そういうことにちなんで海、森、太陽、人間その心と体というテーマでイベントを考え、しかも伊勢志摩という広域でやろう。真珠のネックレスにちなんで会場も出来ることなら複数の会場、ダブル、トリプルの会場で海、森、太陽、そのテーマごとに合うような会場を作って運営できないかという提案がされております。

59年の出だしの時期から1年半余りの中で、63年、64年に全国的にたくさんのイベントがやられることがだんだん明らかになってきて、全国で200ぐらいになります。その中には、名古屋市、中部未来博もそうですが、かなり様々なイベントが打たれ、日本中イベントラッシュになるという状況が明らかになってきたので、私どもはご遷宮の翌年、69年の春から秋にかけて、イベントラッシュから5年ぐらいたってから、そのイベントブームの状況を見極めつつ具体的な実施計画も組んでいこうと言うことになりました。今はそんなスタンスでおります。

ネットワークの必要性

司会　今お聞きしますと今年の3月に始まったところから、昭和69年までの長い間、この間にいくつかの中部地方のビッグイベントがあるわけです。もともと中部は一つだという声があります。われ

われもそのように理解しております。今お話を聞いていますと、それぞれの場所でそれぞれの協会を作って、それぞれの立場で計画しています。それは地域の住民に対してはそれなりの意味があるわけです。確かに地域文化の活性化とか、経済の活性化にもつながると思います。

ところが一体そういったものが、それを通しての地域にどういうものをもたらすだろうかということについてちょっと疑問を感ずるところがあります。確かに人が集まるところには文化が生まれ、あるいは生活環境も良くなると思います。とくにデザインの問題あたりは新しいテーマとして評価されているわけです。

中部は一つという中で、こういったイベントが各地で開かれるわけですが、中部の中に住んでいる人達はこれをどういうように消化していくだろうかということについて、お話をいただければと思います。由井局長からお願いします。

由井　私は前々から思っていたんですが、それぞれの協会事務局が各地域の特性を生かしながら取り組んでいるわけですが、それぞれの地域のイベントをやるネットワークみたいなものが作れないでしょうか。あなたの宣伝もやるから、私の方の宣伝もやってくれというようなシステムがそう無理なく作れるような気がします。各イベントの実施は県庁だとか市役所とかそれ相応のところがやっているのではなく、第三セクターみたいなものを作っていくケースが多いようですね。それぞれに特殊性みたいなことがあってなかなか一般化できない面もあろうかと思いますが、この座談会もあるいはそういうようなところに何か根ざしてやっているんじゃないかという感じを受けたわけです。たとえば文化団体の人がこういう呼びかけをしてやっていくことになると別の意味で社会的にも意義のあることになるのではないかという感じがします。

もう一つ自分の博覧会のことを考えますと、私どもは博覧会を壮大な無駄使いに終わらせるのか、それとも意義あるものにするのかということで考えますと、何としても成功させなければいけないという、当事者としてはその方に頭がいってしまって、なかなか客観的な状態でものを見ることが難しい立場になってしまいます。62年、3、4、5年にかけてイベントが花盛りになるわけですが、こういう時期みたいなのがあると思います。名古屋でやった博覧会の経緯を見ましても、何か調子が悪くなってきたというか、経済的、文化的に行き詰まったとは言いませんが、何かある時期みたいな時に博覧会をやって、それがバネになって新展開している。そういうことがある面では言えるような気がします。

そういったことを考えると、21世紀もすぐ手の届くところに来ているわけです。そういう時期に対して、文化的な欲求とは言わないにしても、新しい文化の芽ばえみたいなそういうところに、何かあるんじゃないかという感じがするわけです。

まず楽しいこと

由井　博覧会一つとっても、箱を作っていろいろな技術を駆使して見せることは筑波で終わった。これからはバンクーバーのような楽しいものでなければいけないとよく言われます。バンクーバーへ行った人の話を聞きますと、まず楽しかったという。何が楽しいかと聞くと、それぞれ立場が違うから見る目も違いますが、総合していえばイベントを多彩に繰り広げたということと、博覧会の円滑な運営のために活躍したボランティアの人達のことなどを上げる。日本人が慣れない英語でやっていると、向こうの人が日本語で喋りだしたりした。「日本にいたカナダ人」といったマークまで付けていた。そういうボランティアの活躍が博覧会の運営について効果を上げていた、これは自分も楽しみながら社会的な活動に参加するということです。神戸のユニバーシアードで1万人近いボランティアを動員したそうですが、そういうのは形こそ違え、日本でもそういう時代が来ているんじゃないか、それは従来と違ったパターンという感じを受けています。今イベントがはやりというのは、ある意味ではある種の曲がり角みたいな、そういうものがあるという感じを受けます。

デザイン博とは何ですか、なぜデザインなどという難しいことをやるのかとよく言われます。しかし、こういうのは自然にだんだんやっていくうちにわかってくるものだと考えています。たとえば中部未来博は何をやるか知っているかと聞くと、皆わからない、わからないけど何となく未来というとわかるような気がするという話です。

そもそも博覧会というのは、古い歴史をやるんじゃない。歴史をやるなら博物館でやればいい。先を見るというのは博覧会の一つの使命じゃないか。その切り口としてデザイン面を重視していきたいのだと話すと大体わかってもらえます。私どもは一般の人達、小学生、中学生、家庭の主婦の方、老人の方にどうやったらこの博覧会に参加してもらえるかというのが勝負だと思っております。高齢化社会ということを目の前においてやるときに、バンクーバーの話は非常に参考になるんじゃないか、あそこは年寄り夫婦で来たり、一人で来ると並ばなくても入れてくれる、障害者と同じ扱いで。それを誰も文句を言わないのです。みんなニコニコしている。博覧会の運営一つ考えても、その次の時代の文化というか、そういうものをある程度先取りしてやっているような面があるんじゃないか、これは行き過ぎかもわかりませんが、そう思っております。

中部は一つ

司会　ぎふ中部未来博の場合なんですが、未来ということは、未来は高齢者がどんどん増えてきます。これを拝見しますと、若い人達とか、中年の人対象で、それが未来をどうするのか、どうなるのかということを目指しているような気がするんです。高齢者は置いてきぼりにされているような気がするんですが。

篠田　そうではありませんが、まず前段にありました中部は一つというお話で発言させていただきます。おっしゃる通りで、現実には一つなのかという疑問を感じます。地図上では中部圏は色を塗って一つになっていますが、岐阜県をはじめ周りの8県を見ても事実上の交流ができているのかどうか。中部圏の開発整備はハード部分では40年前後から行われるようになりました。ソフト面を含めてまさに交流の巻き起こる博覧会にしなければいけないと考えています。イベントも何も芸能人によるイベントだけではありません。東海とか全国、そういう意味でのいろいろな会議も会場の中でやろうという申し込みもあります。私の方も誘致しています。そういう意味での交流を起こすなど、中部は一つという方向で何かやっていこうと思っております。

それから今お話しの若い者だけじゃないかということですが、21世紀はハイテクとか、情報化とか、国際化とか、かなりのスピードで進むだろうと思います。そういう中で見つめてみると、結局は心だろうということになります。そういうことでいくと高齢化社会の中で老いた人も若い人も心を中心にして21世紀は豊かにとか、和やかにとか、自由にとか、そういうような生き方をしていくのではないでしょうか。これは、三重県も言われていますが、やはり心だろうというふうにとらえております。実質、会場の運営に当たっても、当然に子供さんからお年寄りまで、男女全体に受けていくようなも

のを目指していこうと思っております。

相互の広域的交流を

司会　交流の話ですが、人間の心の交流、人間そのものの交流、文化の交流、物の交流とそれぞれございます。今日ご席いただいた岡崎、彦根、犬山は共にお城というものが過去のものにあって、それを再びよみがえらせていこう、それが市民の拠り所になっているということですが、相互の交流というのはあまりないわけですか。

本　私のところは、年間現在で60万人ほど彦根城へ見える。そのうち中部圏からが一番多い。その次に京阪神です。私どもはちょうど中部圏、近畿圏、北陸圏の接点にあります。現在までは中部圏の皆さん方にたくさんお出でいただいています。だから中部は一つという中部の中にお仲間入りをさせていただいています。

それから先ほどからの話ですが、高齢者の皆さんもそれぞれの立場で文化を創造しております。今前売券を一生懸命売っていただいているのは老人クラブの皆さんです。お年寄りに対する処遇等については、これからの運営上の問題だと思います。私の方は合言葉としてはミート・ザ・キャッスル、お城での出会い、ふれあいというものを大事にしていきたい。それを未来につなげていきたいという願いを持っています。

石原　私ども岡崎市は国内親善都市として、岡崎ゆかりの町、とくに岡崎と家康時代からゆかりの深い町々と、また姉妹都市として海外の都市と交流をいたしております。今回のイベントを通して広域的な交流を深めていきたいと考えています。

生田　私の方は実は運輸省の提唱で国際観光モデル地区指定というのが行われており、すでに第一次が指定されているところですが、伊勢志摩の方は第一次に指定は？

藤原　されなかったんです。

生田　現在その指定を受けるべく中央政府に働きかけているところです。内容は、１ヵ所では地区指定できなく、２ヵ所以上で申請するというものです。現在名古屋市と手を合わせてお願いしています。私の方の役割は、いろいろな文化的な観光施設を外人客に見せ、そして宿泊の方を名古屋市にお願いするといったものです。今後は中部は一つというものの、実はそれぞれの地区の特性を生かし役割分担をしていく必要があるんじゃないかと考えています。したがって私どもからいけば文化施設を生かした遊びの場の提供ということで今後位置づけしていく必要があるんじゃないかと考えています。

それからお城の関係ですが、お城は全国にたくさんありますけれど、国宝となると、彦根城をはじめ松本、姫路と私ども犬山の四城であるわけです。この四城で60年から国宝四城城郭協議会を発足させ、四城の関係は交流が盛んにあります。

いま一つは、私どものところには、文化財がたくさんあります。築城450年祭に合わせて、その保護について同じ悩みを持つ、近くで言いますと、高山とか、金沢、鎌倉、京都等に呼びかけて文化財サミットのようなものができないだろうかと、内々動きかけているところです。これは範囲が広いので開催までには難しい問題もあろうかと思いますけれど、ぜひ実現してみたいと思います。というようなことでできるだけ他都市との交流もこの450年祭をきっかけに進めていきたいと考えているところです。

昭和61年12月24日　於愛知県建築士会会議室



世紀末をのりこえて

司会　世界祝祭博覧会会場に予定されておりますところは、自然の環境がありますね。海だとか、文化的な環境というのがありますが、そういう中で計画を立てようというお話に非常に興味を持ちますが、先ほどのご報告の中では、関西の方が多くてということです。中部圏の中に入っている三重県ですが、その辺のかかわりというか、中部圏での今回の世界祝祭博の問題、何かその辺のところさわりをお聞かせ願いたいと思います。

藤原　近畿圏から伊勢志摩にたくさん来られると申し上げましたが、これは毎年の観光客の状況を説明したんであって、三重県が東海圏にあって、かつ中京圏、岐阜も含めて三重県にたくさん来ていただいているということは事実です。三重県の位置づけとすれば東海三県・東海四県といった中でやっております。こういうイベントをそれぞれの県が計画をしてやろうとする時に、県単独で頑張っているのを、中部圏という圏域でもってイベントに対して少なくともＰＲということで協力がし合えるような仕組みがあると非常にいいと思います。たとえば、今回の祝祭博にしても非常に大きなイベントになります。一三重県が考えるのでなく、本当なら中部圏、愛知県でも岐阜県でも、それぞれのパートを持って協力しあっていく、そういう仕掛けが必要だろうと感じます。現実の日々の仕事の中で、それがクリアできない状況もあるのですが、まずイベントというソフトな事業を協力してやれる協議会みたいなものがあるといいと思います。これからもそれぞれやられるイベントには三重県からもたくさん見に行かせてもらうと思います。私どもも協力させてもらいますし、あれは三重県だから、あれはどこだからということでなくお互いに協力し合い、イベントをきっかけにして、開かれていくとありがたいと思います。

司会　期せずして協力しながらというお話があったんですが、人間の生活というのは簡単に言うと働くとか、休むとか、楽しむということと言っていますけれど、一方人間というのは自己研修しなければなりませんし、レクリエーションも必要です。生きのびなければならないし生産しなければならない。いろいろな宿題を負っているわけです。こういう中で期せずして世紀末にこういったものがなされるということは、私は有形無形の大きな意味があると思います。その意味は一体何だろうかということも今日お集まりの皆さん方からお話を伺っている中でそれとなく感じられました。イベントを通して参加した、その喜びが出てくるというような、そういった演出をぜひ一つお願いしたいと思います。

今日は非常に短時間でしたけれど、この誌面を通して読者の皆さん方は、ご担当の皆さん方のご意見、ご苦労を感じながら読まれまして、市民としてそれをどうするかということも考えていただくことができるのではないかと思っています。皆さん方一つぜひこれが成功していただきまして、この世紀末を無事に乗り越えて次の世代に文化的な遺産、精神的な遺産を譲っていただきたい。そういった宿命も課せられているのではないかと感じたわけでございます。今日はお忙しいところお集まりいただき、貴重なご意見を拝聴させていただきましてありがとうございました。

（注）文中の資料は、各主催者発行のパンフレットより転載しました。

座談会

支部の活性化を求めて

出席者(50音順)

一圓　俊郎（日本建築協会前東海支部長）

中島　　一（愛知工業大学教授 日本建築協会東海支部長）

長谷部利夫（長谷部建築設計事務所長）

桝林　宏二（大和建築事務所長）

松本壮一郎（愛知工業大学講師）

（司会）

林　　金之（日本建築協会東海支部幹事）

支部長（中島）　日本建築協会にはいくつかの支部がありますけれども、東海支部は一番東の端に位置しておりまして、東西文化の接点ということもあって、東海支部の活動というものは注目されているんですが、何せ会員数が少ないということ、また建築関係の団体が非常に沢山あり、お互いに競合し合っているところがあるわけです。こういったことは他の本会の支部でも同じような苦しみがあると思います。それを乗り越えて支部活動を積極的にやっておられると思います。

今日は、東海支部をはじめ各支部の活性化を求めるため、支部として一体何をなすべきかについてお話しいただきたい。よろしくお願い致します。

本部と支部との関係

司会（林）　まず、支部活動が実際どのように行われているのか、他の支部の状況も含め、また協会としての考え方というような点についても簡単なご説明をいただければと思います。

支部長（中島）　あまりはっきりとは理解しておりませんけれど、たとえば広島支部では建築に関する実務講座をやっておられるようでして、本会の建築関係各部門の連携協力によって建築に関する学術技芸を研鑽していく意図でありますが、なかなか評判が良いように承っております。

その他、支部単独で時により見学会などもやっておられますが、併せて本部主催の見学会と共催という形でやっておられるところもあるようです。本部の理事会等でも聞いておりますと、何分にも交付される助成金が少ないのでなかなかできないという話も出ております。しかし、本部の主催でおやりになることは、地域的に残念ながら大阪の方々が参加しやすいようなものが中心になること、これはやむを得ないと思いますが、やはり支部の活動をより高めるためには支部事業というものをふやさなければなりません。そういったことをやることによりまして会員数がふえてくるということも事実でございます。

司会　協会としての支部活動の在り方みたいな点で、本部の理事会などでの方向づけがなされることはありましょうか。

中島　やはり本会の目的というものがあって、各会員すべてに共通的なものとして本部が主催で事業を行うということがまず第一番でしょう。ところが風土性の問題だとか、地域性の問題とか、あるいは文化や経済圏の問題などもありますから、地方性を考えた場合に、その支部の存在というものの意義があるわけです。そうしますとそれに合った支部活動というものが当然なされなければならないと思うんです。そういった中で本会が目的とする活動を支部として補充しなければならないという意味があると思います。グローバルな意味の活動というのは本部が主催でやるべきことだと思いますけれども、ディティールについて地方性を考えますと支部活動が非常に大きな意味を持ってくるんじゃないかというように私は理解しているわけです。

支部活動の内容

司会　では、ただ今のお話を踏まえながら、支部活動の内容ということで検討していただきたいと思います。現在東海支部におきましては、支部単独での活動というものと、本部事業とくに機関誌「建築と社会」を通しての東海特集の編集という二点に大きくは分かれてくると思います。支部独自の活動ということでは見学会、機関誌の発行、それに映画会、講演会というようなものが主として組まれているわけですが、どんな感想をお持ちなのか一言ずつお話しいただければと思います。

長谷部　せっかく建築全般の人を網羅することができるのに、今の会員数があまり伸びてこないというのが何かネックみたいな感じがするわけです。会員数を増強しなければ支部の活動というのは実になってこないだろうと思うのです。何かイベントをやりながらでも、引きつけるものをつくって会員数の増強を図ることが第一条件だと思います。

支部活動といっても、支部だけで企画して何かをやるというのも必要だが、本部にお願いして、本部の事業を支部との共同で何か行うようにすると建築協会の存在が意識されてくるだろうと思う。皆さんにお話しすると、建築協会をよく知ってみえない方があり、その辺のＰＲから始めなければならない。要するに原点に還ってやり直さなければならん。入会することで建築関係が網羅できるわけで、友好の場として、また勉強の場としても非常にいいことでないかと私は思っています。

桝林　私は建築協会に入りまして30数年になりますが、あまりにも他の建築関係の団体が多過ぎて建築協会の支部組織にしても支部活動にしても、まとまりにくい状況にあると思います。

見学会はいい企画で、この間も私は参加したかったんですが、名古屋のどこどこに８時と標示されますと、三重県に住む私などはひと覚悟して行かなければいかんという状態になってきます（笑い）。東海支部とは言いながら大半が名古屋を中心とした組織であり、活動でもあるわけで、これはやむを得ないことかもしれないが、ちょっと感覚が違うんじゃないか。だから先ほどの会員数の増加という問題でも名古屋もさらに増強する、静岡、三重、岐阜でも何か活動を行うことによって会員を増やすことを考えなければならない。

たとえばこの間、ちょっと領域は違いますが、三重県の美術館で絵画のデッサンを講習する記事が新聞に載ったら、３日で定員の５倍ぐらいの方が申し込まれた。それはちょっと意味が違いますが、地方に分散しておる会員を少し違った観点で捉えていかんとまずいんじゃないか。なかなか難しい課題ではあると思うんですが。

会員の増強と地域の話題を


一圓俊郎氏


中島　一氏


長谷部利夫氏


桝林宏二氏


松本壮一郎氏


林　金之氏
（司会）

司会　計らずも支部活性化というテーマで本部と支部との関連を問題にしている中で、今度は、支部の中での地方疎外みたいな話題が出てまいりまして(笑い)、それこそ東海支部の中での地域的な連帯感を深めるような方策を講じなければならないというような問題提起をいただいたわけです。長年支部長としてご活躍いただきました前支部長の一圓先生いかがでしょうか。

一圓　先ほど来話がありましたように、本部としては、支部が置かれて何かの活動するということを通して会員の増加を図るということが第一目的じゃないかしらんと、ひがんで考えればそういうことにもなるわけですけれども、経過をずっとみておりますと、なかなかそうはいかないというのが現況なのです。支部事業についても近年中島先生が支部長になられてから、本部に対して積極的な姿勢を示してこられた結果、支部活動の重要な仕事として「建築と社会」に東海特集号を毎年１回行っているというようなことで、東海支部という存在を明らかにし、支部事業も活動の如何によっては相当大きく協会全体に貢献することができるという証であると思います。

また見学会も毎年やっておられますが、支部が事業をやるために、それに対して本部から資金的な応援をするということはなかなかし難いという点もあって、ありがたくないというような様子がみえたこともあり、他の支部の様子をみますと、ほとんど支部活動らしいものはやっていないというところが多い。その点東海支部は相当大きなウェートを占めていると思います。また先ほどお話のありました支部の中の地方といった問題も、支部の範囲が広いがために、支部会員であるというメリットさえ愛知県以外の人は生かすことがし難いという点があると思います。

その点は何をやったら支部会員全体に被益するような事業になるか考えねばならないわけです。

松本　ちょっと余談になりますが、僕が建築協会へ入ったのは見学会がきっかけなわけです。見学会は割と評判がいい。ただ協会との結びつきをあまり意識していない人がかなりいる。見学会がよく行われていても、見学対象がよいから参加するというまでで、それが会員増強に結びついていない。じゃあどうしたらいいかということになると思いますが、年に何度もやるということは無理だろうことは解るわけですが、継続的な活動というのが会員に伝わってこない。一つずつ、見学会は見学会、講演会は講演会、たとえば５月頃に講演会があり、11月頃に見学会、その間、何も結ばれるものが一般の会員にはない。それが大きな催し物でなくてもいいから、ずっと継続的にというか、夏もあり、秋もあり、冬もあり、春もありというような、従来の点からもう少し線みたいなものにならないかなあという気がします。

それと本部に対する注文ということでもないですけど、もう少し全域を掌握しながらのいろいろな企画が組まれることを希望するわけです。地域的な会員数の関係もあるでしょうから、大阪中心で仕方がないのでしょうが、もう少し各地域の話題も出てきてほしい。それからもう一つ、本部との連帯の中で支部活動を盛り上げる方法のようなことで思うことは、他の団体ですと、本部の委員会などへ出かける人がよくいるわけです。その人は支部の活動ということよりも、本部の活動として関わり合っている部分が多い。その人達が意外と支部でのエネルギーになっているわけですから、やはり建築協会の本部のいろいろな催し物にも支部の人達が、支部というよりも一会員として携われるような状況が出てこないと本当には盛り上がらないんじゃないか、そんな気がします。

共通の土俵「東海の建築」

司会　いろいろお話が出て、活動母体としての会員数の増強ということが何よりも大切だというお話やら、会そのもの、あるいは事業の広報という点での弱さが目につくとか、支部内の地域の連帯性の確保ということをもう少し熱心に考えるべきであるというようなお話もございます。また、数多い建築関係団体の中での独自性をどういうふうに求めればいいのか。その辺、活動内容における独自性との関連性も考える必要があるんじゃないか、また、活動が点でなく線を持つことが肝心であるとか、本部でももう少し支部へ目を向けた活動姿勢を打ち出してもらいたいという注文もあり、現在の支部活動の内容に対する問題点の指摘やら反省点が出されたわけです。

中島　確かに独自性ということは、当然考えてゆかなければならないことです。しかし、その前提としての共通の土俵を造らなければならない。そういった意味で年２回支部の会報を出しています。「東海の建築」です。また、何かやろうとする場合には個人で参加できないけれど、支部だから参加できる、そういうことも重要でしょう。これはたとえば、単独でやる事業と類似の団体で共同でやる事業という二つの方式があると思います。この間のアジアデザインフォーラムもデザイン関係の７つの団体が共同して行ったわけです。それはそれなりの意味があるわけです。成果もあったと思います。そこに参加したことによって建築協会の会員であるという認識が深まるということを大きな意味をもって迎えているわけなんです。

私は先ほどから類似の団体があってどうも会員がふえるについては苦労しているということを申し上げたわけですが、類似であればこそ、他の団体の方々と連帯して一つの方向を求めていくという考え方も出てくるんじゃないかという気がするんです。それならばそんなに沢山類似の団体を造る必要ないんじゃないかということですけれども、建築協会は建築に係る人達を網羅しているというところに非常に大きな意味があり、まず、ある特定の建築の設計を中心とした団体とか、資格者団体だとかというものと違って非常に意味があるので、この会員の中でお互いに研鑽することができやすいわけです。だからそのメリットをもっとＰＲしてゆくことが重要であり、「東海の建築」というものを通して大いに呼びかけていかなければいけないんじゃないか。そして「建築と社会」の中でも東海特集、東海というものを理解していただくということを地道に行うことによって会員をふやす一つの手だてになるんじゃないかという気がします。

協会のユニークさを！

司会　支部活動の意義と方法論というようなことでお話をいただけたわけですが、そうした中での支部活動への期待という観点から、一言ずつお聞きできればと思います。

長谷部　会員を勧誘するときには、われわれ自身もそうなんですが、本を見せ、この本だよというような話しぶりで、それじゃ協会員になったらどういうことがありますかとメリットを聞いてくるわけで、協会の最終目的は建築文化の高揚にあるというような大きな標題はあるでしょうが、そ

れだけでは話がはっきりしないわけです。その辺を明確化して、こういう風だよということが言えるように何かほしい。

桝林　三重県で会員さんを具体的に勧誘する場合に、どうも地方性が問題になりそうな気がして引け目を感じるんです。いかんせん地理的、距離的な差が気になる。これはやむを得んことだと思います。別にあわてることはないし、ゆっくり取り組めばいいわけで、私自身はやめちゃおうかというような気は一遍もしたことはありませんし、雑誌を断ろうかという気もしません(笑い)。全然抵抗がないんです。ところがこの本を買って下さいとお願いしますことに、ちょっと私は抵抗があるんですね。もちろん大阪は本部ですから抵抗ない、支部の名古屋も少ない、三重県へくるとどうも。静岡も同じことだろうと思います。私はユニークな協会だと思うんです。このユニークさについてもう少し何かを検討する必要があるかもしれない。その何かが難しいと思うんです。

長谷部　今、支部活動の一つの大きな問題は雑誌「建築と社会」の東海特集です。せっかく東海特集をやるんだから、それに対して盛り上がっていく何かがあってもいい。たとえば作品作風へ載せたものの見学会を行うとか、設計者なり、業者に集まってもらって、苦労した話とかを聞いてもいい。そうすると非常に愛着を覚えるんじゃないか、載せるということに対して抵抗がなくなってくるんじゃないかと思うんです。

支部活動の意義——草の根を分ける

司会　では次に、今までのお話をもとに、支部活動の意義というような点でのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

松本　今、支部機関誌の委員ということで1年やっているんですが、どういうところへ意義を持っていったらいいんだろうかと考えているわけです。先だって一つ興味をひかれたことは、会員にもいろいろとおもしろい話題をお持ちの方がいらっしゃる。それは酒蔵の調査だそうで、半田地域を対象にかなり細かくやられたものですが、意外とそういう人がいて話題を提供していただけるわけです。こんなところに意外と機関誌の意義の一面があるんじゃないかということを感じて、他に話題はないかと思い話をしていると、いくつも出てくるんです。たとえばネパールの方へ民家の観察に行った話題があったりで、そういうものを機関誌に載せてみようかというようなことを考えているんです。一般に流れている情報はみんな知り尽くしている部分がありますので、逆にそういう草の根を分けるような情報に接することを会員の人も楽しみにしてくれるかなあというようなことを最近感じて、その辺に意義を見つけたいというようなことを考えているところです。

また、支部活動全般に対する意義ということでは、たとえば、建築協会をやめちゃったら見学会に行けなくなっちゃうんじゃないかというような不安が出てくる。そういう何かとのつながりを持っていて、脱会したら何か自分の一部がはぎ取られてしまうんじゃないかというような危機感がある。それでいいんじゃないかなあというふうにも思います。

大きなイベント等についても関心はありますけれど、それが建築協会としての仕事、あるいは東海支部としての仕事かというと、また少し疑問になる。それより支部長が言われたように、他団体との連携の中で積極的に推し進めていくという方がより建築文化の高揚に適した形になるんじゃないかと思っています。大きな団体はそれぞれの人が、それなりの意義を感じながら推し進めていくというもので、これだというものを見つけることよりも、多くの人に意義を感じてもらえるような雰囲気づくりというか、催し物になるのかもしれませんが、もうちょっと幅広い層を意識しながらやっていくところに意味があるんじゃないか、そんな感じを持っております。

プラグマチックな視点とサロン風

司会　「建築と社会」に東海特集を組む大きな意義というものは、もちろん作品の紹介ということもあるでしょうが、それと同時に、座談会なり、その地方の特集記事といったものが組まれているわけです。建築は生活や風土とか歴史というようなものとの関わりが非常に強いということで、当然その地方の文化というものと深い関わりを持っているわけですが、地方の文化というものは、ある一面では長い間に培われてきたものが時間の流れの中で得てして閉鎖性を強め固定化していきがちであり、求心性を持っているような感じがします。また他方では、大都市を中心とした新しい建築の流れというようなものが、流行というようなことでは言い過ぎかも知れませんけれど、そういうような動きもあるわけです。そうすると各地域の地方文化なり、新しい建築の流れというようなものが、別の価値基準で評価される、どちらかというとプラグマチックな点でチェックをしていこうと、そうしたことが地方と中央との間で計られていく中で、建築文化の向上に結びついてゆくとも言えるわけで、そういう意味で地方特集というものが大きな意味を持つのではないかと思います。

今までのお話も踏まえながら今後の支部活動の在り方ということでいかがでしょうか。

松本　最初にお話ししましたが、催し物が1年を通して点みたいな形で存在している、もう少し継続して年中活動しているという雰囲気がほしい。もう少し言うとサロンみたいな、建築に関心を持っている、建築に携わっている人が集まっているんだというような、そういう雰囲気みたいなものがほしい。サロン風のというか、とりとめのない建築に関わる話をするような場、そういうものに飢えている人が割といるんじゃないかと思うんです。他の関連団体というのは団体の使命というものが割とはっきりしている。そういう中で建築協会というのは、あまりそういうものに囚われずに活動できるところですから、変な言い方をすれば溜まり場みたいなものでもいいわけです、いろいろなイベント以外にも日常的にいろいろなことが語れるようなサロンのようなものが会の中に出来上がってくると、また違う活動が図られるんじゃないか。

会員の増加といっても非常に難しいと思うんです。初めは会員でなくってもいいけど、これだけ世話になっていては申し訳ないから会員になろうというふうな状況も必要じゃないか、幽霊会員よりはむしろ会員じゃなくてもいいから参加してくれるという人の方が大切だと思うし、そういう人がいつかは自分の意思のもとに会員になっていく。大勢の人がいろいろな考えを持ちながら集まってくるような団体であってほしい。そういうことによって活性化が図られていくんじゃないか。

連帯と地方性のある文化

司会　コロムビア大学の教授で日本の能を研究している人が言っていますが、日本の文化というのは、西洋の学問のカテゴリーではとても理解できないところがあり、その新しいカテゴリーとして共同体というようなものを持ってくる必要がある。そういう雰囲気が非常に強いんだというような話ですけど、共同体的な意識というようなものを醸成できれば結構なことと思うわけです。

長谷部　協会へ入ってメリットだとか、デメリットだとかを論ずるのでなくて、会員になること自体がメリットだというような考え方でいけるような会にしてゆきたい。会費1万なにがしかを出せばどれだけお布施があるなんてことをすぐ考えがちなんだから、なかなか難しいことでしょうが。(笑い)やはり終局の目標はそこへ持っていくべきが本当じゃないかと思います。

松本　たとえば役員会の後に1時間でも自由な時間があって、しかも一般の会員の人達がふらっと入っていけるような、そういうところからでもスタートできるんじゃないか。現状では皆さんお



座談会風景　とき—昭和61年12月11日　ところ—愛知県建築士会会議室

忙しいから、限られた時間の中で決めなければいけないことだけを決め、終わったら次の仕事というような感じがします。僕ら若い者にとっては、あれで解散されちゃうと勿体無いなあと(笑い)。もう少しゆっくりその場を借りながらでも話ができるといいと思う。

中島　そういうことを日本建築家協会東海支部で毎回例回の時に、特定の講師の先生を呼んできてやったことがあります。確かに成果はありました。ただ、当支部でもそうですけど、何かやりますよということでお誘いしてもなかなか集まってもらえないということで、実行しにくいことも経験しています。

司会　地方の連帯感を強調されます桝林さんとしては、いかがでしょうか。

桝林　先ほど申し上げたようにちょっと距離があると思われるもので、集まりが少ない、し難い。そこでユニークさということを申し上げたのは、さっきの話じゃありませんがサロン的に何とかの集いのようなものを開く。それを楽しみに来られる会員さんもきっとあると思う。

それから、東海支部の機関誌のようなものを、「建築と社会」の東海支部特集の中に一緒にはさみ込む。それで地方の有様がなんとなく解る。それが他支部の啓蒙にもなるかもしれないし、意外性が意外とあるんじゃないか。機関誌の中で地方性のある文化とか、歴史とか、風土を取り込んでいくというのは意味があると思うんです。

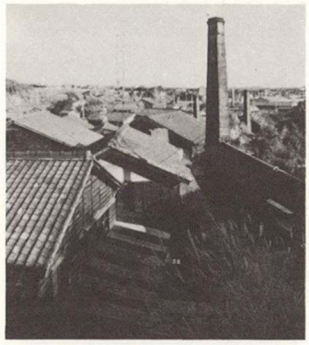
支部運営の財源確保を

司会　いろいろ問題提起やら、今後の在り方に対する具体的なご提案もいただきました。今日は、まとめをつけるに致りませんでしたが、この話し合いが支部活性化の一つのきっかけとなっていくことを期待したいものです。

中島　貴重なご意見を頂戴しましてありがとうございました。今後の支部の運営の参考にしていただけることと思います。しかし一方では支部運営のための財源をどこに求めるのかということも大きな問題となります。本部からわずかの助成金をいただいてはいますが、これではとても出来ないということで、いろんな方面で何らかの形で事業費を生み出す努力をしているわけです。たとえば見学会の問題にしても、独立採算で計画をしていただいております。

もう一つの、支部の会誌である「東海の建築」につきましては、「建築と社会」の東海特集を補完する意味もあり、連続性を期待しておるということなんです。

ともかく会員の数をふやすことによって、もう少し力強い支部が生まれてくるんじゃないかということを考えております。いずれにせよ、本部あっての支部ですので、互いに連帯し、支部の運営にも十分な理解をいただき、ますますのご支援とご指導を求めていくとともに、皆様方から貴重なご提案をいただきましたことを何らかの形で生かすように、共々に頑張っていきたいと思います。



常滑焼の里見学(56.12.12)



神戸ポートピア'81見学会(56.3.20〜21)



「建築と社会」東海特集座談会
テーマ「伊勢湾をめぐる東海地方の現在と近未来」



滋賀県大津地方近代建築見学(59.12.8) 滋賀県立近代美術館



支部復活25周年記念誌

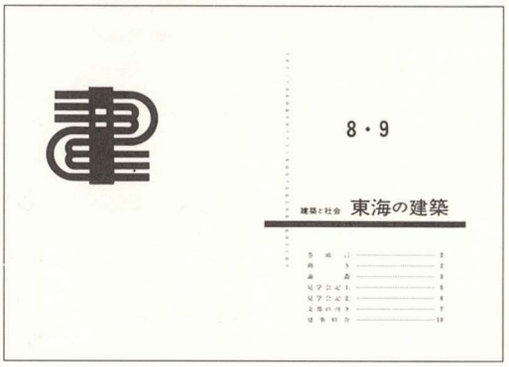


支部復活25周年記念講演(60.12.7)
テーマ「設計界の諸問題」講師：本会会長 佐野正一氏



支部復活25周年記念パーティー(60.12.7)

日本建築協会
東海支部行事
の一部



東海支部会誌「東海の建築」

織物
―一宮―

東海の建築地場産業●ルポ 9

滝　一廣

●尾張古代の織物

当地方は木曽川の清流に育まれる濃尾平野の中心に位置し、農業地として発展していた。しかし一方、古くから織物の産地としても発達してきたところであり、今日の織物王国としての名声や真価も古代からの連綿とつづく歴史の蓄積によるものである。したがって、古代から当地方に関連する織物の文献は少なくない。

聖武天皇天平６年、正倉院に現存する尾張国正税帳によると、錦生４人、綾生52人が業に従い、盛んに錦綾を織ったと記されている。また永万元年神祇官への年貢として一宮から八丈絹５疋を貢献している。さらにこのころ伊勢神宮領に対する尾張国本封調は中島、丹羽、海部、愛知の各郡にあった御厨から絹糸や絹を納めたことが、「神鳳鈔」に載せられている。

一宮は、これら広範な尾張平野の中心地として古代から栄えた。遠く真清田神社の創建の当時、このあたりは木曽川の自然分流にはさまれたもっとも開けた土地であったと考えられているが、土地が肥沃で、人も多く集まったため神社を中心にして集落が発達し、主に農業を行うかたわら、織物の生産もしていたとみられる。

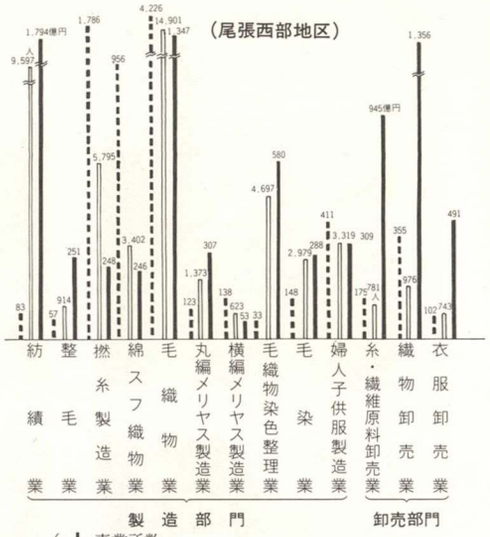
平安時代には一帯は〝美和郷〟といわれたが、のち神社を中心として〝真清田荘〟と称し、さらに〝一宮〟というようになった。むかし国司がその国の神社を参拝するとき、最初に参拝する最高位の宮を「一宮」と称した。尾張国の「一宮」は真清田神社であったのだが、神社の位をあらわすはずの「一宮」の名が、いつしか神社を中心に発達したこの地の地名として用いられるようになったのである。

いちのみやなさへなつかしふたつなく
みつなきのりをまもるなるへし

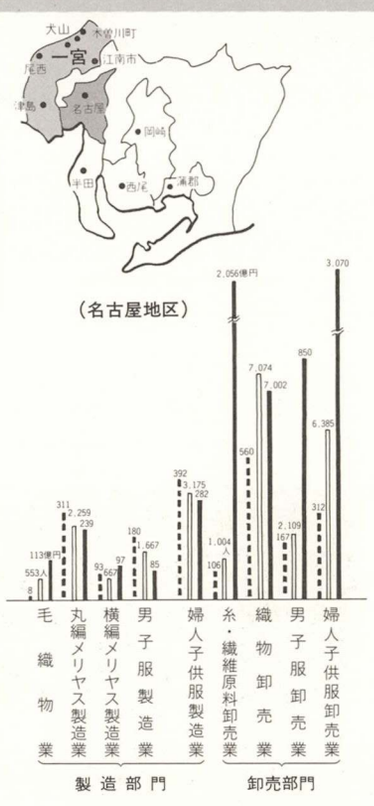
鎌倉時代の歌人・阿仏尼が建治３年、京都から鎌倉へ行く途中、この地を通り真清田神社(一宮)に参拝したときに詠んだ歌である。

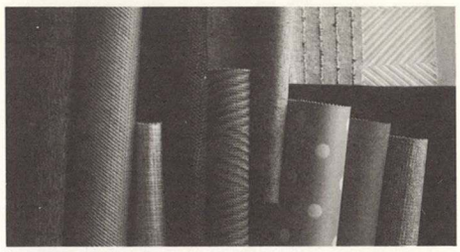
こうして戦国時代には社領保護のため神主・関氏が一宮城を築き、江戸時代には神領（330余石）と地方（草高約4,000余石）に分かれるなど変遷をかさねたが、享保12年、神社を中心に三八市が起こってから、にわかに繁盛し、一宮の隆盛を決定的なものとした。この当時、綿栽培が盛んであり、農家でも手織機で生産した綿織物を三八市に持ち出して売買したり、遠く大阪、江戸などへも販売されるようになった。このため綿、綛の取引は寄せ屋や仲買人によって行われ、問屋が発生し、問屋が農家に資本を出して製織させる出機形式の問屋制家内工業も成立するようになった。

このように一宮は、商業の町として発展するとともに、織物製造の専業化がすすめられ、商工都市としての発展がうながされた。明治初期には織物は大阪府に次いで全国第２位を占める生産県となり、尾州織物は全国にその名を高めた。その後、明治22年10月１日から隣接の一色村を合併して町政を施行して、一宮町となり、大正10年９月１日には市制を施行して繊維都市としての面目を整え、〝毛織物王国〟のメッカとして君臨する存在となったのである。



注１　事業所数／従業者数／工業出荷額または卸売販売額
注２（資料）
製造部門＝55年工業統計　　卸売部門＝57年商業統計
注３　各地区の範囲は以下のとおり
（尾張西部地区）　一宮市、尾西市、犬山市、江南市、稲沢市、岩倉市、津島市、葉栗郡木曽川町、海部郡、丹羽郡、中島郡
（名古屋地区）　名古屋市





●繊維産業の概要

毛織物の生産量は、今日ではわが国一のレベルを誇っているが、昨今の消費者からの素材に対するニーズの多様化に呼応して、年々純毛比率は低下し、婦人物を中心に、合繊、綿等との混用による複合素材化が進行しており、どんな素材でも扱える総合素材産地へと転換しつつある。

産地における生産システムは、商品企画力を有し製造、販売機能を併せ持った親機企業と、主に親機企業から受注を受け製織機能のみを果たす多数の出機、および染色整理等の関連企業から構成され、工程ごとに各企業の分業生産が行われている。製織に関してはかつては親機企業も自家設備を多数保有し、その出機依存率はあまり高くはなかったが、毛織物の需要が多品種小ロット化するにつれて自家設備を縮小し、生産のほとんどを出機に依存するようになっている。しかし今日出機の設備老朽化が進んでおり、また人的資源の面でも従業者の高齢化、後継者難などから出機の生産能力は低下傾向にあるため、一部親機企業では自家設備に対する見直し気運が高まっている。

●繊維産業の特性

一般に繊維製品の生産は、長い生産工程を有するテキスタイル産業と、消費者等小売段階に近接するアパレル産業によって行われる。本県の場合は、県内各地に立地している各種織物企業とそれに係る多くの関連業種から構成され、他に見られないテキスタイル生産一貫体制が形成されている。

これに加え、近年大消費地をひかえた名古屋地区において、婦人服を中心としたアパレル産業の急速な発展が見られたことから、県内で糸から衣服に至るまでのテキスタイル――アパレル一貫生産体制が構築され、市場動向に合致した製品を短期間に供給できる体制が確立された。

なかでも尾州産地では、織物業を中心に紡績・撚糸・染色整理・産元等の関連業種が多数集積し、産地内でテキスタイルを一貫生産できる体制にある。製品のファッション化に対し重要な意味を持つ生地企画については親機がその中心的役割を担っており、自立的産地として発展を遂げている。アパレル企業および名古屋地区の卸売企業との結びつきを強め婦人服地を中心に商品企画の意見交換を行うなど、その企画力は高まっている。

一般に繊維産業では、川上の紡績・撚糸、川中の織布・メリヤス・染色整理、川下のアパレル等の工程に細分化され、それぞれの工程について個別の企業群が加工を行う社会的分業化が進んでいる。県内にはこれらの間を結びつける役割を担う流通企業が存在し、商品企画・在庫・製品流通等について多くのノウハウを蓄積しており、流通面から本県繊維産業を支えている。

（たき　かずひろ　株式会社サンゲツ）

合板
―名古屋―

東海の建築地場産業●ルポ10

吉村幸司

アイザック・ニュートンは木からリンゴの落ちるのをみて引力を発見し、合板はリンゴの皮を剝くのをヒントに発明されたといわれる。

しかし、紀元前2600年にすでにその創造理念はあった。それはピラミッドの中に残されている家具や小箱に採用されたことによっても判る。さらにわが国では、奈良時代の道具に採択されたことが、正倉院御物中の遺品に残っていることからも証明される。

世界で最初に、現在使われているような、ロータリーにかかった単板（桂剝き）で合板が出来たのはオーストラリア辺りで、1870年頃である。わが国に製品が紹介されたのは、それから24年後、米国のシカゴ万国博覧会から見本を持って帰った農商務省の諏訪鹿三氏が日本山林会総会の席上で紹介したものが最初である。

わが国の合板工業の歴史は、1907年(明治40年)、名古屋の浅野吉次郎氏に始まる。

1894年(明治27年)、わが国に初めて合板が紹介されていらい約10年、1905年(明治38年)、日露戦争勝利の後を受けて企業ブームが勃興した。合板工業もこの頃から興りはじめ、1907年(明治40年)、名古屋の浅野吉次郎氏のベニヤのロータリーレースの発明がスタートとなった。

丸太から剝いだ薄板を貼り合わせた合板の誕生は、均等で幅広の板が容易に作れるということで、建築や家具などに新しい分野をひらいた。

浅野吉次郎氏と合板との出会いはモミチェスト（茶箱）の輸出をインド・コロンボにしたが、競合する英国製品がベニヤ合板製だったことに衝撃を受け、これが独自のロータリーレースの開発へと結びついたのである。

ラワン合板の量産化は、1926年（大正15年）から始まったが、翌年世界を襲った経済恐慌の波にさらされ、間もなく多くの企業が倒産していった。

こうした厳しい現実に直面した合板業界も1931年（昭和６年）を境に、新しい発展期を迎えることになった。その理由は、①ラワン材が合板用材として適材である。②従来の接着剤ミルクカゼインに代わり、すぐれた接着剤として大豆グルーが登場した。③合板が一般建築材として普及し、大衆化が進んだことなどである。

その後、戦時に入って軍需に活路を見出したものの、敗戦により合板業界も壊滅的打撃を受けた。

戦後、合板業界が立ち直ったのは1957年（昭和26年）頃からであり、朝鮮戦争の勃発による特需ブームを契機に、昭和35年頃まで、輸出が大きな原動力となって再び急成長を遂げた。

「名古屋はパチンコの発祥地として知られるが、パチンコ台とベニヤチェスト（茶箱）のサイズが同一なのは、名古屋を舞台に戦後の一時期輸出不振をかこっていたベニヤチェストと台頭期のパチンコ産業の出会いによるもの」とのエピソードをつけ加えておきたい。

最盛時には、輸出が総生産高の三分の一を超えた時期もあったが、昭和35年以降は輸出比率は年々減少し、現在は輸入も微増に留まっている。

合板生産量のうち95%は南洋材、いわゆるラワン合板である。しかも合板生産コストの60～70%は原木価格で占めており、ラワン原木の動向はつねに合板業界の関心の的であったが、丸太輸出国の森林の保全と資源の有効利用、さらには国内木材工業の育成などを主眼として丸太輸出規制が強化された。こうした南洋材原木事情に対し、北米材・ソ連材・杉・桧など代替樹種の研究開発も積極的にすすめられている。

合板は、二次加工品も含めて、われわれ国民生活に密着し、広範多岐にわたって利用されている。用途の広さは、日本合板工業組合がまとめた資料によれば、もっとも多く使用されているのが建築、土木で全体の56.4%を占め、次いで家具21.2%、建具7.1%、家電キャビネット4.1%、展示装飾2.1%、パレット梱包3.1%、ミシンテーブル0.7%、その他5.3%（昭和48年調査）であった。

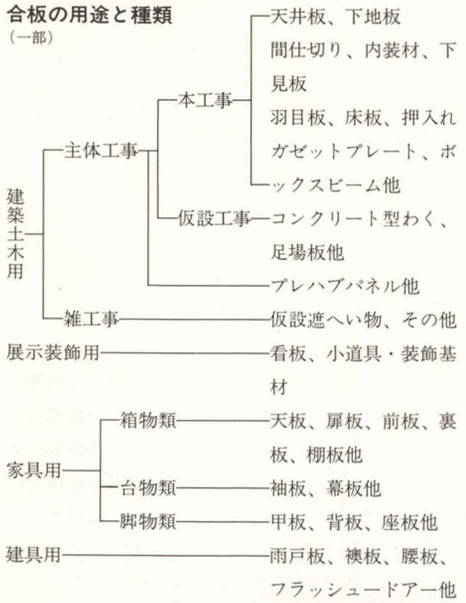
建築、家具、建具、家電キャビネットを合計すると88.8%を占め、住生活ときわめて深いかかわりあいをもっていることがわかる。

合板は、その特性である加工性、施工性がきわめて高く、強さとねばりがあり、しかも軽量。他の材料との複合が可能であり、経済性の高いことが、あらゆる分野に利用されている大きな理由である。

資料；日本合板工業組合連合会　合板75年史

（よしむら　こうじ　永大産業株式会社）

合板の用途と種類
（一部）



林野庁「合板の流通構造および需要動向に関する調査研究」報告書（昭和43年２月）

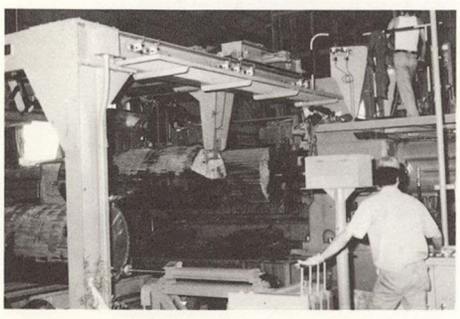
合板生産量の推移　中日本合板工業組合調べ。（単位：千㎥）

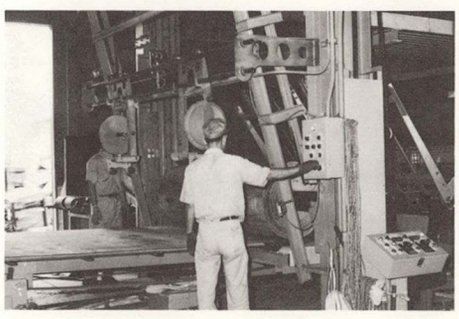
年	愛知県	全国
昭和22年	3,155	24,768
23	4,314	27,621
24	5,715	37,273
25	7,640	40,492
26	13,118	56,803
30	53,009	172,190
35	91,461	356,921
40	148,143	656,859
45	265,013	1,730,505
50	229,839	1,542,130
55	259,333	2,001,968
56	229,162	1,774,472
57	211,076	1,684,525
58	205,194	1,822,821

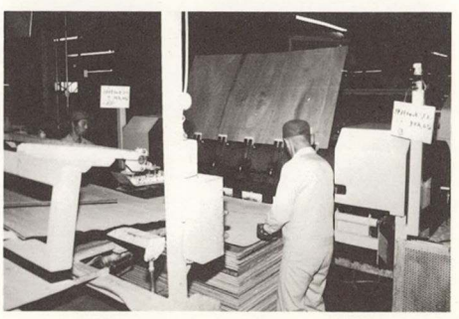
合板の日本農林規格（JAS）の定義と類別

普通合板	合板の表面にオーバーレイ、プリント、塗装等の加工を施さない合板
難燃合板	難燃合板のＪＡＳ第２条に規定
防火戸用合板	防火戸用合板のＪＡＳ第１条に規定
コンクリート型わく用合板	コンクリート型わく用合板のＪＡＳ第２条に規定
構造用合板	構造用合板のＪＡＳ第２条に規定
足場板用合板	足場板用合板のＪＡＳ第２条に規定
防炎合板	防炎合板のＪＡＳ第２条に規定
パレット合板	パレット用合板のJAS第２条に規定
一類	長期間の外気および湿潤露出に耐え、完全耐水性を有するように接着
二類	通常の外気および湿潤露出に耐え、高度の耐水性を有するように接着
三類	通常の耐湿性を有するように接着

一類、二類、三類については、①相接する単板の繊維方向がおおむね直交するベニヤコアーの合板、②相接する単板の繊維方向がおおむね直交する層と平行する層とを有するベニヤコアーの合板、③特殊コアーの合板、の構成の種類ごとに、それぞれ煮沸繰返し試験、一類浸せきはくり試験、温冷水浸せき試験、二類浸せきはくり試験、常態接着力試験および三類浸せきはくり試験に合格するものであること。







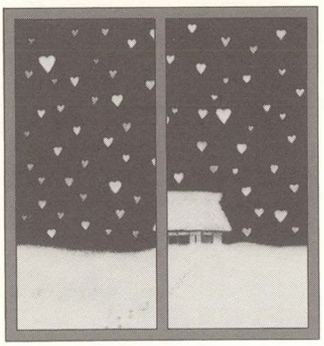
INAX

人・間・空・間 たいせつに

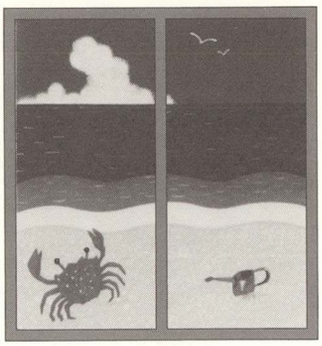


INAXが提唱する「環境美」は、都市空間を再構成する都市美、
高質の住まいづくりを推進する生活美、そして企業イメージを建築物で高める企業美——
この3つが柱となっています。そしてここに共通する基盤は、「セラミック技術」です。
台所、浴室、トイレなど水まわりはもとより、門、庭園、玄関まわりなどの
エクステリアをカバーし、さらに建築の内外装から街の広場づくりへと、
INAXタイルの世界は大きく未来をひろげつつあります。

株式会社INAX
東京本部 〒104 東京都中央区京橋3丁目6番18号TEL03-561-1710 名古屋支店 〒461 名古屋市東区東桜一丁目4番地16号TEL 052-962-1271

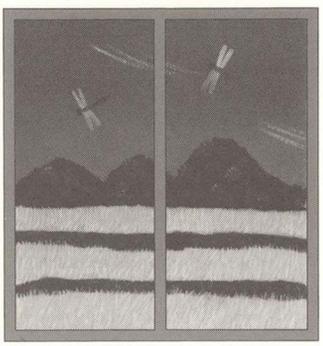


四季の

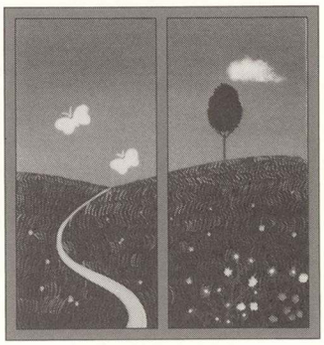


窓が

詩(うた)



奏でる



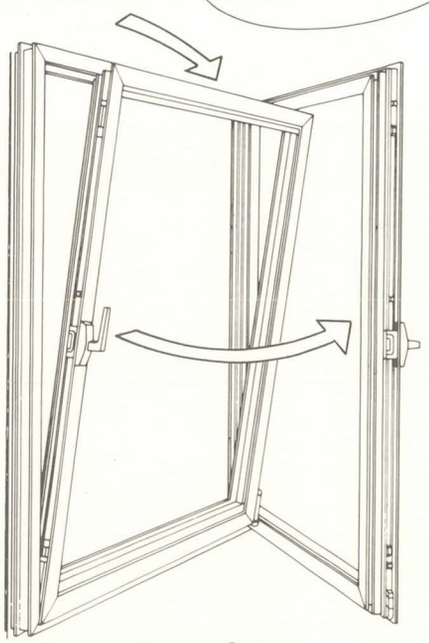
超高層ビルから住宅用まで
窓から広がる豊かな暮らし

不二サッシ

本　　社　〒211 川崎市中原区中丸子135 TEL (044)422-1111(大代表)
名古屋支店　〒450 名古屋市中村区名駅4-2-25 TEL (052)582-7511(大代表)
豊橋営業所・岡崎営業所・豊田営業所・岐阜営業所・三重営業所・四日市営業所

開口部 2way 活用

ひとつの窓に
ふたつの機能



住友のドレーキップ窓

カイゼル シリーズ

住友ウォールシステムのカイゼルシリーズは、ワンタッチ操作で内開き・内倒しが可能。開口部をふたとおり(ツーウェイ)に活用できます。カイゼルシリーズは、嵌殺し窓の他に、Sフラット(同面片引き窓)等との連窓が可能で、外壁とガラス面がフラットに納まるスッキリした外観デザインが得られます。また、断熱タイプ、ブラインド内蔵タイプも揃えていますので、用途に合わせてお選びください。

住友ウォールシステム株式会社

本　　社　〒101 東京都千代田区神田美土代町1 TEL.03-294-8511(大代表)
大阪支社　〒541 大阪市東区南本町5－14 TEL.06-252-1881(大代表)
支　　店　横浜／名古屋　　営業所　札幌／仙台／広島／福岡

インテリアで百余年の実績を誇る
タカシマヤの企画・設計・施工

1878年(明治11年)創設の装飾事業部は，宮殿，迎賓館などに発揮された
最高級の技術と経験を活かして，
オフィス・ホテル・店舗づくりなどに力を入れています。
企画からオープンまでの一貫システム。
皆様のご用命をお待ちいたしております。

髙島屋
装飾事業部・設計室

関東装飾部・〒103　東京都中央区日本橋2丁目4番1号　☎ (03)211-4111
名古屋出張所・〒450　名古屋市中村区名駅4-7-23　☎(052)561-2481
関西装飾部・〒542　大阪市南区難波5丁目1番5号　☎ (06)632-3191
事　業　所・京都・広島・福岡・仙台
出　張　所・札幌・盛岡・秋田・新潟・金沢・神戸・岡山・高松・長崎・鹿児島

エポキャスト
(特許第700211号)
ハードラックス

外装吹付材について
次のように考えています。

艶落ちしない
退色しない
剝離しない

これが弊社の基本姿勢です。

内外装吹付材メーカー● 責任施工

阪神興業株式会社

大阪本社　大阪市西区千代崎2－12－5　TEL 06(584)0170(代表)　〒550
東京営業所　東京都千代田区平河町2－15－19　TEL 03(239)0511(代表)　〒102
名古屋営業所　名古屋市北区西志賀町3丁目75番地　TEL 052(913)5101(代表)　〒462
福岡営業所　福岡市東区大字土井字川原420　TEL 092(691)3470(代表)　〒813

天然石(花こう岩、大理石など)の風格ある外壁に
経済的で安全な新工法

YMストーンパネル®

——石装メタルフレーム工法——



○軽量・強靱ですから広範囲に適応
石装、PCカーテンウォール工法にくらべ約3分の1の重量となり、躯体構造の負担を大巾に軽減します。高層ビルにも最適です。

○石装複合材としては、日本で唯一の耐火認定商品
大災害にも、石が落下しないよう特殊な装備をしています。

○工程の短縮
工場組立複合材ですから、現場据付もはやく、PCパネルのような型枠が不要のため、工場組立もはやくできます。

○経　済　的
総合して、一般的には石装PC工法以下のトータルコストで想定いただけます。

標準仕様	標準石厚	30%
	パネル標準重量	140kg/㎡ 程度
	メタルフレーム	構造用軽量形鋼、亜鉛浸漬メッキ処理
	耐火構造	特殊耐火材、ステンレス特殊ファスナー使用 層間変位、風圧、水廻り、結露についても配慮
耐火構造指定	Wn1131（非耐力壁、1000℃ 1時間）	
特　　許	第1345120号	
意匠登録	第646393号ほか3件	

SINCE 1901

YABASHI

矢橋大理石株式会社

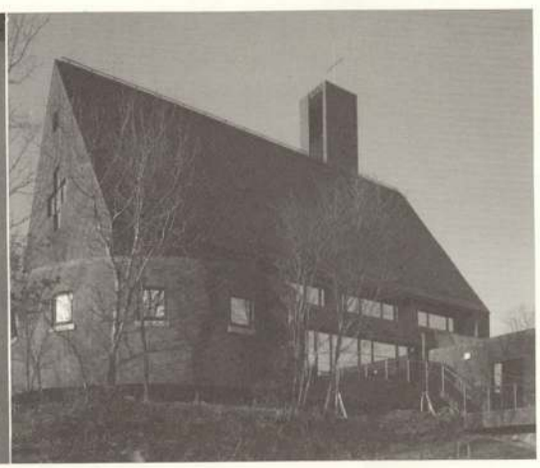
本社・工場　岐阜県大垣市赤坂町273
TEL　0584-71-1211

東京　03-214-3561　　大阪　06-202-4905
名古屋　052-561-3441　　福岡　092-721-0384
札幌　011-241-4776　　広島　082-291-1863

創作タイル　陶壁画とユニークなタイル



愛知労災会館の陶壁画（製作・加藤卓男）



名古屋学院大学チャペル

大和窯業株式会社

営業本部　〒488 尾張旭市北原山町大久保見2022
Tel. 05615・3・2821(代表)　Fax. 05615・4・3474

本　　社　〒489 瀬戸市東古瀬戸町4番地
Tel. 0561・82・5158(代表)　Fax. 0561・82・8216

東京営業所　〒100 東京都千代田区永田町2-17-3 堤フラッツ206号
Tel. 03・580・3081

瀬戸工場　〒489 瀬戸市東古瀬戸町4番地

三郷工場　〒488 尾張旭市北原山町大久保見2022

構造の頁

146

コンクリートの品質管理● 1

X線による非破壊検査の原理と画像処理の実際 (その2)

長谷川　敦史

配筋状況の調査結果（図－4）は、画像処理によって得られた各像の計測値によりコンピュータから出力された例である。

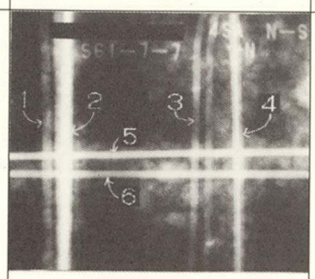
小梁（幅300mm）のX線フイルム写真（図－5）を見ると、一般の人が見ても確認できる写真となっている。このような写真にするためにも、画像処理の技術が利用されている。

この小梁の上端筋は計測器により、①上端筋の主筋2本、②主筋の間隔約130mmと推定され、X線による調査では、①下端筋の主筋2本、②主筋の種類D22、③スターラップの配筋ピッチ約250mm、④スターラップの種類9 φであることが計測された。その他の詳細な計測の結果、この小梁の配筋状況は図－6のように推定される。

つぎに、大梁（幅350mm）の配筋調査例を紹介する。この場合の調査では、上端筋が計測器で確認不能であったので、はつりによって確認した。また、下端筋・スターラップおよび腹筋は、X線を利用した。このX線フイルム画像処理写真が図－7である。

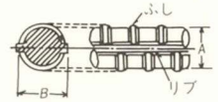
このように画像処理した結果と、はつりによる調査結果を総合すると、図－8のようになる。通常の調査では、大きな破壊を伴うはつりによらなければ確認不能である主筋、スターラップ、腹筋および折り曲げ補強筋の情報が非破壊に得られる。

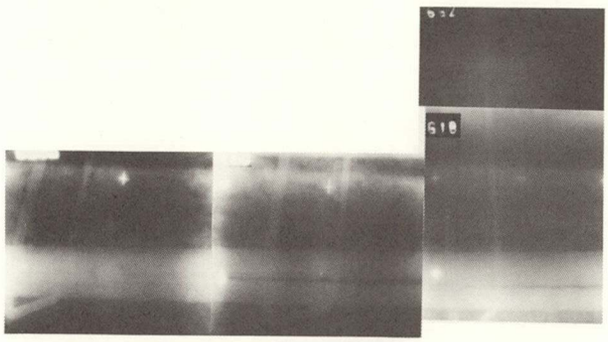
図－4　計算結果の例－X線によるスラブの配筋調査（単位：mm）

調査部位	N　配筋図（配筋ピッチ）	コンクリートの厚さ T	No.	鉄筋径 A	鉄筋径 B	K_0	かぶり厚さC Cu	かぶり厚さC Cd
4SA		128	1	10.6		85	38	
			2	10.5		20		15
			3		8.9	82	42	
			4	8.0		24		20
			5		8.9	32		27
			6		8.9	73	51	
			7					
			8					
			9					
			10					

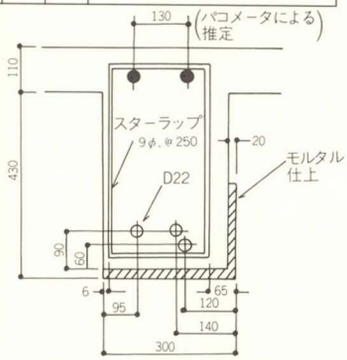
〈1〉－〈3〉161　〈2〉－〈4〉195

T：2枚のフイルムより得られた値が異なる場合、おのおのの平均値を記載している。
A：異形鉄筋の谷－谷
B：異形鉄筋のリブ－リブ
K_0：フイルム側コンクリート表面から鉄筋中心までの距離
Cu：上端筋のかぶり厚さ
Cd：下端筋のかぶり厚さ

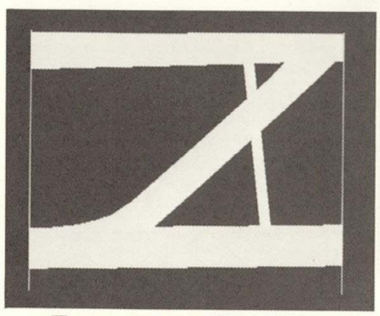




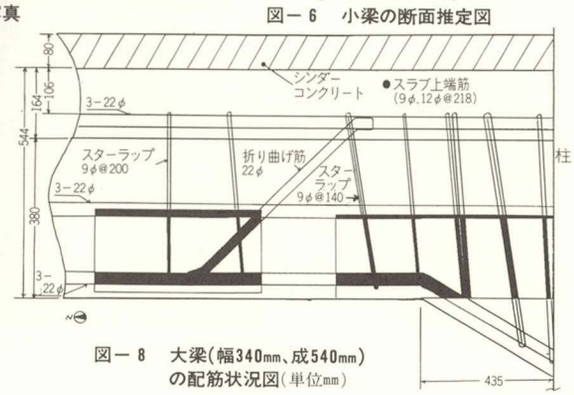
図－5　梁の連続X線写真



図－6　小梁の断面推定図



図－7　小梁の2値画像写真



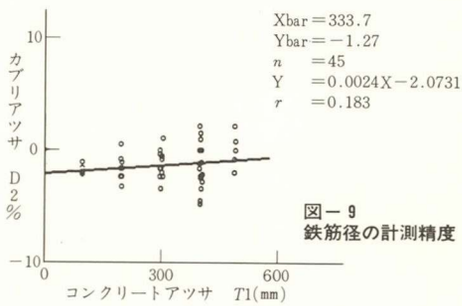
図－8　大梁（幅340mm、成540mm）の配筋状況図（単位mm）

計測精度

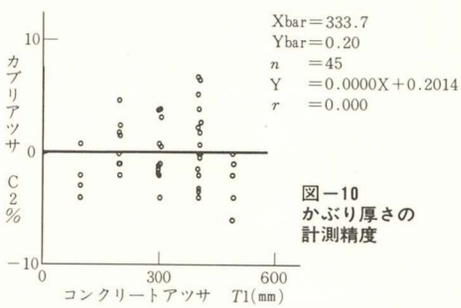
供試体を使用した実験データを紹介する。横軸にコンクリート供試体の厚さ、縦軸に計測精度として、次式の値をプロットしたのが図－9である。

$$\text{計測精度}(\%)=\frac{\text{計測値}-\text{実測値}}{\text{実測値}}\times 100$$

また、図－10は同様にかぶり厚さを表したグラフである。これらのグラフから、コンクリートの厚さが増すと、その計測精度は低下する傾向が見られる。現在のX線による調査では、コンクリートの厚さが500mm以下であり、その計測精度は10%以下である。



図－9
鉄筋径の計測精度



図－10
かぶり厚さの計測精度

おわりに

以上のように、非破壊での配筋状況調査は高精度に実施可能となった。その他の調査でもコンクリート強度、中性化深さの測定等もある程度非破壊的に行える技術もある。また、X線を利用してコンクリート中の鉄筋の腐食状況調査も、コンクリート厚さが200mm程度であれば可能で、それ以上の厚さに対しては現在開発、研究中である。

（はせがわ　あつし
株式会社構造総合技術研究所技術部技術課長）

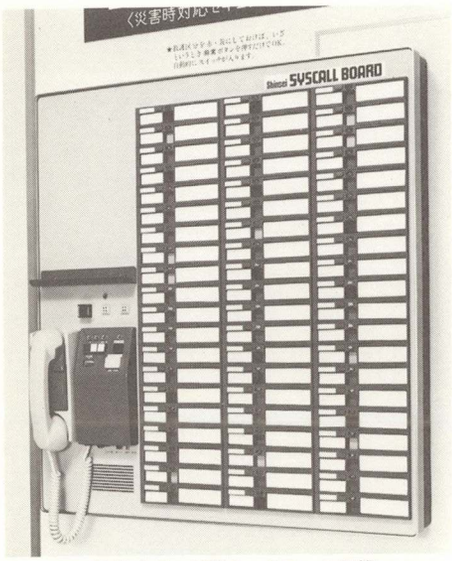
●構造設計●構造診断
KK キンキ構造設計
〒542 大阪市南区谷町9－5－28－206
TEL06(763)5460㈹・FAX06(763)5468

●建物の総合調査・診断
（株） 構造総合技術研究所
〒583 大阪府羽曳野市蔵之内626番地
TEL0729(57)0988㈹・FAX0729(57)0169

設備の頁

149
病院内の通信設備
—病棟のコミュニケーションシステム

牧野　稔



壁掛式ボード型ナースコール親機

病院の通信設備は、まず、身心ともに病める人が最も苦しいときや弱っているときに使用するという特殊性、人命にかかわる緊急性、増大する医療情報の処理、迅速な業務処理など、一般の建物のそれとは大きく異なり、特殊で複雑多岐にわたり、しかもトータルシステムとしての機能が求められている。

本稿では、最近における病棟のコミュニケーションシステムに関して、ナースコール設備を中心に紹介する。

ナースコール設備

1）ナースステーションに設置の親機

従来はカウンターに設置される卓上型のものから、最近では壁掛式ボード型に変わってきている。その理由は、ナースコール機能に新たな機能・用途が加わってきたことによる。

今までは黒板や入院患者表示板で利用していたが、患者の情報を組み込んだボード型ナースコールが最近開発された。

入院患者の一覧性により、どの患者からの呼び出しであるかがひと目で分かること、患者各人ごとの情報としての受け持ち医師や、救護区分（担架で運び出す担送患者、付き添って誘導する護送患者、独自で避難できる独歩患者の表示が義務づけられている）などがひと目で分かり、担送患者はどこのベッドにいて全体で何人、外泊患者は、今日の入院患者は、入約や空床の状況は、などの病棟全体の状況が把握できることにより、看護の能率向上や病棟管理の合理化につながる。

このような新しい機能を付加したナースコール親機を設備するに当たっては、ナースステーションの壁面のどこにボード型ナースコール親機を配置するかが、病棟管理上の重要なカギとなり、設備設計上の検討ポイントと言える。

2）病室のナースコール子機

従来のナースコールでは、天井にスピーカとマイクロホンを埋め込み、押しボタンのみを病床ごとに設備する方式が主であったが、最近では特殊な病棟を除き、病床ごとにスピーカ、マイクロホン、呼び出しボタン、確認灯を一体化したハンド形子機を備え、患者が同室の他の患者に気がねなく、小さな声で明瞭な通話ができる方式に変わってきている。さらに、ナースコール機能に加えて処置灯と読書灯に使える照明器具を組み込んだアーム形子機も採用されはじめた。

入院患者を処置室に移動させないで、簡単な処置対応がその場でできることから、入院患者への利便性だけでなく、看護にも有効と言われている。

これらのナースコール子機は、一般的に壁面のプレートのコンセントに接続されるが、このプレートには子機がコンセントからはずれたり、断線したときに警報音を親機側に知らせるための機能や、看護婦が他のスタッフの応援を必要とするときの緊急呼び出しボタンなどの機能を設備することにより、安全性、緊急性の向上に資している。

最近は、病室の間仕切り壁の厚さが薄くなってきている関係で、医療ガスや電気のコンセント類とナースコールを組み込んだ、横型ダクトによるものが多く見られるようになった。



照明器具組込アーム形子機

3）病室廊下の患者別廊下表示灯

従来は、患者がナースコールしたとき、呼び出しを表示する表示灯と、病室入口の患者の名札板は別々のものであり、電気設備と建築設備とに分かれて手配されていたが、最近ではこれを電気設備として一体化される傾向にある。これは、廊下でコールした患者名が確認でき、看護能率に大きく役立つからである。

しかし、患者別廊下表示灯は病棟廊下の美観に影響することから、意匠的な面で設計者とメーカーの十分な打ち合わせが必要と考えられる。

4）病室以外でのナースコール子機

入院患者用の便所には、ナースコール用の呼び出しボタンを備えている。急に気分が悪くなった患者の緊急連絡を目的としているが、実際には便所で動けなくなってしまったときや便所の鍵が開けられなくなったとき、便の状態を看護婦に見てもらいたいとき、あやまってナースコールボタンを押してしまったときなどの使われ方から考えて、スピーカとマイクロホンを備えた、通話可能な設備とすることが望ましい。

浴室の脱衣場には、従来からナースコール用の押しボタンが備えられているが、最近では不慮の事故が生じた実例もあって、洗い場や浴槽に入っていてナースコールができる浴室用引きスイッチを設備している。

ナースコール設備に連動させ機能アップをはかる設備

1）デジタル表示付リモート副親機

夜間に数カ所のナースコールを1カ所で集中させ受け付けしたい場合や、サブナースステーションがある場合に、ナースステーションの親機と連動させ、離れた場所で患者との呼び出し対応をする設備である。ナースコールをした患者のベッド番号が表示され、送受器を取り上げると通話ができる。

このリモート副親機の側からも、病室の患者を呼び出し通話することができること、全病床に一斉放送ができることなどの機能があり、とくに夜間の看護体制の補助設備として必要となってきた。

2）ナースページングシステム

ナースステーションのナースコール親機とポケットベルを連動させ、看護婦がナースステーションを不在にしたときに、患者からのナースコールがあった場合に携帯している受信機が鳴り、直ちに対応できる設備である。

この携帯用の受信機には、呼び出しを知らせる呼び出し音だけのものと、呼び出し音と同時に呼び出しをしている患者のベッド番号を表示できるもの、最近では、呼び出ししている患者と受信機とで直接通話ができるシステムが開発されたが、夜間の看護には非常に効果がある。

このナースページングシステムを設備するに当たっては、機種やメーカーによって電波の方式が異なり、誘導無線による方式と無線放射による方式とによって、アンテナの材質や施工方法も異なる。使用目的を明確にし、システムと機種の選定に十分な検討をすることが肝要である。

3）火災報知機との連動システム

ボード型ナースコールには、マイコンを内蔵し、病室子機120局までを5本の幹線で施工できる省線形がすでに設備されはじめている。さらには災害時の対応として、担送患者のいる病室の廊下表示灯を点滅させる機能をもつ製品も開発されている。

最近ではこれらのボード型ナースコールに火災報知機の副受信盤を組み込み、火災時のセキュリティ機能をもったシステムの要求がでてきている。この要求は、システム機能を向上させることだけではなく、ナースステーションの壁面のスペースを有効に活用する点からも注目すべきことである。

（まきの　みのる　新星電機工業株式会社取締役営業本部長）

施工材料の頁

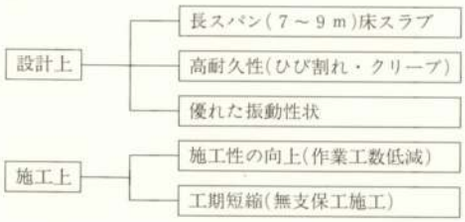
148
遠心スラブ工法

添野建一・丸岡義臣

遠心力によるコンクリートの成形法は、1920年頃にオーストラリアのW.R.Humeによって発明されたもので、わが国では大正末期から昭和初期にかけてその技術が導入されている。

遠心力成形コンクリートは一般のコンクリートに比較して数多くの優れた性能を有しているが、今日、遠心力成形されているコンクリート部材は主に、コンクリートパイル、ポール、管であり、最近1年間で合計約930万トン出荷されているが、建築構造部材、二次部材に使用されている例は少ない。

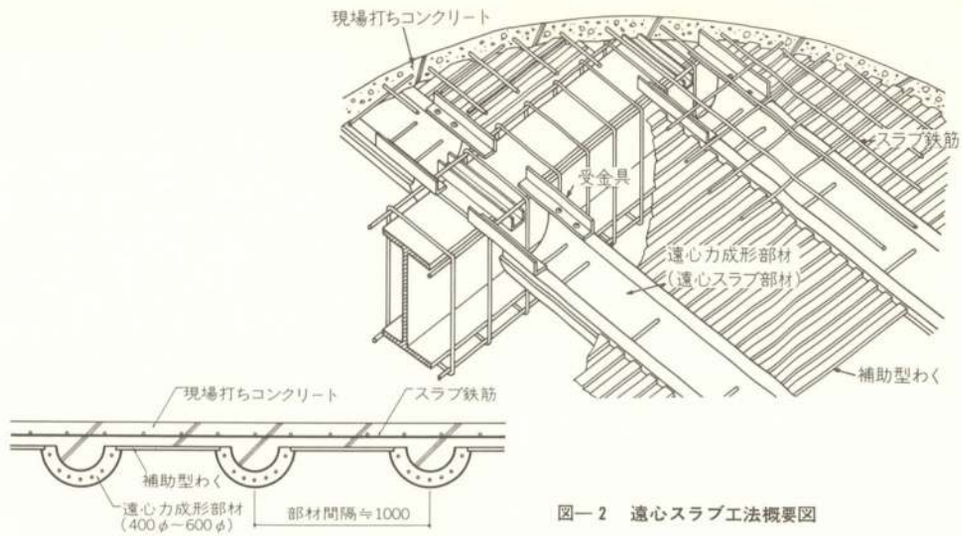
今回、遠心力成形コンクリートの優れた性能に着目し、**図－1**に示すねらいで、遠心力成型部材を用いた床スラブ工法を開発したので、紹介する。



図－1

遠心スラブ工法の概要

遠心スラブ工法は、コンクリートパイルの製造用型わくに、仕切り板をセットし、遠心力成形によって、半円筒状のプレストレスコンクリート部材を製造する。この部材を大梁などの支持部材間に架設し、プレストレスコンクリート部材間に補助型わく（キーストンプレート、大波スレートなど）を敷設した後、この上面にスラブ鉄筋を組み、コンクリートを打設することにより、構造的に一体化された合成床板をつくる工法である。



図－2　遠心スラブ工法概要図

遠心スラブ工法の特長

(1)高強度コンクリートにプレストレスを導入した遠心力成形部材を用いているため、曲げ性能に優れ、クリープ量も少なく、従来の半PCa工法では難しかった長大スパン(7～9m)にも適している。

(2)遠心力成形部材は型わくとして利用でき、スラブ支保工が不要であるため、型わく工事が大幅に省力化され、床工事期間の短縮がはかれる。

(3)遠心力成形法による高密度のコンクリート製品であるため、中性化などに対しても抜群の耐久性を有している。

(4)遠心スラブ工法のコストは、遠心力成形部材が、パイル製造用型わくをそのまま用い従来のパイル製造ラインによって製作可能であるため、他の合成床板工法に比較するとかなり有利である。また床工事期間の短縮、安全性の向上、および品質の向上を考慮して、トータル的な評価を行えば、従来工法に比較しても、今後の水平展開は十分可能と判断できる。

施工計画上のポイント

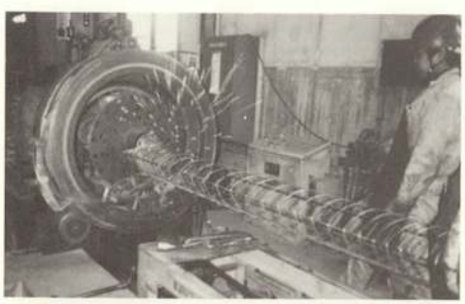
今後、遠心スラブ工法の採用計画を行う場合、下記項目を検討することによって、さらにコスト面の合理化が可能となる。

(1)遠心スラブ部材の配置：コスト比率の高い、遠心スラブ部材の配置方法によって、部材の延べ長さが変化し、全体コストに影響する。コスト的には、部材の種類（長さ）が少し増えても、延べ長さが短い方が有利である。

(2)架設スパン：設計にかかわる項目であるが、遠心スラブ部材の架設スパンは、可能な限り長スパンである方が有利である。

(3)補助型わく：現在までの実績としてはキーストンプレート、大波スレートがあるが、今後さらに安価な材料の調査、場合によっては新規開発が必要と思われる。

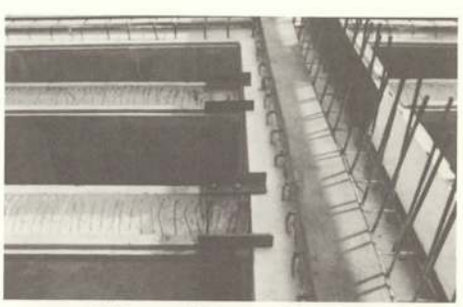
(そえの　けんいち　　竹中工務店技術部技術課長
まるおか　よしおみ　竹中工務店設計部構造課長)



写真－1　鉄筋の自動編成



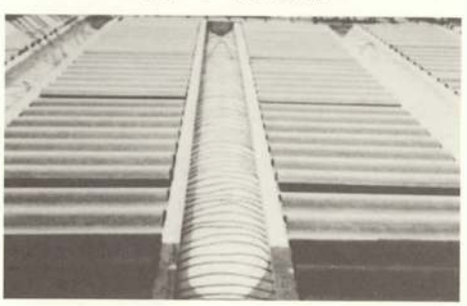
写真－2　遠心力成形



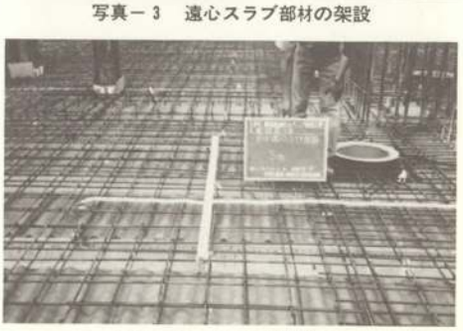
写真－3　遠心スラブ部材の架設



写真－4　補助型わくの敷設



写真－5　補助型わく完了



写真－6　スラブ鉄筋完了

昭和61年度・第2回若い会員の集い

みどり学習会(第12回)

—日本の森林を学ぶ—

紅葉黄葉の私市植物園にて

レポート

みどりの学習会・第12回企画「—日本の森林を学ぶ—」は、安藤萬喜男先生および私市植物園の多大な協力を得て、参加者好評のうちに、好秋の一日、良い企画となり、無事終了した。と世話人として自負しています。

ここで報告すべき内容を含めて、たまたま、僕の職場の上司が、後の感想文で明瞭に書いていてくれます。これを幸いに、みどりの学習会に今まで何回か関わってきての僕の感想を、きわめて個人的意見として少々述べたいと思います。

*

僕は、学校で林学を専攻し、職場で造園関連の仕事に関わって十数年という履歴に、一応なっている。一応というのは、実際には、学校でも職場でも、謙遜ではなしに正直、できるだけ実務をさぼって過ごしてきたからである。当然、緑の知識や技術は、非常に未熟である。ただしその代わりといってはなんだが、緑の現場は、かなり各種の数もぼちぼち見てきた。

そんな僕が、樹や林を確かな存在として実感しだしたのは、恥ずかしながら、ついこの頃である。そして思うのである。みどりの学習会をみどり（緑）の会と改名すればと…。お気付きの方もおられると思うが、この会の名称は、数回前まで「建築家のため」のという接頭語が付いていた。それを外す提案を僕はさせて貰ったのだが、今改めて、再び、学習を取って「みどり（緑）の会」では、と提案したいと、一人考えている。学習して、現場へ行くことは有益である。ことに、樹の名前などは覚えることが、親しみを持つ最も近道であるし、樹木の群としての森林を学ぶことが、緑の本質の理解への一歩であると、ほかでもない僕も、今回の企画の提案者の一人である。そして、安藤先生の講義の意義を重々理解したつもりで、なおかつ思うのである。

年に一回の半日や、一日の学習よりも、巨樹の根元に座して、畏れのようなものを感じながら何時かを過ごす、冬陽の射す雑木林の落葉の積み重なった林床をひたすら歩く、流行りの鎮守の森の暗く湿ったなかで、一日過ごし、弁当を喰べる、といった緑の実感会をすればどうかと思っている。緑と聞いただけで、どなたもこなたも、心浮いておられるようにお見受けする。この緑の、ことに緑の本質の危機にあって、まず、緑を実感する。そして、学びはじめる。そんなアプローチがあってもいいのではないか、と考えている。

冬の花装をまとった春確かな日に。

レポータ・福廣勝介／住宅都市整備公団関西支社

いよいよ試験！みどりから何を学んだか

浜　恵介

建築物や街並みの見学会には幾度となく参加してきたが、植物の見学会（今回は、とくに「学習会」）に関しては、ついぞ記憶がない。私の職業領域の大事な部分であるにもかかわらず、この不勉強ぶり。その反省の念もあって、みどりの学習会（第12回）「—日本の森林を学ぶ—」に参加させていただいた。

京阪電車の私市（きさいち）駅に着くと、終着駅特有の出口のかたちに加えて、楠の木立ちが何となく遠い景勝地の観光起点に来たような印象を与え、心が軽くなるのを感じた。大阪市大の植物園は、生駒山地の北部に位置し、山裾の地形を巧みに活かした構成になっている。天の川というゆかしき名の清流を渡ると園の入口、すべての工作物は控え目で、心なごむ環境がそこにあった。

厩舎を思わせる木造の講堂で、安藤先生からガイダンスを受け、早速実習林での野外講義が始まった。常緑広葉樹だけでも何といろいろの樹木があることか。一応なじみのある形はしているのだが、その名前と区別の決め手となる形質は混乱しそうで、一度にはなかなか覚えきれない。落葉広葉樹林から針葉樹林へと次々に説明をされるのを必死に聞きとり、葉のスケッチなどをする。なぜそうまで一生懸命になったか、と言えば、次に「木の名前あて」という一種の試験が待ち構えているからなのである。楽しげなプログラムとは言え、試験と聞くと久しくその強迫観念から遠ざかっていたので、何やら闘志のようなものが湧いてきたのだろう。

2時間ほどの散策講義が終わって、講堂へもどり、日本の森林の成り立ちについて講義を受けた。わが国の森林がいかに多様性に富み、そして、この植物園が、その多くの部分のサンプルを備えていることに感銘を受けた。

さて、いよいよ試験(？)。葉や実のついた小枝が前後から回覧される。すぐわかるものもあれば、「あれ？こんなの習ったかな……」というのもいくつか。3／4正答なら満足と思って提出したら、意外にも結果は18／20の好成績。上から10位以内とのことで、賞品を頂戴してしまった。

帰りがけ、最初に説明を受けた楠の大樹を見やりながら、「環境さえ良ければ、人間半生の時間で木は巨樹のおもむきを備えるものだ」という安藤先生の言葉を、なるほどと思いなおした。

つい忘れてしまいそうだが、森林は人間の営みそのものを支えている。その全容を半日で学ぶことは無理だが、少なくともその一端について勉強できた。何かを知ること、または知りたいと思うことは、その対象を愛することに通じる。同時に、知ることは喜びであり、より豊かな創造のもとである。この意味からも、当日の学習会はまことに楽しく、かつ有益であったと思う。関係者に多謝。

（住宅都市整備公団関西支社）





日　時　昭和61年11月8日(土)　集合13:00→解散17:00
講　師　安藤萬喜男氏（大阪市立大学講師）
参加者　32名
スケジュール

13:15	あいさつ及び講師の紹介	福廣主査
13:35→15:25	植物園内の見学	
15:30→16:00	講演「造園樹木・日本の植生」について	安藤講師
16:00→16:10	質疑応答	
16:10→17:00	特別企画「樹木の名前あて」	
17:00	解散	

日本建築協会

月間の動き

昭和62年２月分

総　会

通常総会
24日　５時～５時半　　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか14名
議事　(1)　監事１名選挙の件
(2)　本部所属評議員18名選挙の件
(3)　役員重任承認の件

理　事　会

定例理事会
24日　４時～５時　　於本会会議室
出席者　佐野・足立・市川正副会長ほか23名
議事　(1)　定時評議員会開催の件
(2)　名誉正会員推挙の件
(3)　専務理事、常務理事選任の件
(4)　寄附金受領の件
(5)　創立70周年記念事業の件
(6)　昭和62年度事業計画並びに収支予算承認の件
(7)　会員増強に関する件
(8)　その他
(9)　入退会者承認の件
(10)　報告事項

編　集　委　員　会

第11回作品作風小委員会
３日　４時～７時　　於本会会議室
出席者　荒川委員ほか４名
議事　(1)　新建築調査表の選定
(2)　「Gallery」内容報告と今後の検討
(3)　作品作風探訪
(4)　来年度委員構成について

第11回施工材料分科会
４日　４時～６時　　於本会会議室
出席者　荒木幹事ほか２名
議事　(1)　昭和62年４月号「室内の仕上床」特集ー広告の依頼及び収集状況ー
(2)　「施工材料の頁」の企画
(3)　委員の交代

第６回「官公庁営繕と行政建築家」特集幹事会
16日　５時～８時　　於本会会議室
出席者　増渕幹事ほか６名
議事　昭和62年８月号「官公庁営繕と行政建築家」特集編集企画

第11回編集委員会
18日　４時～５時　　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか１名
議事　(1)　２月号「腐食」特集経過報告
(2)　３月号「70周年記念号」経過報告
同構造特集「保管・貯蔵施設」の報告
(3)　４月号施工材料特集「室内の仕上床」特集経過報告
(4)　東海支部特集の企画報告
(5)　来年度編集委員会の構成の件
(6)　そのほか
(7)　収支状況報告

「創立70周年記念号」年表作成分科会
23日　４時～７時半　　於本会会議室
出席者　石田潤一郎幹事ほか５名
議事　「創立70周年記念号」“最近20年間の年表”編集作業

第７回計画分科会
23日　７時半～９時半　　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか９名
オブザーバー：石田潤一郎
議事　(1)　計画分科会の新しい企画
(2)　新年度の計画分科会ー委員の構成

第11回広告企画小委員会
24日　４時～５時半　　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか３名
議事　(1)　３月号「創立70周年記念号」「東海支部」特集「保管・貯蔵施設」特集広告収入報告
(2)　４月号「室内の仕上床」特集広告経過報告
(3)　臨時増刊号「昭和生まれー関西の建築家50＋１」広告収入報告

第10回投稿欄小委員会
26日　４時～７時　　於本会会議室
出席者　増渕副委員長ほか５名
議事　３月号以降の企画と検討

事　業　委　員　会

事業企画分科会
10日　６時半～８時40分　　於本会会議室
出席者　山形副委員長ほか３名
議事　創立70周年記念事業「大正・昭和初期住宅作品の展示」の企画

教　育　委　員　会

工高生教育小委員会
13日　４時～６時　　於本会会議室・
出席者　崎山副委員長ほか３名
議事　(1)　第32回工高生デザインコンクールの実施報告
(2)　第33回工高生デザインコンクールについて
(3)　その他(次年度の委員編成)

工高生教育小委員会
23日　５時～８時半　　於本会会議室
出席者　中野幹事ほか２名
議事　次年度工高生デザインコンクール

建　材　委　員　会

12日　３時半～５時　　於第３ビル会議室
出席者　牧田委員長ほか15名
材料説明：パラテックス／担当・小西委員
議事　今後の検討建材

出　版　委　員　会

27日　５時～６時　　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか７名、学芸出版社１名
議事　(1)　選書とプロのノウハウの経過報告
(2)　今後のテーマと執筆者選定
(3)　講習会再開継続申し入れ
(4)　次年度出版委員

創立70周年記念事業

「住まいの絵本」編集委員会
５日　10時～12時　　於本会会議室
出席者　北浦委員長ほか９名
議事　(1)　「住まいの絵本」ワーキンググループの報告
(2)　絵本のテーマと作家の絞り込み
(3)　絵本の体裁

日本建築協会賞協議会
５日　４時～５時半　　於本会会議室
出席者　東畑選考委員長、薬袋表彰委員長、佐野会長、足立副会長ほか10名
議事　(1)　応募状況の討議と応募業績の一部の説明
(2)　今後の表彰方針と会議の進め方

日本建築協会賞協議会
12日　３時～５時　　於本会会議室
出席者　東畑選考委員長、薬袋表彰委員長ほか５名
議事　応募業績22点のすいせん者または応募者による説明

事業・編集合同企画幹事会
13日　６時～10時
出席者　石川主査ほか４名
議事　「建築と社会」臨時増刊号出版記念事業の企画内容について

第４回講演・祝賀会小委員会
16日　４時～５時15分　　於本会会議室
出席者　西村小委員長ほか５名
議事　(1)　前回総務委員会の報告について
(2)　当日の委員役務分担について

第５回式典・表彰小委員会
17日　４時～６時　　於本会会議室
出席者　三品小委員長ほか５名
議事　(1)　前回総務委員会の報告について
(2)　当日の委員役務分担について

日本建築協会賞幹事会
23日　午前11時～午後１時　　於本会会議室
出席者　東畑選考委員長、薬袋表彰委員長、大岡・八十島委員、佐野・足立正副会長
議事　選考基準の設定

講　演　会

若い会員の集い小委員会
〝ポリフォニーへの軌跡〟
―建築家 東 孝光・都市住居の空間論を語る―
18日　６時半～９時20分
参加者　121名
講　師　東 孝光氏(大阪大学工学部教授)
会　場　扇町ミュージアムスクエア

見　学　会

ベル・パークシティ
19日　２時～４時
参加者　43名

建　築　ク　ラ　ブ

朝食会
10日　８時半～10時　於大阪グランドホテル
演　題　「世紀の転生」
講　師　東大寺長老　清水 公照氏
出席者　86名
当日は、会員中川藤一氏より、自費出版された「木偏百樹」が出席メンバーに寄贈されました。この小冊子は、木偏の漢字一字で木の名前を表すもので、百の漢字のそれぞれに、俳句や短歌をつけ、分配や用途を簡潔にまとめあげた労作であります。

２月の入会者（敬称略）

〔団体会員１社〕
㈱淀川製鋼所
〔個人会員５名〕
五島知暢（三幸建設）　出口尚伸（デム建築事務所）　土居英夫（大阪芸術大学）
松岡啓恵（茶花の里）　吉原宏一（吉原組）

ピカソ・ミロ・ダリそしてガウディ
カタルニア賛歌－芸術の都バルセロナ展…5月17日まで…

「カタルニア賛歌－芸術の都バルセロナ展」(兵庫県立近代美術館・神戸新聞社など主催）が4月11日㈯から5月17日㈰まで、神戸市灘区原田通3ノ8ノ30の兵庫県立近代美館館で開催されている。

この展覧会は、19世紀末からスペイン内戦まで、ピカソ、ミロ、ダリ、ガウディら巨匠を生んだカタルニアに焦点をあて、世界の近代美術の中でカタルニアの果たした役割を探ろうというものである。

バルセロナのあるカタルニアは、スペインの東北部に位置し、スペイン、地中海、ヨーロッパの三つの文化圏の交錯する土地として、特異な風土を形作っている。かつては独立王国として、独自の言語と文化伝統を誇り、18世紀以後は、スペイン最大の工業地帯として繁栄し続けてきた。こうした精神と経済両面に支えられて起こったのが、カタルニアのアイデンティティを求める〝カタルニア・ルネッサンス〟で、この〝カタルニア・ルネッサンス〟運動は建築、美術のみならず音楽、演劇、文学などさまざまな分野で花を咲かせ、バルセロナをヨーロッパ有数の芸術都市に変ぼうさせた。今なおバルセロナの町は、華麗な建築群－教会、音楽堂、病院、個人住宅や商店にいたるまで、魅力的な景観を作っている。

一方、第一次大戦とそれに続く時代、ヨーロッパの前衛美術家たちが戦乱を逃れてバルセロナにやってきた。ピカビア、ローランサンらである。彼らとピカソの出会いがここに生まれる。

本展に出品される主な作品は、ピカソ＝「バルセロネータ」「広場の入口」「スープ」ほか、ミロ＝「サン・ホアン・デ・オルタ教会」「プロシヤのルイーズ王妃」ほか、ダリ＝「父の肖像」「好天続きを悲しむ床屋」「戦争の顔」などバルセロナ時代の作品とともに、ガウディの設計した「聖家族教会」の写真、「グエル公園」「バットリョー家」「ミラー家」の図面と写真などが展示される。

本展に関連して、右記の講演会、映画会、ピアノ演奏会も催されている。ピカソ、ミロ、ダリ、ガウディを通して、カタルニアをより深く理解する絶好の機会と言えるだろう。

ガウディ　聖家族教会　下村純一撮影



●連続講演会（毎日曜日いずれも午後2時）
下村純一「バルセロナの世紀末建築-ガウディをめぐって」4月19日
樺山紘一「カタルニアへの眼-歴史と文化」4月26日
山脇一夫「バルセロナのピカソ」5月3日
巌谷國士「カタルニアのシュルレアリストたち」5月10日
●映画会（毎週土曜日午後3時）
「アンダルシアの犬」「ガウディ」など
●第17回美術劇場（4月29日㈷、5月5日㈷午後2時）
神代麻子「ピアノによるカタルニア賛歌」

「21世紀の大阪都市像」懸賞論文の入賞決まる

大阪建築法制100周年記念事業の一環として、大阪府・大阪市・大阪府建築士会共催で実施した懸賞論文の入選2点、佳作6点が決定した。なお、グランプリ該当作はなかった。

応募数50編、17～67歳の建築関係者を中心に高校生や主婦まで、大阪府域外からは7名と、予想以上にバラエティのある応募があった。そのテーマも、国際化、都心の活性化、地価抑制、景観、オープンスペース、ウォーターフロント、総合設計制度、老人住居に関するものが多かった。

今回提案されたユニークな意見やアイデアは、これからのまちづくりを検討する上に生かされていくものである。

＊

入選　2点

●「長屋シティ」への道－大阪「国際化」私論
田原直樹　昭和28年6月17日生　一級建築士

●都心及びその周辺部の活性化
岸　宰敏　昭和25年12月17日生　一級建築士
※図作成協力／吉田賢一

佳作　6点

●民活による魅力あるオープンスペースの創出について
大日本土木㈱建築企画グループ

●生活都市OSAKA
大阪ガス㈱商品開発部住宅システム技術チーム

●高齢化社会の中での家づくりと街づくり
小川瑞子　昭和19年2月9日生　主婦

●基盤整備とアメニティの同時的追求における行政のイニシアティブ
今石章治　昭和23年7月18日生　新聞記者

●ミナミの3開発(1)長堀通再開発計画(2)道頓堀再開発計画(3)千日前通再開発計画
宮崎建築設計事務所グループ

●魅力ある景観都市「大阪」をめざして
江山雅己　昭和32年11月16日生　地方公務員

第10回東京国際グッドリビングショー「かしこい住まい新時代」

単なる生活の場所から、より快適で便利なホームオートメーションを備えた家へと移り変わっていく現代の住宅状況を背景にした、「かしこい住まい新時代」のテーマのもとに、第10回グッドリビングショーは、建築素材・エクステリアなどのハードの部分から、インテリア・家具・生活用品といったソフトの部分までを一挙に展示する。

＊

会　　期：昭和62年5月1日㈮～6日㈬
会場時間：午前10時～午後4時まで
会　　場：東京都中央区晴海・国際見本市会場
入場料金：一般500円、団体400円
主　　催：社団法人東京国際見本市協会
後　　援：通産・建設・外務・農水各省、NHK

〝FORBIDDEN〟IN THE CITY－禁じられた領域－展

1 展　　示　87年5月25日㈪－5月31日㈰
場所：心斎橋ソニータワー9F　会費：無料

2 シンポジウム　87年5月30日㈯午後6時～11時
場所：大洋金物ビル　会費：2,000円

●パネラー
杉本俊太／井上章一／古山正雄／川床樹鑑

●参加メンバー
池上俊郎／北村陸夫／平山明義／本多友常／安原盛彦／吉村篤一／久保清一

●プロデュース／東孝光　●ディレクション／大島哲蔵

詳細は、－禁じられた領域－展事務局（ZOOM計画工房内06－373－2337）へ。

第3回BL国際デザインコンペティション－『ドア』を課題に

(財)住宅部品開発センター主催の標記コンペティションは、第3回目を迎え、『ドア』を課題に、海外にまで応募を求めて行われることになった。

＊

審査委員長　山下和正（建築家）
賞　　優秀賞(賞金50万円)、BL特賞(賞金50万円)
登録締切　昭和62年6月30日㈫
提出締切　昭和62年7月13日㈪
問合せ先　(財)住宅部品開発センター(☎03-586-4901)

安藤忠雄建築展 －安藤忠雄・建築の現在－

●現在は街が個性を失いつつある状況にある。
●街を構成する単位である一つ一つの建築の重要度はますます増している。
●敷地というそこだけしかない状況に直面して、建築家は敷地が発する言葉を読みとることが重要である。
●この展覧会は、一人の建築家の建築への思いがどのように昇華し、街という茫然とした現実と対峙してゆくのかという点に焦点をあてようとするものである。

*

会　期　昭和62年５月15日～５月24日
（５／21　定休日）
会　場　大阪市北区角田町７－10
ナビオ阪急３Ｆ　ナビオギャラリー



主　催　安藤忠雄建築展実行委員会
後　援　彫刻の森美術館、サンケイ新聞社、関西テレビ放送
内　容　設計過程において作られる模型、ドローイングおよび写真等の展示
●作品－東邸、小篠邸、六甲の集合住宅、TIME'S、六甲の教会
●その他計画案等－
入場料　一般　500円（前売り　400円）
学生　300円（前売り　250円）

〝TAKENAKA BOOKS〟第３弾『近代建築設備の系譜』刊行

竹中工務店では、社員研鑽の一助となることを目的に、〝TAKENAKA BOOKS〟をシリーズで刊行しているが、このほどその第３弾として『近代建築設備の系譜』（新書判、346頁）を出版した。

これは『近代建築の開拓者たち』（60年）、『遺構今昔』（61年）に続くもので、著者は、同社生産技術担当部長の中村猛氏。

ここでは、120年の建築設備の歴史を大きく３期に分けて論述。設備技術の発展に取り組んできた竹中工務店の人物や先進の技術を導入した建築作品を通して、その発展過程を分かりやすく記述している。ただし、非売品。

編集後記メモ

■桜前線も北上し、風薫る季節となりました。本号は、「東海支部」の特集として、同支部の特別編集委員会で企画された内容で構成しました。当初、３月号予定でしたが、都合で本号収録となったものです。中部地方で計画され、実施に移されようとしている６つのビッグイベントを座談会風にまとめたものと、同じく、座談会形式で、東海支部の活性化に向けてどうすべきかについて、支部役員の方々で論じてもらったものをのせています。東海の地場産業ルポも、今回の２点を合わせますと、合計10点紹介したことになります。１月号より「東海ルネサンス」というシリーズも設けており、全体として、「躍動する東海へ」という願望をくみとっていただければ幸いです。

■この１月号から新しく登場したシリーズものとして、「大先輩に聞く」があります。大先輩のたどってきた道と、その貴重な体験、さらに、若い人へのメッセージ的なものも含めて、このシリーズから大先輩の生きざまを期待したいと思っています。青樹英次氏、坂静雄氏等々、著名な先輩たちにつぎつぎと登場ねがう予定でおります。

■先日、全会員に、日本建築協会のあり方や、「建築と社会」の誌面内容について、アンケートした結果、約600名近くの方から返答が寄せられました。比較的年代の高い人たちのご意見が多かったのですが、みな貴重なご意見で感謝しています。目下、担当小委員会で集計検討中です。

■70周年記念事業の一環として、二つの単行本を企画中です。ひとつは、「住まいの絵本」で、大阪市のHOPE計画と関連しての絵本づくりで、日本建築協会で特別編集委員会を編成して、およその構想を練り終わり、目下、絵本作家の選定中です。本年度中には出版できる見込みです。

もうひとつは、以前にこの欄でも予告しましたが、「昭和生まれ一関西の建築家50」の出版です。これは「建築と社会」に連載された50人の昭和生まれの関西の建築家50人を中心とし、その作品やスケッチ、インタヴュー記事、その他貴重な座談会、年表、組織等々、新しく構成し直して編成したもので、「建築と社会」の臨時増刊号として発売されます。いまのところ、最終的な取材中で、これから編集作業に入ります。だいたい７月初めには発売できる予定です。ご期待下さい。

（松井記）

●投稿

中之島公会堂の修理・再生を！

明治建築研究会

中之島公会堂は明治45年に、懸賞設計第一等入選岡田信一郎（明治39年東京帝国大学工科大学建築学科卒業、恩賜賞受賞）案をもとに若干修正され、当時建築界の元勲といわれた辰野金吾博士、片岡安博士らの実施設計によって大正７年に完成した。（正式名称は大阪市中央公会堂）

建築様式はネオ・ルネサンスと呼ばれるもので、19世紀の欧米の建築様式を取り入れ、外観は美しい煉瓦造でつくられているが、内部には鉄骨鉄筋コンクリート造の新しい構造が採用されている。

公会堂は建築学的に重要というだけでなく、大阪文化の殿堂として政党の演説会、普通選挙期成同盟会、軍備制限大演説（大正８、９年頃）など大正デモクラシーの舞台、ロシア歌劇団の「アイーダ」公演（大正８年）、イタリア歌劇団の椿姫（大正12年）など、数えきれない芸術、文化の舞台として大阪の近代史にはなやかな足跡を残している。また、現代大阪の都市景観上なくてはならない名建築であり、それが、大阪市民岩本栄之助の尊い寄附や、実業界の大御所渋沢栄一らのお声がかりによって建設されたことも忘れてはならない事実である。

しかし、この名建築も、建設後約70年間風雪に耐えてはきたが、老朽化が進み、その歴史的、文化的価値が十分生かされていることはいえない状態となっている。

そこで私たち府民が「貧者の一燈」で、中之島公会堂の修理費の一部を集めようと、募金を始めた。明治の岩本氏の百万円の寄附にちなんで、「昭和の百万円募金」をしようというものである。明治期の百万円と異なり、その貨幣価値には雲泥の差があるが、ただ保存を叫ぶだけでなく、府民の浄財で修理費の一部を負担したいのである。

集まった募金は、現在、大阪市が実施している大阪市制100周年記念募金の中へ「中之島公会堂の修理再生」として寄附させていただき、作成したテレフォンカード（図案：黒川祐企憲）は、府民からの募金に対して記念にお渡しするものである。

これからの大阪の新しい都市文化の創造のためにも、このかけがえのない歴史的建造物はなんとしても残していかなければならないと思っている。

*

このささやかな募金活動が、中之島公会堂を21世紀へ残しながら活用していく一つのステップになればこの上ない喜びです。

集まったお金は個人名とともに大阪市に寄附をします。一口2,000円ですが、数口いただければ幸いです。ご寄附をいただいた方には、のちほどきり絵で描いた美しい中之島公会堂のテレフォンカードを記念にお送りします。

〔払込先〕郵便口座大阪7-4786番明治建築研究会

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区北長狭通4丁目2番4号(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目(電話811-3610)

テトカッパー防水層



防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は(一層防水)施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03 (571) 2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06 (391) 1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462 (21) 1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052 (811) 3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952 (47) 2945

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

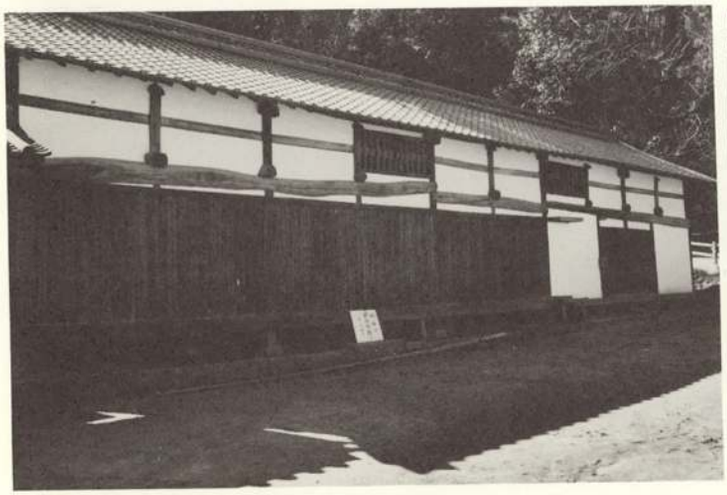
豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎ (943)6571代表

東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市東区城見ツイン21MIDタワー　電話 06—949—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082—247—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・宇都宮・千葉・川崎・富山・福井・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

空調・衛生 設計施工
防災・汚水処理

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944（代）
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ！
創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06-441-5171（大代表）〒550

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話（06）441-8231
東京本社　〒104 東京都中央区銀座2丁目2番17号　電話（03）535-5251
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話（0492）58-1511

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む
株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1.2階）
郵便番号542　電話 大阪（06）768—5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768—1655 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京（03）262—3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区堂島1-5-33（中国銀行ビル）
電話 06-(346)-2581(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇部宮・静岡・苫小牧

商品は空気です。
熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社
●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工
本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—344—1851（大代）　大阪本社 ☎06—448—3603（代）
大阪支社 ☎06—448—5851（代）　名古屋支店 ☎052—211—1535（代）　中国支店 ☎082—247—5541
九州支店 ☎092—431—2147（代）　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
取締役大阪支店長　堀亀久治

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話　大阪（202）代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

空気調和
給排水衛生
搬送機設備
設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06—364—6661（代表）
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03—211—8511（代表）

空気調和設備
衛生設備
設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06—313—1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電0720—49—2128

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備
設計施工
東洋熱工業株式会社 大阪支店
大阪市西区靱本町3－1－27　TEL(443) 8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支店　名古屋・福岡

空調・衛生・防災設備　設計並施工
日本管工業株式会社
本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

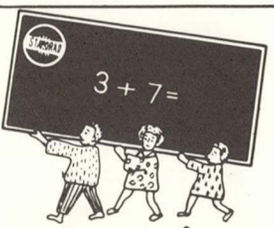
給・排水・衛生・消火・暖冷房設備
㈱西原衛生工業所大阪店
大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

Carrier
冷暖房は
CARRIER
キャリア
東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工
髙砂熱学
大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話大阪(372) 2511(代表)
本社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

営業種目
空気調和・衛生設備工事・設計・施工
平山工業株式会社
大阪市西区江戸堀1丁目22番7号
☎06－441－1994・443－0331

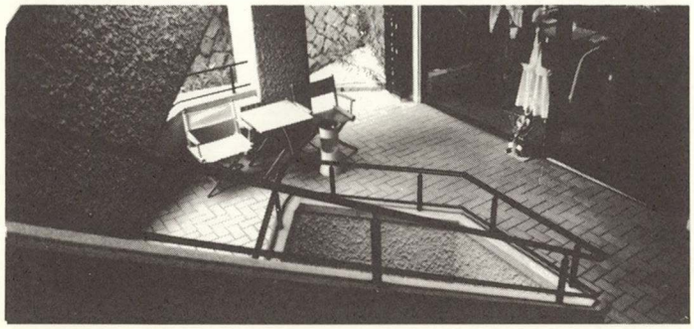
"屋根改修工事には府板ルーフ66を"
通産大臣認可　全日本板金工業組合連合会　大阪支部
建設大臣認可　社団法人日本建築板金協会　大阪支部
知事認可　大阪府板金工業組合
理事長　福本大元
〒530 大阪市北区西天満4丁目2番4号　電話 06－364－3774㈹

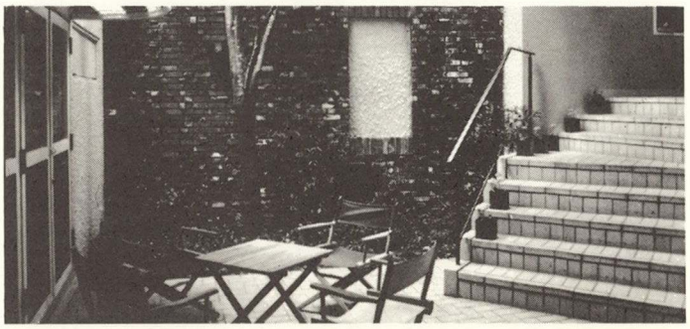


Standard　Board&Slate
フタバ工業
〒547　大阪市平野区加美北3－4－5　TEL 大阪06(792)5858㈹

白あり
木材保存のトップメーカー
サンヨー
住まいのガン細胞、しろあり公害を未然に防ぎましょう。
⊙シロアリ予防・駆除・施工(10ヶ年保証付)
⊙製造販売　サンブレザー（予防剤認定）
サンソイル（土壌処理剤）
PGスケヤー(加圧注入防腐木材・土台・大曳用)
山陽木材防腐株式会社
大阪営業所　〒541 大阪市東区北浜3丁目7 信愛ビル　☎06-231-6406
化成品部　〒101 東京都千代田区神田須田町1-26 芝信神田ビル　☎03-254-0831

活字のない印刷
日本写植印刷株式会社
代表取締役　神田都義
本社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111㈹
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100





電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385) 1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6168

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川崎・相模原・堺・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所 全国主要都市32ヶ所

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06－364－3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

――誠実と技術でお応えする――

住友電設

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

住友電設株式会社
本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理
●電力工事 発変電設備工事 架空送配電線工事 地中送配電線工事
●設備工事 ビル電気設備工事 工場電気設備工事 防爆電気設備工事 計装工事 空調工事 給排水衛生工事 特殊配管工事 消防施設設備工事
●プラント工事
●情報システム工事 光伝送システム工事 CATVシステム工事 各種アンテナ装置工事

内外産建築用大理石 テラゾーブロック
花崗岩・其ノ他石材 テラゾータイル
ネオパリエ 各種カラー平板

株式会社 旭大理石工作所

本社工場 〒535 大阪市旭区中宮1丁目10番9号 電話(06)954-6661代表
京都工場 〒610-03 京都府綴喜郡田辺町大住 電話(07746)2-0374
岡山工場 〒709-04 岡山県和気郡和気町大字原 電話(08699)3-1365

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市新町50



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七五四五
ファックス 五六一～七五四六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、

模型製作
石膏模型・アクリル模型製作

宮岡建築模型製作所
〒103 東京都中央区日本橋浜町3 14 11
電話 (03)669 7565 FAX (03)669 7565

造園設計施工

富士造園土木株式会社

〒665 宝塚市山本東2－6－17
電話 0797－88－0501(代)

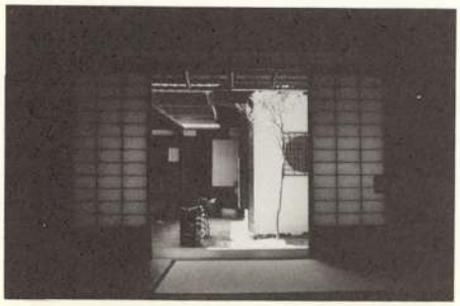
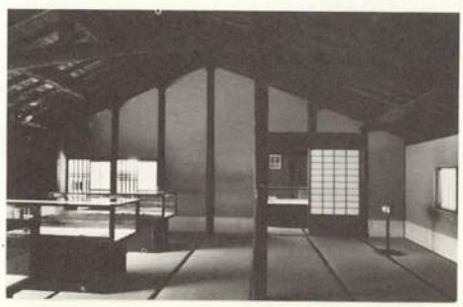
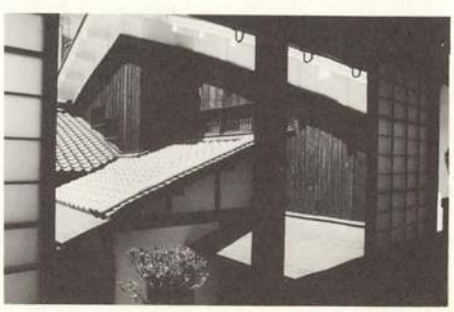
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元 日曹マスターピルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社／東京都港区六本木３－16－26 ☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜３－７ ☎ 06-202-3294

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－21
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
（膨張性混和材）
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
（グラウト用無収縮材）
●デンカキューテックス……コンクリート躯体の漏水補修に
（止水・補修用急硬セメント）
●デンカES……地盤補強用薬液注入
（土質安定用急硬材）
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
（製品用超高度混和材）
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000
株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381

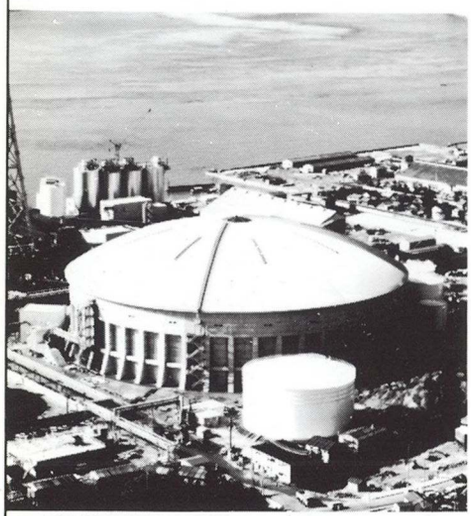
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)
ホーンタイト(防音壁)・其の他

※ カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業部　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

建築技術出版案内

構造技術者のための　●通巻総目次付
建築構造問題快答集 8

昭和54年に刊行された第１巻が構造設計に携わる皆様方に好評をいただき、以後次々に巻を重ねてきたシリーズものの第８巻で、その充実した内容は高く評価されています。なお今回は、読者の皆様方からの要望の多かった１巻から８巻までの総目次を別刷りで付録としました。

石黒徳衛　監修　　A５判・182頁・定価2900円

インテリジェントビル**Q&A**
ことばがわかる！ 仕組がわかる！
これからのオフィスビルの設計

監修：沖塩荘一郎　B５判・144頁・定価2300円

近年の情報化の進展や社会環境の変化から、オフィスの内容は急激に変わりつつある。オフィス空間に電子機器が大量に入りこんできている。オフィス空間に対する要求も大幅に変化してきている。配線処理、セキュリティ対策、ＶＤＴに対応した照明・採光、機器発熱への対応、休憩室などの整備、面積など、在来のオフィス計画とは多くの面で違いがでてきている。この本は、オフィスビルの変化と対応策を判りやすく解説している。

（監修者のことばから）

月刊 建築技術 4

No.428　全国書店で好評発売中！　定価 1000円

■ 特別連載企画 ■

●建築ソフト　●補修・改修

建築データベース編
企画提案書の作成には適地選定、法規検索、地図情報及び資金計画等が不可欠だが、これらの必要情報を商用データベースを使って効率よく収集するノウハウを示すとともに、社内データベースについても言及する。

陸屋根防水の改修
陸屋根防水の工法別市場占有率が世界的に大きく変わりつつあるなかで、新しい技術動向と材料・工法のほか、某住宅団地で屋上防水の改修工事が行なわれたときの発注者の体験資料などを紹介する。

軟弱粘性土地盤における建築基礎構造の問題点と対策
官庁施設の修繕措置判定手法(案)……山肩 邦男
関西大学工学部建築科教授
制振鋼板の建築への利用……島田 啓三
複合壁体を用いた建物の省エネ効果……千葉範夫ほか
海外から見た日本の建築技術……大島 一夫
北国からの便り　新しい木造建築物の試み……李 利衡
アトリウムの利点と問題点　防災の観点から……米田昌世ほか
ＴＯ ＢＥ ＯＲ ＮＯＴ ＴＯ ＢＥ……古瀬 敏
世界の大規模木造建築を訪ねて(2)　ヨーロッパ編……清家 清

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1中島ビル　株式会社 建築技術　TEL03(363)4211　FAX03(366)3876



TAJIMA

美しさでセンイ。早さでタイル。
トータル性能で、タジマです。

それぞれの床に、それぞれのタジマ・センイ床タイル。

同じ床でも、求められる役割はさまざま。丈夫で美しく、感触がよく、そのうえ防炎性や制電効果がほしいなど。タジマのセンイ床タイル（タイルカーペット）なら、用途も色もたっぷりラインアップ。特殊コンパウンドのバッキング層は、目地つなぎ、寸法変化の問題を解消。スピード施工で手間いらず、メンテナンスも容易など、どの製品にも床材の総合メーカーならではの技術が生かされています。



タジマのセンイ床タイルシリーズ

クラブ	ビショップ
エレキャン	タピス
プレーヌ	タピス SX・FG
ルーク	プローチェ

床を創る

株式会社 タジマ

東京●〒101東京都千代田区岩本町3-11-13
TEL 03(866)6101代表
大阪●〒550大阪市西区京町堀1-10-5
TEL 06(441)5951代表

建築と社会　第68輯第4号
昭和62年4月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪(345)0831
定価九五〇円（送料共）
正会員の購読料は会費に含めて徴収
表紙スケッチ・吉田隆一（説明目次頁）